

專 門 科 目

授業科目名 (ナンバリングコード)	解剖生理学 (131A0-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)		
担当教員名	與谷 謙吾				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	—		
授業の概要	解剖生理学は身体の一般的な「構造」や「機能」を把握する学問であり、その基準(一般)となる知識を理解することで対照的な症状等の理解へも繋げることができる。そのため、本講義では「かたちが解ればはたらきが見えてくる」という格言を軸に身体各構成要素を器官、組織、細胞レベルの順に講義していく。人体の基礎的知識を身につけることで、将来ヒトを見る・指導する体育指導などの分野に役立つと期待される。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	人体の仕組み(構造・機能)を系統的に理解できるようにする					○	100
	□情意的領域							
□技能的領域								
成績評価の基準	授業中に解説・紹介した解剖生理学の知識に関する理解度を筆記試験によってのみ評価し、60点以上の者を合格とする。							
テキスト、教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書：「解剖生理学」(高野廣子 著、南山堂) ISBN: 4-525-60081-0 ・参考書：「ぜんぶわかる人体解剖図」(坂井建雄、橋本尚詞 著、成美堂出版) ISBN:978-4-415-30619-3 ・配布資料：講義内容に応じて適宜配布する。 							
履修条件・ 関連科目	運動生理学を履修予定の学生は本講義を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	本講義(対面形式)では、私語等による授業妨害はマイナス評価で取り扱う。					
オフィス・アワー	與谷：随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	與谷 謙吾	オリエンテーション：かたち(解剖)とはたらき(生理)			今後の講義予定を確認し、来週以降から実施するテーマについて情報収集する。(30分間)			
2	〃	外部からみた人体の構造(上肢や下肢などの人体の名称について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
3	〃	内部からみた人体の構造(内臓の名称や位置について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
4	〃	人体の器官系①：呼吸・循環系(ガス交換や動脈・静脈などについて)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
5	〃	人体の器官系②：消化器(食道から肛門までの消化・吸収などについて)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
6	〃	人体の器官系③：泌尿器(水分調節や尿生成について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
7	〃	人体の組織①：骨(関節の名称や成長・成熟などについて)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
8	〃	人体の組織②：骨格筋の構造(筋肉の種類や名称などについて)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
9	〃	人体の組織③：骨格筋の収縮(滑走説や興奮収縮連関などについて)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
10	〃	人体の組織④：脳と脊髄(中枢神経系に関する構造・機能について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
11	〃	人体の組織⑤：運動神経と感覚神経と自律神経(末梢神経に関する構造・機能について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に、末梢神経に関する構造・機能について復習を行う。(60分間)			
12	〃	人体の組織⑥：神経の伝導路(上行伝導路(感覚)と下行伝導路(運動)の役割について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
13	〃	人体の感覚器①：目(眼球の構造や視機能について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			
14	〃	人体の感覚器②：耳(聴覚と平衡覚について)			本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(60分間)			

15	"	人体の細胞（細胞小器官と興奮発生の機序について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。 (60分間)
16	"	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学概論 (131A0-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)			
担当教員名	山田 理恵・森 克己・中村 勇				補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	1年次		受け入れ人数	150名程度			
授業の概要	<p>本授業では、人間の身体や身体運動をめぐる諸事象について、哲学的、倫理的立場から考察することを通して、今日の体育・スポーツをとりまく課題や身体運動文化の意義、望ましい在り方を考究する。</p> <p>それらによって、専門的な知識を活用し、論理的に考え表現できる能力、課題解決に向けて考え実践できる能力を身につけることが期待される。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・ 教養 (課題解決能力、科学的表現力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的 領域	現代社会の体育・スポーツをめぐる倫理的問題を考察し、課題解決の方法について論じることができる。	○	○	○				70
	■情意的 領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○	○	○				30
□技能的 領域									
成績評価の基準	毎授業時間内に随時実施する小レポートまたは小テスト、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。								
テキスト、教材 参考書	<p>テキストとして、福永・山田・西園編『体育・スポーツ科学概論－体育・スポーツの新たな価値を創造する－』（大修館書店、2020年初版第3刷）を購入すること。</p> <p>参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。</p>								
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	<p>テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習・復習すること。</p> <p>受講者数の関係上、教員免許取得を希望する者を受講対象者とする。</p>						
オフィス・アワー	随時（山田：705研究室、森：508研究室、中村：503研究室）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	山田 理恵	「体育学」へのアプローチ			テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）				
2	〃	「体育」の概念			テキスト・参考書・資料等の予習および予習（60分以上）				
3	〃	「スポーツ」の概念			テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）				
4	〃	体育・スポーツと「競争」「倫理」			テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）				
5	〃	プレイ論			テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）				
6	〃	オリンピック・パラリンピックとスポーツの価値			テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）				
7	中村 勇	武道の歴史			テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）				
8	〃	武道の思想とシステム			テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）				
9	〃	武道の国際化			テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）				
10	森 克己	スポーツの哲学・倫理と法			テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）				
11	〃	ドーピング問題			テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）				
12	〃	身体とスポーツ指導者の体罰・虐待問題			テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）				
13	〃	スポーツにおける子ども保護			テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）				
14	〃	スポーツにおけるアスリートの人権問題と課題			テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）				
15	山田 理恵 森 克己 中村 勇	体育・スポーツを取り巻く課題解決に向けて			テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツ史 (131A0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)				
担当教員名	山田 理恵			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	70名程度				
授業の概要	本授業では、体育・スポーツの歴史を通史的に概観し、各時代、各社会における体育・スポーツの特質を考察することを通して、体育・スポーツに対する理解を深め、将来の身体文化の在り方を考究する。 それらによって、専門的な知識に基づいて、論理的に考え表現できる能力および課題解決に向けて考え実践できる能力を身につけることが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的表現力、専門的な知識・教養 (課題解決能力)	授業期間				割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表		定期 試験	その他
	■認知的 領域	体育・スポーツをめぐる諸現象を歴史的に論じることができる。 各時代、各社会における体育・スポーツの特質を論じることができる。		○	○		○		80
	■情意的 領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○	○	○				20
□技能的 領域									
成績評価の基準	授業時に実施する小テスト（前回の授業内容について）や小レポート、課題（レポート2課題）、学期末試験（論述式）の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。								
テキスト、教材 参考書	テキストとして、木村吉次編著『体育・スポーツ史概論 改訂3版』（市村出版）を購入すること。 参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習・復習（次の授業時に実施する小テストの準備も含む）をすること。						
オフィス・アワー	随時（705研究室）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	山田 理恵	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）						
2	〃	人類の進化とスポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
3	〃	古代ギリシア・ローマの体育・スポーツ	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（50分以上）						
4	〃	古代日本の体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
5	〃	中世西洋・日本の体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
6	〃	近世日本の体育・スポーツ①	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
7	〃	近世日本の体育・スポーツ②	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
8	〃	近代体育の源流と国民体育理論の展開	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（50分以上）						
9	〃	欧米近代スポーツの日本への移入と展開	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
10	〃	近代オリンピックの展開	テキスト・参考書等の予習（レポート作成を含む）、復習（240分以上）						
11	〃	戦争と体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
12	〃	戦後の復興と体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
13	〃	スポーツと国際平和	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）						
14	〃	競技の歴史とオリンピック・パラリンピック・ムーブメント	テキスト・参考書等の予習（レポート作成を含む）、復習（240分以上）						
15	〃	伝統スポーツの現代的意義	テキスト・参考書等の予習および復習（240分以上）						
16	〃	学期末試験（論述式）	テキスト・参考書・資料等の予習（学期末試験の準備）および復習（240分以上）						

授業科目名 (ナンバリングコード)	健康教育学 (131A0-1303)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)	
担当教員名	未定				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度	
授業の概要	健康、病気に関する概念や知識について、生活習慣病を中心として学ぶ。また、健康維持・増進や疾病予防の方策を、主に行動科学や心身医学の観点から学ぶ。 健康づくりを指導し、普及させるための基礎的な知識を身につける科目である。						
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法			
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				割合 %
			授業	テスト	レポート	発表	
	■認知的領域	健康や疾病の概念について理解し、生活習慣病等の原因や予防法について説明できる。		○	○		
■情意的領域	授業に積極的に参加し、教師からの質問に対しても自分の考えをまとめて回答できる。授業を受ける者のマナーを守る。	○					20
□技能的領域							
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席は 2/3 以上を最低基準とする。授業中に私語などで複数回注意を受けたものは、減点の対象とする。 4回的小テストやレポートの成績、授業に対する積極的な取り組みなどを総合的に評価する。 小テストを正当な理由で受けられなかった場合は、欠席届を提出し、与えられた条件を満たしたレポートを提出すれば採点の対象とする。 総合得点60点以上を合格とする。 						
テキスト、教材 参考書	講義内容はWebClassに掲載するので、必要であれば各自印刷すること。 参考書：「健康行動と健康教育—理論、研究、実践」、曾根智史ほか 訳、医学書院。「健康教育—ヘルスプロモーションの展開」、日本健康教育学会 編、保健同人社。「特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル」、佐藤祐造ほか 編、文光堂						
履修条件・ 関連科目	本授業の内容は、2年次後期に開講される学校保健の基礎知識として重要である。	備考(教員メッセージ含む)	WebClassにコースを開設している。授業で使用するPowerPointファイルを開覧できる。 小テストを受けられなかった場合のレポート提出の要件は、WebClassコース（初回）に掲示する。				
オフィス・アワー							
授業計画							
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	未定	健康ならびに健康教育の概念、体力と運動能力の測定法	WebClass による予習・復習 1時間				
2	〃	健康とホメオスタシス、ストレスとストレス対処法	WebClass による予習・復習 1時間				
3	〃	健康行動と行動変容、うつ病、メディカルチェック	WebClass による予習・復習 1時間				
4	〃	生活習慣病と特定健康診査・保健指導、国民健康づくり運動	WebClass による予習・復習 1時間				
5	〃	肥満・肥満症	WebClass による予習・復習 1時間				
6	〃	高脂血症（脂質異常症）	WebClass による予習・復習 1時間				
7	〃	高血圧症	WebClass による予習・復習 1時間				
8	〃	メタボリックシンドローム	WebClass による予習・復習 1時間				
9	〃	糖尿病・耐糖能異常	WebClass による予習・復習 1時間				
10	〃	虚血性心疾患とリハビリテーション	WebClass による予習・復習 1時間				
11	〃	がん（悪性新生物）	WebClass による予習・復習 1時間				
12	〃	軽度認知障害・認知症	WebClass による予習・復習 1時間				
13	〃	その他の生活習慣病、運動療法が適応となる疾患	WebClass による予習・復習 1時間				
14	〃	スポーツ障害と予防（内科的障害を中心に）	WebClass による予習・復習 1時間				
15	〃	健康教育と行動医学、心身医学	WebClass による予習・復習 1時間				

※担当教員未定のため、内容に変更が生じることがあります。

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生理学 (131A0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)				
担当教員名	田巻 弘之・堀内 雅弘			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	—				
授業の概要	一過性の運動やトレーニングを行うと、生体諸機能は瞬時にあるいは長期間にわたり合目的に亢進・抑制され、それぞれの状況に対してバランス良い応答・適応を起こす。本講義では、外界の反応に対してすばやく反応する動物性機能（感覚系、筋運動系、これらを制御する中枢神経機能系）と、それ以外の生命維持に必須な基本的条件を維持する植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系、内分泌系等）に大別し、身体を構成している器官・組織およびそれらの固有機能がどのように応答・適応していくか、その法則性（メカニズム）に関する理論を概説する。これにより、科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニング、さらには健康体力増進のための運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割に関する基礎的知識を習得することが期待できる。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	一過性の運動や定期的トレーニング、不活動等に対する神経系、筋肉系、呼吸系、循環系、代謝系、内分泌系の生理応答・適応に関する基礎的知識を理解している。					○		100
	□情意的領域								
□技能的領域									
成績評価の基準	授業中に解説・紹介した運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	(教科書) 改訂版 運動生理の基礎と応用 (春日規克・竹倉宏編著、フリースペース、2,600円 税別) (参考書) 参考書及び参考資料については必要に応じて授業中に紹介して配付する。								
履修条件・ 関連科目	身体科学論、解剖生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)							
オフィス・アワー	田 巻：随時⇒メールであらかじめ予約をしてもらえれば有難いです。305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 堀 内：随時⇒メールであらかじめ予約をしてもらえれば有難いです。303研究室 mhoriuchi@nifs-k.ac.jp								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	田巻 弘之	オリエンテーション 運動生理学概論、筋力について			オリエンテーションの内容を参考に、教科書を用いて全体的な予習をする(1時間)				
2	"	筋力・筋パワーとその神経性調節機構			力とパワーの違い、運動単位、サイズの原理についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。(1時間)				
3	"	骨格筋の微細構造と収縮機構、筋線維タイプとトレーニング			骨格筋の微細構造と興奮-収縮連関についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。(1時間)				
4	"	筋疲労とエネルギー供給：筋機能低下の現象と機序			筋疲労のメカニズム、筋線維タイプとスポーツの競技特性との関係についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。(1時間)				
5	"	トレーニングと筋肥大の原則、効率			筋肥大の原則についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。(1時間)				
6	"	筋収縮様式と筋損傷、筋痛と炎症、再生			実際の関節運動時の筋収縮様式や筋損傷、再生のプロセスについてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。(1時間)				
7	"	脊髄反射と運動制御(脳神経系)：スキルとトレーニング			実際の運動場面で関与している反射についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。(1時間)				
8	堀内 雅弘	エネルギー供給系の運動生理学 3つのエネルギー供給系と栄養、疲労、運動パフォーマンスとの関係 心臓～血流再分配によるエネルギー供給			各エネルギー供給系の特徴、基質利用と栄養摂取、筋疲労の要因とパフォーマンスとの関連についてまとめる(1時間)				
9	"	呼吸の運動生理学(1)呼吸器系のしくみと安静時および運動時の呼吸循環応答			運動強度の変化にともなう呼吸循環応答についてまとめる(1時間)				
10	"	循環の運動生理学(2)運動時の循環応答(末梢血管・血圧応答)			運動時の循環応答(末梢血管・血圧応答)についてまとめる(1時間)				
11	"	運動時の代謝(糖・脂質・タンパク質)について			運動時の代謝(糖・脂質・タンパク質)についてまとめる(1時間)				
12	"	免疫とホルモン、およびこれらの運動時応答について			免疫とホルモンについて代表的なものを整理して理解する(1時間)				
13	"	環境生理学～暑熱・寒冷環境における運動生理学～			運動時の体温調節についてまとめる(1時間)				
14	"	環境生理学2～高所(低酸素)環境における運動生理学～			低酸素下における運動時の生理応答についてまとめる(1時間)				

15	"	脱トレーニングの影響、ウォーミングアップ・クーリングダウンの意義と生理的効果	脱トレーニングの影響、ウォーミングアップ・クーリングダウンの生理応答についてまとめる（1時間）
16	田巻 弘之 堀内 雅弘	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学 (131A0-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)			
担当教員名	石澤 里枝				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	180名程度		
授業の概要	スポーツ・武道、並びに体育・健康づくりの専門化を目指す体育大学学生にとって必要な栄養学に関して、基礎的・専門的な知識を講ずる。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・摂取する栄養素およびその消化吸収・代謝までを理解する。 ・栄養と運動パフォーマンスの相互作用を理解する。		○			○		80
■情意的領域	・スポーツ選手によって必要な栄養素や食事に関心を持つ。	○	○					20	
□技能的領域									
成績評価の基準	認知的領域は主に定期試験で評価する。情意的領域は授業後の確認テストの記入により評価する。2領域を合計して、60点以上を合格とする。								
テキスト、教材 参考書	その都度配布する。								
履修条件・ 関連科目	生物化学論・運動生化学・運動生理学・解剖生理学		備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	未定								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	石澤 里枝	食生活と健康運動			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
2	〃	消化と吸収の機構			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
3	〃	栄養素の機能と代謝			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
4	〃	運動時のエネルギー代謝(糖代謝)と運動パフォーマンス			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
5	〃	運動時のエネルギー代謝(脂質代謝)と運動パフォーマンス			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
6	〃	運動時のエネルギー代謝(アミノ酸代謝)と筋肥大			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
7	〃	スポーツ選手の身体組成、身体活動量の定量法とその実際			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
8	〃	ビタミン・ミネラル			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
9	〃	水分補給			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
10	〃	サプリメント			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
11	〃	栄養・食事アセスメント(低栄養状態・貧血予防・疲労骨折)			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
12	〃	栄養・食事指導の基本1			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
13	〃	栄養・食事指導の基本2			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
14	〃	アメリカスポーツ医学会によるスポーツ栄養のガイドライン			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
15	〃	まとめ			配布資料を参考に本日の授業を復習する(30分)。				
16	〃	学期末試験							

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学 (131A0-1307)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)			
担当教員名	北村 尚浩			補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	130名程度			
授業の概要	スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考究する。生涯スポーツや競技スポーツの現場での諸現象について、社会学的立場から批判的、実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望を明らかにする。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	講義全般に関する基礎的知識を有する			○	○		80
	■情意的領域	授業に参加し講義内容に関する疑問に積極的に応える	○			○		15
■技能的領域	課題レポート作成技術			○			5	
成績評価の基準	学期末試験の成績70%に、出席、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況、小レポート、課題レポート等30%を加えて総合的に評価する。							
テキスト、教材 参考書	テキスト：川西正志、野川春夫編著「改訂4版生涯スポーツ実践論」市村出版 参考書：池田勝、守能信次「講座スポーツの社会科学—スポーツの社会学」杏林書院							
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	ゼミ希望者は前もって履修しておくこと。授業ではiPadを使用します。					
オフィス・アワー	研究棟6階 610研究室 (予約制)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	北村 尚浩	オリエンテーション	Reading assignment (30分以上)					
2	〃	スポーツ社会学とは	Reading assignment (30分以上)					
3	〃	プレイ論	新聞雑誌記事の収集 (30分以上)					
4	〃	スポーツへと社会化	Reading assignment (30分以上)					
5	〃	スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本法とスポーツ庁	Reading assignment (30分以上)					
6	〃	スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本計画	Reading assignment (30分以上)					
7	〃	青少年のスポーツ	新聞雑誌記事の収集					
8	〃	加齢とスポーツ：高齢者スポーツとQOL	Reading assignment (30分以上)					
9	〃	障害者スポーツの現状と課題	Reading assignment (30分以上)					
10	〃	スポーツによる地域活性化(1)：総合型地域スポーツクラブ	Reading assignment (30分以上)					
11	〃	スポーツによる地域活性化(2)：スポーツイベントとスポーツツーリズム	Reading assignment (30分以上)					
12	〃	スポーツ指導者制度とスポーツボランティア	Reading assignment (30分以上)					
13	〃	スポーツとビジネス	Reading assignment (30分以上)					
14	〃	大学スポーツ	Reading assignment (30分以上)					
15	〃	スポーツと暴力	Reading assignment (30分以上)					
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント概論 (131A0-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)				
担当教員名	関 朋昭			補助担当者名	棟田 雅也				
単位数	2 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	150				
授業の概要	スポーツは一人ではできません。まずは「体育」と「スポーツ」の違いを深く理解するために原理的な理論を提供していきます。特に本授業は経営学の知見をベースとしており、ここにスポーツマネジメントの意義があります。講義の中では、「組織論」を中心に進めていきますが、特に組織と個人の関係性は全講義を通じて共通の課題となり、それをベースに概説していきます。すなわち組織と個人の構造的な仕組みを理解することができ、リーダーシップを発揮するための基礎知識が身につくことが期待されます。現代のスポーツを取り巻く話題についても毎回講義で取り上げていきますので、マネジメントの理論を駆使しながら、これまでの自分の経験や身近な出来事などを相対化できる力を学ぶことができます。つまり物事を多面的に捉える力、一般教養・倫理を身につけることにつながります。将来スポーツに携わる職業につくキャリアデザイン力を高め、専門的な知識・教養を養うことが期待されます。毎時間小レポートを提出することになりますが、講義内の理論を駆使しなくてはならず、科学的表現力を培うこととなります。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	リーダーシップ、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
		(リーダーシップ、科学的表現力、専門的な知識・教養)	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツに関するマネジメントの知識を理解することができる(専門的な知識・教養)。 ・現場の課題解決のために、その因果を深く考察することができる(一般教養・倫理)。	○	○	○	○			40
	■情意的領域	・積極的に講義に参加できる(リーダーシップ、キャリアデザイン力)。 ・人前で自分の意見を発表することができる(リーダーシップ)。	○	○	○	○			40
■技能的領域	授業で学習した専門知識を用いてテストやレポートで文章表現ができる(科学的表現力)。	○	○	○	○			20	
成績評価の基準	授業後のテスト、授業への取り組み状況、レポート等を総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参考書	授業中に資料を配付する								
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	火曜日 10時10分から11時40分 研究棟6階 関教員室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	関 朋昭	授業ガイダンス・スポーツとマネジメントの概念			予習1時間+復習1時間				
2	〃	スポーツにおける意思決定			予習1時間+復習1時間				
3	〃	スポーツにおけるナレッジマネジメント			予習1時間+復習1時間				
4	〃	スポーツの組織論(組織構造)			予習1時間+復習1時間				
5	〃	スポーツの組織(理念)			予習1時間+復習1時間				
6	〃	スポーツの組織論(組織行動)			予習1時間+復習1時間				
7	〃	スポーツの組織論(動機づけ理論)			予習1時間+復習1時間				
8	〃	スポーツの組織論(個人と組織)			予習1時間+復習1時間				
9	〃	スポーツにおけるリーダーシップ(特性論)			予習1時間+復習1時間				
10	〃	スポーツにおけるリーダーシップ(行動論)			予習1時間+復習1時間				
11	〃	スポーツにおけるフォロワーシップ			予習1時間+復習1時間				
12	〃	スポーツの倫理(スポーツマンシップ)			予習1時間+復習1時間				
13	〃	日本の部活動におけるマネジメント			予習1時間+復習1時間				
14	〃	スポーツマーケティング			予習1時間+復習1時間				
15	〃	スポーツの科学的管理法			予習1時間+復習1時間				

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学概論 (131A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)				
担当教員名	大勝 志津穂			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	—				
授業の概要	<p>高齢者、青少年、障害を持つ人、妊婦などどんな人でも運動やスポーツを行う権利を持っている。運動やスポーツは、高齢者にとっては生きがいや楽しみ、中高年にとってはメタボリックシンドロームや生活習慣病の予防、青少年にとっては体力や運動能力の向上、勝利の追求など、それぞれのライフステージにおいて様々な役割を担っている。</p> <p>本講義では、現在の日本の運動やスポーツにおける環境状況を把握するとともに、一生涯を通じて誰もが運動やスポーツに関わることのできる環境や方策について学習する。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	各回の予習課題・授業課題を通じて基礎的知識を習得するとともに、生涯スポーツに関わる課題に対して解決方法を考えることができるようになる。		○	○				80
	■情意的領域	予習・復習の課題に真剣に取り組み、完成度の高いレポートに仕上げる努力ができる。授業内での質疑に積極的に応えることができる。	○						20
□技能的領域									
成績評価の基準	予習課題・授業課題の完成度（60%）、まとめ課題レポート（20%）、授業への参加態度及び課題への取り組み姿勢（20%）								
テキスト、教材 参考書	テキスト：川西正志・野川春生編著「改訂4版 生涯スポーツ実践論」市村出版								
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)							
オフィス・アワー									
授業計画									
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	大勝 志津穂	生涯スポーツの概念		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
2	〃	世界の生涯スポーツ政策・施策		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
3	〃	日本の生涯スポーツ政策・施策		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
4	〃	生涯スポーツとアウトドアビジネス		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
5	〃	生涯スポーツとビジネス		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
6	〃	生涯スポーツとヘルスプロモーション		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
7	〃	生涯スポーツイベント		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
8	〃	生涯スポーツ指導者とボランティア		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
9	〃	青少年のスポーツ参加		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
10	〃	高齢者のスポーツ参加		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
11	〃	障がい者のスポーツ参加		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
12	〃	生涯スポーツとニュースポーツ		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
13	〃	スポーツクラブの運営・プロモーション		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
14	〃	スポーツ施設のマネジメント		予習課題(30分)、授業課題 (60分)					
15	〃	まとめ「生涯にわたりスポーツを行うには」		課題レポート (90分)					

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学 (131A0-1310)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)		
担当教員名	森 司朗				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	1年次		受け入れ人数	150名程度		
授業の概要	この科目は、心理学的立場からの運動指導の能力を身につける科目である。具体的には、ジュニア期からの運動指導の場で効果的な指導法を展開していくための指導の基礎となる知識と理論を提供することを目的としている。内容は「運動学習・指導」と「モチベーション」の2つを主なテーマとして相互に関連させながら進めていく。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	スポーツ心理学の基礎的知識を理解している自分の運動経験をスポーツ心理学の知識で説明できる		○	○		○	90
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む	○					10
□技能的領域								
成績評価の基準	出席が2/3以上で、授業内容（運動学習・モチベーション）の総合的理解が6割を超えていることを合格の条件とする							
テキスト、教材 参考書	杉原 隆「運動指導の心理学－運動学習とモチベーションからの接近－」（大修館書店）							
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習しておくこと					
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～17時 702研究室、体育心理学実験室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	森 司朗	オリエンテーション						
2	〃	運動に対する動機づけ 1 一人はなぜ運動をするのか			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
3	〃	運動に対する動機づけ 2 一人はなぜ運動をするのか			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
4	〃	内発的動機づけ1			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
5	〃	内発的動機づけ2			動機づけに関するレポート (30分以上)			
6	〃	運動好き運動嫌いの心理1			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
7	〃	運動好き運動嫌いの心理2			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
8	〃	目標設定と目標志向性			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
9	〃	覚醒とメンタルトレーニング1			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
10	〃	覚醒とメンタルトレーニング2			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
11	〃	運動行動の構造から見た運動学習1			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
12	〃	運動行動の構造から見た運動学習2			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
13	〃	運動行動の構造から見た運動学習3			運動行動構造から見た運動学習に関するレポート (30分以上)			
14	〃	運動学習の理論的背景1			授業内容の予習と復習 (30分以上)			
15	〃	運動学習の理論的背景2			運動学習の理論に関する復習 (30分以上)			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	バイオメカニクス (131A0-1311)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)			
担当教員名	宮崎 輝光				補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	—			
授業の概要	<p>身体の動く仕組みを力学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという。バイオメカニクスは身体運動の力学的機序の解明、パフォーマンスの評価や予測など、幅広く応用されている。</p> <p>本授業では、ヒトの身体運動を理解するうえで必要となる基礎的な知識を習得するとともに、力学を通じてヒトの身体運動を解釈する視点を学ぶ。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バイオメカニクスの授業内容に含まれるスポーツ動作の特徴を正しい専門用語を用いて正しく理解する	○	○			○		70
□情意的領域									
■技能的領域	バイオメカニクスの専門用語を正しく使える技能を習得する	○	○			○		30	
成績評価の基準	<p>基本的に毎回出席をとる。出席が2/3以上の者について、試験の成績が60点を超過していることを合格の条件とする。</p> <p>合格者に対して、試験の成績、小テスト等を勘案して、総合的に評価する。</p>								
テキスト、教材 参考書	<p>授業時に資料配布</p> <p>参考書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良, 藤井範久, 朝倉書店 (2002) 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀, 吉岡伸輔, ラウンドフラット (2011) 『スポーツバイオメカニクス (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)』, 岡田英孝, 藤井範久, 宮西智久 (編集), 化学同人 (2016) 『スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック』, 宮西智久, 化学同人 (2020)</p>								
履修条件・ 関連科目	必ずしも履修している必要はないが、バイオメカニクスのための物理・数学 (1年後期) の内容を習得していることを前提に授業を行う。		備考(教員メッセージ含む)	不足する知識 (数学・物理など) は自習によって補うこと					
関連科目	解剖生理学 運動生理学 トレーニング科学概論								
オフィス・アワー	随時 研究棟4階 408教員研究室 (t-miyazaki@nifs-k.ac.jp)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	宮崎 輝光	イントロダクション バイオメカニクス分野の研究について 1) 陸上や水中でのスポーツ動作の測定方法 2) バイオメカニクス分野のさまざまな研究 3) バイオメカニクス研究の意義			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
2	〃	バイオメカニクスを学ぶための基礎知識 1) 必要な数学・力学の基礎知識 2) スポーツ動作を評価するための指標 (姿勢, 関節トルク, 力学的エネルギーなど)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
3	〃	並進運動① 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する (位置・速度・加速度, 重心位置, 運動方程式, 質量など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
4	〃	並進運動② 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する (位置・速度・加速度, 重心位置, 運動方程式, 質量など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
5	〃	並進運動③ 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する (位置・速度・加速度, 重心位置, 運動方程式, 質量など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
6	〃	並進運動④ 身体運動を正しく評価するための並進運動に関する力学の基礎を講義する (位置・速度・加速度, 重心位置, 運動方程式, 質量など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
7	〃	回転運動① 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する (角度・角速度・角加速度, 角運動量, 慣性モーメント, 運動方程式など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
8	〃	回転運動② 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する (角度・角速度・角加速度, 角運動量, 慣性モーメント, 運動方程式など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
9	〃	回転運動③ 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する (角度・角速度・角加速度, 角運動量, 慣性モーメント, 運動方程式など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				
10	〃	回転運動④ 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する (角度・角速度・角加速度, 角運動量, 慣性モーメント, 運動方程式など)			授業内容の予習・復習を行う。(1時間)				

11	"	回転運動⑤ 身体運動を正しく評価するための回転運動に関する力学の基礎を講義する (角度・角速度・角加速度, 角運動量, 慣性モーメント, 運動方程式など)	授業内容の予習・復習を行う。(1時間)
12	"	その他の話題(バイオメカニクス分野の研究手法など)① 1) 陸上や水中でのスポーツ動作に関する研究(走・跳・投, 水泳など) 2) 分析の際に必要なヒト身体モデル化(剛体リンクモデル, 筋骨格モデル) 3) 身体運動に関わる骨格筋の構造と機能(力-長さ関係やモーメントアームなど) について	授業内容の予習・復習を行う。(1時間)
13	"	その他の話題(バイオメカニクス分野の研究手法など)② 1) 陸上や水中でのスポーツ動作に関する研究(走・跳・投, 水泳など) 2) 分析の際に必要なヒト身体モデル化(剛体リンクモデル, 筋骨格モデル) 3) 身体運動に関わる骨格筋の構造と機能(力-長さ関係やモーメントアームなど) について	授業内容の予習・復習を行う。(1時間)
14	"	その他の話題(バイオメカニクス分野の研究手法など)③ 1) 陸上や水中でのスポーツ動作に関する研究(走・跳・投, 水泳など) 2) 分析の際に必要なヒト身体モデル化(剛体リンクモデル, 筋骨格モデル) 3) 身体運動に関わる骨格筋の構造と機能(力-長さ関係やモーメントアームなど) について	授業内容の予習・復習を行う。(1時間)
15	"	その他の話題(バイオメカニクス分野の研究手法など)④ 1) 陸上や水中でのスポーツ動作に関する研究(走・跳・投, 水泳など) 2) 分析の際に必要なヒト身体モデル化(剛体リンクモデル, 筋骨格モデル) 3) 身体運動に関わる骨格筋の構造と機能(力-長さ関係やモーメントアームなど) について	授業内容の予習・復習を行う。(1時間)
16	"	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	衛生学・公衆衛生学 (131A0-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)				
担当教員名	モハモド モニルル イスラム			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度				
授業の概要	本授業では、公衆衛生学の概念や方法論の基礎を学ぶことをねらいとして、個人と集団レベルでの健康の増進と疾患の予防に対する理解を深める。具体的には、疾病、障害などへの一次予防、二次予防、および三次予防の理論と心身の健康増進法や寿命の延長法などを理解するとともに、環境諸要因が個人の健康あるいは集団・社会の健康に及ぼす影響を学ぶ。また、疾病予防や健康増進などの具体的方法や知識を習得する。加えて、国際的な視点に立って、諸外国での公衆衛生などの実践活動や健康への取り組みも知り、ヘルスプロモーションの考え方を習得する。								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	リーダーシップ、科学的支援力、科学的表現力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康の定義や個人と集団の健康指標、疾病とその予防、環境諸要因と健康などとの関係を理解し、国民の現状と世界における健康問題を理解する	○		○				70
	■情意的領域	疾病や健康問題を理解するとともに、体育学部専攻生として運動やスポーツ、および体育の果たす役割や意義などについて主体的に学ぶ	○		○				15
■技能的領域	公衆衛生学、健康問題を理解するとともに、疾病予防や健康増進に関する技能を実践し、遂行できる	○		○				15	
成績評価の基準	学期末レポートによる総合評価し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	衛生学:健康な環境づくりを支援する(はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)(日本語)単行本 by 奥野久美子(著),坂手誠治(著),久保博子(著),近藤雄二(編集)(2014年9月出版又は最新版)[2,800円]。あとは毎回授業前Web-Class上に資料を配布すること。								
履修条件・ 関連科目	環境論を受講することが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。						
オフィス・アワー	教員研究室509号(内線:4962)にて随時(但し、事前に申し出ること)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	モハモド モニルル イスラム	オリエンテーション(衛生学・公衆衛生学の概論)及び今後の予定について	次回以降の予定の確認(30分)						
2	〃	疫学の考え方と事例について(疾病解明の方法論、疫学の定義、個人の健康指標、集団の健康指標)	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
3	〃	予防の種類について(1次予防,2次予防,3次予防)。スクリーニングについて(スクリーニング検査の有効性の指標,スクリーニング検査の集団への適用)	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
4	〃	日常生活における自立のために必要な体力について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
5	〃	高齢者における転倒予防について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
6	〃	生活習慣病I(高血圧,糖尿病,メタボリックシンドローム)の予防について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
7	〃	生活習慣病II(脳血管疾患,虚血性心疾患等)の予防について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
8	〃	生活習慣病IIIと健康増進について(食生活,身体活動,禁煙,喫煙行動,飲酒行動,睡眠,休養)	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
9	〃	感染症I(感染症とその疫学,感染成立の要因,咳エチケット等)について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
10	〃	感染症II(新型コロナウイルス感染症を含むその他の代表的な感染症予防対策)について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
11	〃	集団の健康指標:比率の解説(出生率,死亡率,自然増加率,婚姻率,死産率,乳児死亡率,周産期死亡率,合計特殊出生率,総再生産率,純再生産率,死因別死亡率,年齢階級別死亡率,年齢調整死亡率,標準化死亡比,受療率,総患者数,有訴者率,通院者率,受診率,疾病・異常被患率等)	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
12	〃	ストレスの考え方と評価法	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
13	〃	疫学研究デザインの分類と研究に関するバイアスと交絡について(観察研究,コホート研究,症例対照研究,横断研究,地域介入試験,ランダム化比較試験)	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
14	〃	悪性疾患(がん)の予防について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						
15	〃	小児疾患の予防について	左記の予習と配布資料の復習(60分)						

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医学		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)			
担当教員名	廣津 匡隆・未 定				補助担当者名	藤井康成			
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数	100名程度		
授業の概要	スポーツの運動器官に及ぼす効果と弊害(傷害)についての知見を習得し、理論を提供する。本授業では、運動器官を解剖学的にとらえ、種目特異的に生じるスポーツ外傷・障害を部位別にも概説する。それらを通じ、スポーツ医・科学的分野への進学などを希望する学生に対して有益となり、各種の受験資格取得などを希望する学生に対しても一助となる講義を展開する。この授業は、「スポーツ医学」についての学習を通じて、本学の教育目標における「国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導・普及させるような能力」を身に付ける科目です。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 (指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 (リーダーシップ、課題解決力))	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツの運動器官に及ぼす効果と弊害について理解できる。部位別のスポーツ外傷・障害について概説し、新たな解決方法を提案して、課題を整理することができる。		○	○				80
	■情意的領域	スポーツ医・科学的分野に関して主体的に作業課題を持ち、意欲的に取り組むことができる。小児、女性、中高年、身体障がい者とスポーツについても興味・関心を提供し、運動療法についても主体的に学ぶことができる。	○						20
□技能的領域									
成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、受講に関する態度、レポートの得点を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	参考書・・・「スポーツ整形外科学」(松本秀男ら編集、文光堂、2020、@15000円+税) 「スポーツリハビリテーションの臨床」(青木治人ら編集、メディカルサイエンス インターナショナル、2019、@7000円+税) 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」(小出清一ら編集、南江堂、改訂第2版、 2009、@3200円+税)								
履修条件・ 関連科目	救急処置論・実習、アスレチックトレーナー論を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿った授業ではないため、参考書を必ずしも購入しなくても良い。授業内容を記載した資料を見て予習して、さらに復習をすること。とくに真面目な受講態度を重視する。						
オフィス・アワー	廣津：水曜日 10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室(要予約)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	廣津 匡隆	オリエンテーション及び 小児・女性とスポーツ			小児・女性とスポーツについての資料を読む。(1時間)				
2	〃	中高年者とスポーツ(ロコモティブシンドロームを含む)			中高年スポーツ等についての資料を読む。(30分)				
3	〃	スポーツ指導上の安全対策、内科的・外科的メディカルチェック 運動器退行性疾患への対処法			メディカルチェック等についての資料を読む。(1時間)				
4	〃	部位別スポーツ外傷・障害1(頭部、頸部)と対処法			スポーツ傷害についての資料を読む。(30分)				
5	〃	部位別スポーツ外傷・障害2(肩関節・上腕)と対処法			スポーツ傷害(肩・上腕等)についての資料を読む。(1時間)				
6	〃	部位別スポーツ外傷・障害3(肘関節・前腕・手関節・手指)と対処法			スポーツ傷害(肘・前腕等)についての資料を読む。(30分)				
7	未 定	運動のためのメディカルチェック、運動による内科的障害			メディカルチェックと内科的障害についての資料を読む。(1時間)				
8	〃	スポーツ選手に起こりやすい病気・病的現象、環境とスポーツ			スポーツ選手の病的現象、環境とスポーツについての資料を読む。(1時間)				
9	廣津 匡隆	部位別スポーツ外傷・障害4(腰背部・骨盤・股関節・大腿)と対処法			スポーツ傷害(腰・背部等)についての資料を読む。(1時間)				
10	〃	部位別スポーツ外傷・障害5(膝関節①)と対処法			スポーツ傷害(膝)についての資料を読む。(30分)				
11	〃	部位別スポーツ外傷・障害6(膝関節②)と対処法			スポーツ傷害(膝)についての資料を読む。(1時間)				
12	〃	部位別スポーツ外傷・障害7(下腿・足関節)と対処法			スポーツ傷害(足・足関節)等についての資料を読む。(1時間)				
13	〃	部位別スポーツ外傷・障害8(下腿・足関節・足)と対処法			スポーツ傷害(下腿・足関節・足)等についての資料を読む。(1時間)				
14	〃	スポーツと理学的処置(RICE、テーピング、搬送方法、包帯の巻き方、スポーツマッサージなどの実技を含む)			理学的処置等についての復習を行う。(1時間)				
15	〃	障がい者スポーツ、アンチドーピング、まとめ			障がい者スポーツ等についての資料を読む。スポーツ医学に関するレポートを作成し提出する。(2時間)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	救急処置論・実習 (131A0-7300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)				
担当教員名	廣津 匡隆			補助担当者名	藤井 康成・吉田 剛 郎				
単位数	2 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	200名まで				
授業の概要	スポーツ現場では医療関係者が不在のことも多いため、体育・スポーツを専攻する者にとって必須の知識・手技を習得させ、理論を提供する。本授業では、現場での救命・救急処置を概説し、実際に対応可能となることを目的として、講義・実習を進める。それらを通じ、救急蘇生法などが身につく、各種の受験資格取得などを希望する学生に対する一助ともなることをめざす。この授業は、「救急処置論・実習」についての学習を通じて、本学の教育目標における「体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的なリーダーとして、意欲的に取り組めるような能力」を身に付ける科目である。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 (指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 (課題解決力、一般教養・倫理))	授業期間						
			授業	テスト	レポート	発表	定期 試験	その他	割合 %
	■認知的領域	スポーツ現場で必須の、救命・救急処置について理解できる。 救急処置法を説明し、対処方法について提案して、課題を整理することができる。		○	○				60
	■情意的領域	救急心肺蘇生法などに対し、意欲的に取り組み学習する。骨折・脱臼・筋肉と関節の損傷などに対し、興味・関心を有し、その予防方法について、主体的に探求することができる。	○						20
■技能的領域	段階的な救急処置法を実践し、遂行し得る能力・知識を身につけ、レポート作成を行うことができる。	○						20	
成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、心肺蘇生実習態度、レポートなどの各得点を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	参考書「アトラス応急処置マニュアル」(山本保博監訳、南江堂、原著第9版、2020、@ 2800円+税)								
履修条件・ 関連科目	1年次生の受講は認めない。心肺蘇生実習は、藤井康成教授、藤田英二教授、吉田剛・郎准教授の補助を受ける。 *注意:心肺蘇生実習は、1コマで全員の実習を行うことは困難なため、集中講義期間(8月7日(月)の4限・5限)に行います。 ただし、この日にどうしても参加できない学生は、15回 目授業予定の7月21日(金)の3限に実習を行います。 どちらの日の参加になるかは、後日アンケートをとり決定 します。(基本的には8月7日に受講してください)		備考(教員メッ セージ含む)	講義内容を記した資料をよく読み、予習・復習をすること 。とくに真剣な受講・実習態度を重視する。					
オフィス・アワー	廣津:水曜日 10時30分~11時30分 研究棟3階 304研究室(要予約)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	廣津 匡隆	オリエンテーション・救急処置総論	総論についての資料を読む。(30分)						
2	〃	傷病者の評価・意識障害の原因	意識障害についての資料を読む。(30分)						
3	〃	一次救命処置(心肺蘇生・AED)	一次救命処置についての資料を読む。(30分)						
4	〃	呼吸器系の障害と応急処置	呼吸器系障害についての資料を読む。(30分)						
5	〃	創傷と循環(循環傷害)	創傷と循環障害について資料を読む。(30分)						
6	〃	骨・関節・筋肉の損傷(上肢)	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。(1時間)						
7	〃	骨・関節・筋肉の損傷(体幹・脊柱・下肢)	骨・関節・筋肉の損傷についての資料を読む。(30分)						
8	〃	骨・関節・筋肉の損傷(下肢)	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。(30分)						
9	〃	手技と備品(搬送方法・止血法・包帯の巻き方など)	手技と備品についての資料を読む。(30分)						
10	〃	神経系の障害	神経系障害についての資料を読む(30分)						
11	〃	高温・低温による障害	高温・低温による障害について復習をする。(30分)						
12	〃	異物・中毒・咬傷と刺創	異物・中毒・咬傷と刺創についての資料を読む。(30分)						
13	〃	よく遭遇する疾患、知っておくと良い知識	授業内容の資料を読んで復習する(30分)						
14	〃	総復習、レポートについて 心肺蘇生実習について	救急処置論実習に関するレポートを作成し提出する 心肺蘇生の準備をする (2時間)						
15	〃	8月7日に心肺蘇生実習に参加できない学生は心肺蘇生実習(基本的には8月7日に受講してください) 8月7日に参加する受講生は休講となります。	心肺蘇生実習は、1コマで全員の実習を行うことは困難なため、集中講義期間(8月7日(月)の4限・5限)に行います。						

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学概論 (131A0-1314)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)			
担当教員名	高井 洋平・赤澤 暢彦			補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—			
授業の概要	本授業は、スポーツ選手のトレーニングを中心に、現代のトレーニング理論の基礎となっている概念や知識について概説する。トレーニングとは、人間の形態や機能のある目的に合致するように改造していくことである。目的に合う適切なトレーニングを行うためには、科学的な知識が必要である。同時に、科学的な知見には限界があり、万能でないことを知っておく必要がある。本講義の内容を習得することにより、体育やスポーツ指導現場において、理論的なトレーニング指導を行うための基盤が得られると期待できる。スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目である。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・ 教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	人間の身体能力を目的に応じて変えていくために必要な知識を習得している。習得した知識を、自身が現場で活用・応用できるような考え方が身についている。					○	60
■情意的領域	毎回の授業で課される小レポートについて、主体的かつ意欲的に取り組もうとする。			○			40	
□技能的領域								
成績評価の基準	講義の内容を十分に理解・習得できているかを確認するために、期末試験を行う。また、授業中に行うアクティブラーニング（小レポート）の内容も加味する。期末試験と小レポートの合計点が60点以上を合格とする。							
テキスト、教材 参考書	高井：基本的に、講義に使用するパワーポイント資料を毎回配布する。必要に応じて、参考図書を紹介する。							
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	受講生の多くは、過去および現在において、特定のスポーツ種目に携わり、その能力を向上させようと努力しているでしょう。本講義では、自身の能力向上にとって役立つ知識を提供するとともに、それを自身の血肉にするためのアクティブラーニングを行う予定です。					
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	高井 洋平	科学的なトレーニングとは？		トレーニングの原理原則についての予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
2	〃	レジスタンストレーニングの効果 - 筋肥大と筋力向上のプログラムの違い -		筋肥大・筋力を規定する要因についての予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
3	〃	パワートレーニングの特異性		ヒトの力-速度-パワー関係についての予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
4	〃	プライオメトリックトレーニングの特異性		伸張反射、筋腱複合体についての予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
5	〃	持久力トレーニングの特異性		運動時のエネルギー供給系についての予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
6	〃	各種トレーニングを組み合わせた複合トレーニングの効果		各トレーニングの特異性・効果についての予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
7	〃	ピリオダイゼーションの理論と実際		アスリートのピリオダイゼーションについて予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
8	〃	コンディショニングの理論と実際		アスリートのコンディショニングについて予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する				
9	赤澤 暢彦	トレーニングの基礎と原則		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
10	〃	アスリートボディ		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
11	〃	持久系とトレーニング		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
12	〃	筋・パワー系とトレーニング		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
13	〃	脳とトレーニング		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
14	〃	パフォーマンスとトレーニング		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
15	〃	生活習慣病とトレーニング		授業内容の予習・復習を行い（1時間）、小レポートで確認する				
16	高井 洋平 赤澤 暢彦	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツメンタルトレーニング論 (131A0-1315)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)	
担当教員名	土屋 裕睦				補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	2		受け入れ人数	80名程度	
授業の概要	本講義は、心理サポートに関する専門的な知識・教養を身に付ける科目です。具体的には、メンタルトレーニングやスポーツカウンセリングに関連する理論と技法について基本的事項を概観するとともに、スポーツ場面におけるメンタルトレーニングの活用法について実習を通じて体験的に理解します。						
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法			
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (指導者基礎力)	授業期間				割合 %
			授業	テスト	レポート	発表	
	■認知的領域	スポーツカウンセリング及びメンタルトレーニングの基礎的知識・技法を理解している。競技力向上や問題解決のためのメンタルトレーニング計画を説明できる。	○				50
	■情意的領域	意義を理解して自主的、主体的に授業課題に取り組む。	○				50
□技能的領域							
成績評価の基準	認知的領域と情意的領域の合計が60点以上を合格とします。出席回数が2/3未満の方は放棄扱いとなる場合がありますので注意してください。代表合宿や海外遠征等、特別に配慮が必要な場合は、あらかじめ担当教員に申し出てください。						
テキスト、教材 参考書	テキスト・教材は教員から資料を配布しますのでテキストの購入は不要です。より深く学びたい方は、参考図書として、日本スポーツ心理学会編「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」(大修館書店)を参照してください。						
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学		備考(教員メッセージ含む)	面白くて役に立ち、かつ学問的背景のある講義を目指します。積極的な参加を期待しています。			
オフィス・アワー	集中講義の授業実施期間中は、随時、講師控室等にお越しください。その他の期間は、本務先(大阪体育大学)のアドレスまでメールにて連絡してください(tsuchiya@ouhs.ac.jp)						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	土屋 裕睦	オリエンテーション(授業のねらい、事例の紹介)			webclassの登録・授業アンケートの記入(30分)		
2	〃	メンタルトレーニングプログラムの概観、理論的背景			フィッシュボーンの作成(30分)		
3	〃	アセスメントの理論と実際(心理的競技能力診断検査の体験)			心理的競技能力に関するセルフチェック(30分)		
4	〃	目標設定の理論と実際(動機づけ理論、達成目標)			マンダラートの作成(30分)		
5	〃	リラクゼーション技法の理論(呼吸法、自律訓練法、他)			リラクゼーション技法の整理(30分)		
6	〃	リラクゼーション技法の実際(バイオフィードバックを含む)			リラクゼーション時における心身の様子のモニタリング(30分)		
7	〃	集中力トレーニングの理論と実際(あがりの注意配分仮説、格子法)			集中力に関する実験結果の整理・考察(30分)		
8	〃	イメージトレーニングの理論(内的・外的イメージ、神経-筋仮説、他)			イメージ技法の整理(30分)		
9	〃	イメージトレーニング技法①(イメージの振り返り尺度を使用)			イメージの特徴に関するセルフチェック(30分)		
10	〃	イメージトレーニング技法②(ピークパフォーマンス分析)			ピークパフォーマンス分析のクラスタリング(30分)		
11	〃	試合前の心理的準備①(積極的思考)			積極的思考の練習シートの作成(30分)		
12	〃	試合前の心理的準備②(メンタルリハーサル)			メンタルリハーサルシートの作成(30分)		
13	〃	チームビルディングの理論(構成的グループ・エンカウンター、他)			チームビルディングのねらいや種類の整理(30分)		
14	〃	チームビルディングの実際(G&N、ハリガリ、気になる自画像、の体験)			チームビルディングの体験をもとに応用法の検討(30分)		
15	〃	メンタルトレーニングの振り返り(目標達成度、取り組みの自己評価)			目標達成度の評価シートへの回答、感想の記入(30分)		
16	〃	学期末試験(レポート試験)			メンタルトレーニングに関するオリジナルプログラムの作成		

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動学概論 (131A0-1316)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)		
担当教員名	金高 宏文				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	2 年次		受け入れ人数	160名程度		
授業の概要	運動を教える者と学ぶ者が共有する場の現象は、自然科学の客観的な方法だけでは捉えられない。運動の世界は、人間の視覚や聴覚、体性感覚などが融合された共同主観性世界（動感）と物理・生理・生化学的な客観的事実として形成されている。運動学とは、感覚（主観）的な運動意識現象を現象学的に動感と動感形態の省察から捉えようとしたものであり、効果的な運動指導のために欠くことのできない実践的な運動理論を提供している。本講義では、運動学の内容を概括するとともに、受講生自身が発生・習熟した運動技能を振り返り、かつ今後の運動の発生・習熟を展望しながら、運動を理解し、指導するための実践能力の基礎を育成する。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・ 教養 (課題解決能力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的 領域	・運動の発生・習熟に関する理論の概略について説明できる。 ・自分自身の動感の構造分析、発生分析できる。		○	○			68
	■情意的 領域	・運動に関わる事象や理論について興味・関心を持ち、それを積極的に受講生同士で協力して探求する。	○					32
□技能的 領域								
成績評価の基準	毎時間、WebClassを用いて、授業ワークを行う（学修カルテに入力する）。そのため、i-PadもしくはPCを持参すること。ワーク課題は、書き込み度で評価する。また、授業内容等の理解は、2回の課題レポートに対する達成度を基に評価する。							
テキスト、教材 参考書	iPadを持参すること。授業に必要な資料は、「WebClass」よりダウンロードすること。参考図書として「指導者のためのスポーツ運動学（朝岡正雄：大修館、2019、@2,100円+税）」、「新しい体育授業の運動学（三木四郎：明和出版、2005、@2,000円）」、「スポーツ運動学-身体知の分析論（金子明友：明和出版、2009、@3,400円）」、「器械運動の動感指導と運動学（三木四郎：明和出版、2015、@2,200円）」、「スポーツ運動学入門（金子一秀：明和出版、2015、@2,200円）」、「スポーツ運動学・現象学講座1<わざの狂い>を超えて（金子一秀・山口一郎編著、明和出版、@1,900円+税）」を推薦する。							
履修条件・ 関連科目	講義室収容人数の関係から1年生の受講は認めない。トレーニング科学概論、スポーツトレーニング実践論を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	・将来、スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む。 ・毎時行なう作業問題は、授業開始と同時に実施するので、遅刻しないこと。					
オフィス・アワー	月曜日 15:00-16:00 大学院棟3階 4教員研究室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	金高 宏文	オリエンテーション：運動指導に求められる理論を知る。運動、運動学とは…			WebClass で授業内容の復習（15分）			
2	〃	運動構造論：運動学習の段階・位相論-運動の動作と動感/運動の発生と習熟			WebClass で授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備（30分）			
3	〃	運動分析論1：動き（動感）を分節し、構造分析する。			WebClassで授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備（30分）			
4	〃	運動分析論2：運動形態（フォーム・動作等）の図形的違いを比較分析する。			1回目レポート（20点）提出とWebClass で授業内容の復習（15分）			
5	〃	運動分析論3：運動質の評価カテゴリーを用いて動感形態（フォーム・動作等）を分析する。			WebClass で授業内容の復習と2回目レポート作成に向けて準備（30分）			
6	〃	運動転移論：新たな運動感覚（動感）を導く練習・指導の組立て方			WebClass で授業内容の復習と2回目レポート作成に向けて準備（30分）			
7	〃	運動発達論：誕生から大人になるまでの運動発生と習熟の軌跡			WebClass で授業内容の復習と2回目レポート作成に向けて準備（30分）			
8	〃	補足及びまとめの小テスト（8点）と授業評価			2回目レポート（40点）提出			

授業科目名 (ナンバリングコード)	学校保健 (131A0-1317)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)				
担当教員名	廣津 匡隆・未 定			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度				
授業の概要	学校保健における保健教育・保健管理・保健組織活動および学校安全管理に関する知識を体系的に学ぶ。とくに保健教育については、保健体育教師が担当する内容を中学校・高等学校の学習指導要領にそって学習する。 健康づくりについての指導・普及のための基礎的な知識を取得し、学校現場における健康上の問題を把握する能力を身につける科目である。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育における学校保健の役割を理解して、学校現場でおこなう健康に関する諸問題に対応するための実践的知識を得ることができる。		○	○				80
■情意的領域	授業に積極的に参加し、教師からの質問に対しても自分の考えをまとめて回答できる。授業を受ける者のマナーを守ることができる。	○						20	
□技能的領域									
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席は2/3以上を最低基準とする、授業中に私語などで複数回注意を受けたものは、減点の対象とする。 ・4回実施する小テストおよびレポートの成績、授業に対する積極的な取り組み方などを総合的に評価する。 ・小テストを正当な理由で受けられなかった場合は、欠席届を提出し、与えられた条件を満たしたレポートを提出すれば採点の対象とする。 ・総合得点60点以上を合格とする。・心肺蘇生実習は必修である。 								
テキスト、教材 参 考 書	授業内容をWebClassに掲載するので、必要であれば各自印刷すること。 参考書：新・学校保健 杉浦守邦監修、東山書房。「基礎から学ぶ学校保健」瀧澤利行編著、建帛社。「学校保健マニュアル」高石昌弘・出井美智子編集、南山堂								
履修条件・ 関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の履修を認めない。・健康教育を履修しておくことが望ましい。・心肺蘇生実習に正当な理由で出席できなかった場合は、証拠書類を添付した欠席届を提出すること。その後、学外の機関で心肺蘇生講習(90分以上)を受け、受講証明書を提出すること。学校保健授業以前に受けた心肺蘇生講習受講証明書では実習修了と認められない。なお、学外の心肺蘇生講習については、欠席届が受理された者を対象として一度のみ斡旋する。 	備考(教員メッセージ含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・WebClassにコースを開設しているので、授業で使用するPowerPointファイルを開覧できる。 ・心肺蘇生実習は実習日の変更となる場合がある。その際は、授業や学内掲示などで前もって知らせる。 ・小テストを受けられなかった場合のレポート提出の要件と心肺蘇生実習を受けられなかった場合の学外機関で心肺蘇生実習を受けるための要件は、WebClassコース(初回)に掲示する。 						
オフィス・アワー									
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	未 定	学校保健概説	WebClass による予習・復習 1時間						
2	〃	児童生徒の心身の発達と健康	WebClass による予習・復習 1時間						
3	廣津 匡隆	学校安全、学校でみられる整形外科疾患	配付資料による復習 1時間						
4	未 定	保健教育1：現代社会と健康、【小テスト1】	WebClass による予習・復習 1時間						
5	〃	保健教育2：生涯を通じる健康	WebClass による予習・復習 1時間						
6	〃	保健教育3：社会生活と健康	WebClass による予習・復習 1時間						
7	〃	保健教育4：保健指導、その他の保健教育活動、心身医学	WebClass による予習・復習 1時間						
8	〃	保健管理1：健康観察、健康診断、事後措置、健康相談、【小テスト2】	WebClass による予習・復習 1時間						
9	〃	保健管理2：疾病予防と健康増進	WebClass による予習・復習 1時間						
10	〃	保健管理3：感染症とその対策、学校環境衛生	WebClass による予習・復習 1時間						
11	〃	応急処置実習(心肺蘇生法)：学外の指導員による実習	実習に適した服装で参加すること、心肺蘇生法の予習 30分						
12	〃	保健管理4：精神保健(1) 欲求不満、葛藤、学校で見られる心や精神の問題、【小テスト3】	WebClass による予習・復習 1時間						
13	〃	保健管理5：精神保健(2) 妊娠、出産、性感染症、性の権利	WebClass による予習・復習 1時間						
14	〃	保健管理6：精神保健(3) 喫煙、飲酒、薬物乱用	WebClass による予習・復習 1時間						
15	〃	学校保健組織活動、養護教諭の役割 保健室の機能、発達障害、特別支援教育、【小テスト4】	WebClass による予習・復習 1時間						

※担当教員未定のため、内容に変更が生じることがあります。

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツと法 (131A0-1318)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)				
担当教員名	森 克己			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	3 年次	受け入れ人数	150名程度				
授業の概要	今日のスポーツにおいては、国民の誰もが身近なところで安全にスポーツを楽しむことができるようにすることが求められている。そのため、スポーツに関わる者は、スポーツ事故やスポーツ団体・クラブ等との契約、さらにはスポーツ指導者による体罰・虐待などの人権に関する法的問題に適切かつ迅速に対応するための法的知識並びにスポーツの安全に関する知識を身につけることが重要になっている。この授業では、社会体育指導者や現役のスポーツ選手として必要なこれらの知識を身につけることができるようにすることを目標とする。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的 領域	スポーツに関する法的問題の基礎知識を身に付ける。 スポーツに関する安全に対する考え方を身に付ける。					○		90
■情意的 領域	授業に積極的に参加し、レポートに積極的に取り組む。	○		○				10	
□技能的 領域									
成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課されるレポートへの取り組みを総合的に評価する。								
テキスト、教材 参考書	テキスト：森克己ほか著『標準テキスト・スポーツ法学』（エイデル研究所） 参考書：小笠原正・諏訪伸夫監修、森克己ほか著『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『スポーツ法学入門』（体育施設出版）、『リファレンスブック』（日本スポーツ協会）								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	特になし。						
オフィス・アワー	水曜日午後								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	森 克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項・シラバスの予習（10分以上）						
2	〃	スポーツに関する法的問題（総論）	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
3	〃	スポーツ法学の体系・法源①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
4	〃	スポーツ法学の体系・法源②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
5	〃	スポーツ基本法の概要	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
6	〃	スポーツの権利性	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
7	〃	スポーツ団体と競技者の法的諸問題（総論）	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
8	〃	スポーツ選手の人権問題とスポーツ仲裁制度	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
9	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
10	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
11	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
12	〃	スポーツにおける不法行為	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
13	〃	スポーツ事故と法的責任①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
14	〃	スポーツ事故と法的責任②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
15	〃	スポーツ事故と法的責任③	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）						
16	〃	(定期試験)							

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチ学概論 (131A0-3300)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)		
担当教員名	金高 宏文				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	130名程度		
授業の概要	本講義では、優れたコーチ・指導者になるために必要とされる適切な人間関係を結ぶコミュニケーション能力、コーチング現場やトレーニング現場において発生する諸問題を合理的に整理・解決する課題解決のスキル、選手を取り巻く様々な内的および外的環境要因をマネジメントする能力等について解説する。そのために、受講生自身が受けた(あるいは行なった)コーチングを振り返り、かつ卒業後のスポーツリーダーとしての姿を展望しながら、コーチングの実践能力の基礎を育成する。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・ 教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	・自分自身が受けたコーチングを振り返り、自らが関わろうとする将来のコーチング活動への手がかり・指針を説明する。 ・スポーツコーチングの基礎的な理論やスキルを理解する。		○	○			68
	■情意的領域	コーチングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち、それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする。	○					32
□技能的領域								
成績評価の基準	毎時間、WebClassを用いて、授業ワークを行う。そのため、i-PadもしくはPCを持参すること。ワーク課題は、書き込み度で評価する。また、授業内容等の理解は、2回の課題レポートに対する達成度を基に評価する。							
テキスト、教材 参考書	i-Padを持参すること。授業に必要な資料は、「WebClass」よりダウンロードすること。 参考図書として、「Reference Book(JASP.4,400円)」「コーチング学への招待(日本コーチング学会編,2017,@2,916円)」「リーダーが身につけたい25のこと(鈴木義幸:デイスカバー21,200,@1,500円)」「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら(岩崎夏海:ダイヤモンド社,2015,@1,600円)」「ドラッカー5つの質問(山下淳一郎著,あさ出版,@1,300円+税)を推薦する。							
履修条件・ 関連科目	運動学概論、トレーニング科学概論、スポーツトレーニング実践論を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	将来、スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む。					
オフィス・アワー	月曜日 15:00~16:00大学院棟3階 教員研究室4							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	金高 宏文	コーチングの理論概要: Instruction, Teaching, Coaching, Managementの相違点			WebClassで授業内容の復習(15分)			
2	〃	コーチングの理論1: 傾聴・質問のスキル			WebClassで授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備(30分)			
3	〃	コーチングの理論2: 質問・承認のスキル			WebClassで授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備(30分)			
4	〃	コーチングの理論3: 課題解決のスキル(GROWモデルの活用)			1回目レポート(30点)提出とWebClassで授業内容の復習(15分)			
5	〃	コーチングの理論4: チーム・組織を動かすリーダーシップ、マネジメント力など			WebClassで授業内容の復習と2回目レポート作成に向けて準備(30分)			
6	〃	コーチングの理論5: 運動を創発・促発する指導技術など			WebClassで授業内容の復習と2回目レポート作成に向けて準備(30分)			
7	〃	コーチングの理論6: 成長し続けるためのコーチの自己点検と自己組織化			WebClassで授業内容の復習と2回目レポート作成に向けて準備(30分)			
8	〃	補足及び授業評価			2回目レポート(30点)提出			

授業科目名 (ナンバリングコード)	障がい者スポーツ論 (131A0-1319)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)			
担当教員名	廣津 匡隆・前田 究				補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	3年次		受け入れ人数	50名			
授業の概要	日本の身体障がい者(身障者)数は、総人口の約2%を占めており、近年、身障者スポーツは非常に盛んに行われつつある。本授業では、車椅子スポーツの医・科学的研究成果、パラリンピックなどの国際大会、知的発達障がい者のスポーツなどについて概説する。身体障がい者スポーツの現状と問題点、身障者と健常者の望ましい相互関係について考察し、身障者への接遇態度などが身につくことを可能とする。この授業は、「障がい者スポーツ」についての学習を通じて、本学の教育目標における「国民各層の体育・健康づくりを指導・普及させるような能力」を身に付ける科目です。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、リーダーシップ、専門的な知識・教養 (一般教養・倫理)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	身体障がい者スポーツの概要、対象障がい(脊髄損傷など)の病態について理解できる。車椅子スポーツの医・科学的研究成果を概説し、新たな解決方法を提案して、課題を整理することができる。	○		○				50
■情意的領域	知的発達障がい者のスポーツについても理解し、意欲的に身障者スポーツへと取り組むことができる。身障者スポーツの現状と問題点、障がい者と健常者の望ましい相互関係について、興味・関心を持ち、それらの課題について主体的に追求することができる。	○		○				50	
□技能的領域									
成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、授業に対する意欲、レポートの各得点などを合計し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	参考書…「車椅子マラソン—医・科学的研究と実践指導—」(赤嶺卓哉・前田究 著、不昧堂出版、初版、1997、@2,200円+税) 障害者とスポーツ(高橋 明 著 岩波新書 ¥700円) 必要とする参考資料は適時紹介し、資料を配付する。								
履修条件・ 関連科目	アスレチックリハビリテーション論・実習、 スポーツ医学を履修していることが好ましい。	備考(教員メッ セージ含む)	レポートの提出が必要。とくに真剣な受講態度を重視する。						
オフィス・アワー	廣津：水曜日 10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室(要予約) 前田：月曜日～金曜日 8時30分～16時45分 鹿児島県身体障害者福祉協会 099-228-6271								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	廣津 匡隆	障がい者とは	障がい者についての資料を読む。(30分)						
2	〃	障がい者スポーツとは	障がい者スポーツについての資料を読む。(30分)						
3	〃	障がい者の競技スポーツ	障がい者の競技スポーツについての資料を読む。(30分)						
4	〃	パラリンピック競技以外の障がい者スポーツ	障がい者スポーツに関する復習を行う。(30分)						
5	前田 究	障がい者スポーツの動機づけ	障がい者スポーツの動機づけについての資料を読む。(30分)						
6	〃	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者スポーツの意義と理念についての資料を読む(30分)						
7	〃	障がい者スポーツとクラス分け	障がい者スポーツとクラス分けについての資料を読む。(30分)						
8	〃	障がいに応じたスポーツの工夫・実施	障がいに応じたスポーツの工夫・実施についての資料を読む。(30分)						
9	〃	視覚・聴覚障がい者とスポーツ	視覚・聴覚障がい者とスポーツについての資料を読む。(30分)						
10	〃	知的障がい者とスポーツ	知的障がい者とスポーツについての資料を読む。(30分)						
11	〃	精神障がい者とスポーツ	精神障がい者とスポーツについての資料を読む。(30分)						
12	〃	重度障がい者とスポーツ	重度障がい者とスポーツについての資料を読む。(30分)						
13	〃	障がい者とのコミュニケーション	障がい者とのコミュニケーションについての資料を読む。(30分)						
14	〃	障がい者スポーツと安全管理	障がい者スポーツにおける安全管理のあり方についての資料を読む(30分)						
15	廣津 匡隆	本授業のまとめ・最終レポート発表	レポートを作成し提出する。(1時間)						

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道学概論 (131A0-1320)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)		
担当教員名	前阪 茂樹・小澤 雄二・中村 勇				補助担当者名	小崎亮輔(小澤担当)		
単位数	2 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数	50名程度	
授業の概要	この科目は、武道における指導や普及の基礎的な内容を理解する科目である。武道の歴史、特性、概念、流派、競技(柔道・剣道)に内在する文化性を概観して学び、近代スポーツとは異なる武道の基礎的な内容を理解することを目標としている。 授業方法については、武道全般を俯瞰する内容、柔道について俯瞰する内容、剣道について俯瞰する内容の三つの視点から講義を進めていくこととする。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (一般教養・倫理)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	武道の歴史や特性及び柔道・剣道に関する基礎的な内容を理解することができる。	○	○	○		○	85
■情意的領域	武道について関心を持ち、学習しようとする意志がある。(取り組む姿勢)	○		○			15	
□技能的領域								
成績評価の基準	※本科目は3人の武道教員によるオムニバス形式のリレー講義である。上記の評価方法を考慮した上で、中村(勇)30点、小澤30点、前阪(試験含め40点)、合計100点で評価し、60点以上をもって単位認定とする。							
テキスト、教材 参考書	必要に応じて適宜資料を準備する。 購入が望ましいテキスト：武道論十五講(不昧堂)、武道を知る(不昧堂)							
履修条件・ 関連科目	なし		備考(教員メッセージ含む)	武道課程の学生については必修科目である。				
オフィス・アワー	前阪：水曜日15:00(506研究室)、中村：水曜日12:00(503研究室)、小澤：随時(502研究室)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	中村 勇	武道の歴史：古代から鎌倉期まで			約30分間の授業内容の振り返り			
2	〃	武道の歴史：戦国期から江戸末期まで			約30分間の授業内容の振り返り			
3	〃	武道の歴史：明治維新から現代まで			約30分間の授業内容の振り返り			
4	〃	武道の伝統と競技化・国際化			約1時間、レポートの作成の準備			
5	〃	武道のこころ(精神、礼法)			約1時間、レポートの作成			
6	小澤 雄二	柔道論			約30分間の授業内容の振り返り			
7	〃	柔道と心理学			約30分間の授業内容の振り返り			
8	〃	柔道と力学			約30分間の授業内容の振り返り			
9	〃	柔道と体力トレーニング学			約30分間の授業内容の振り返り			
10	〃	柔道とスポーツ医学			約30分間の授業内容の振り返り			
11	前阪 茂樹	武道の理念と特性～その1 「武道とスポーツ」			約30分の講義内容の振り返り			
12	〃	武道の理念と特性～その2 柔道と剣道			約30分の講義内容の振り返り			
13	〃	剣道に内在する伝統文化性			約30分の講義内容の振り返り			
14	〃	剣道と武士道精神			約30分の講義内容の振り返り			
15	〃	武道の稽古・修行論			約30分の講義内容の振り返り			
16	〃	試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	コンディショニング論・実習 (131B0-7300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	藤田 英二			補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40人程度		
授業の概要	本授業は疲労回復やウォーミングアップ手段としてのスポーツマッサージ（ストレッチを含む）法、ならびにスポーツによるケガの予防や再発防止に役立つテーピング法を教授します。これにより、当該領域における実技力ならびに指導者基礎力が養われることが期待されます。						
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法			
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、指導者基礎力、科学的支援力、専門 的な知識・教養 (実技力、指導者基礎力)	授業期間				割合 %
			授業	テスト	レポート	発表	
	■認知的 領域	スポーツマッサージ法では基本的手技の名称 とその具体的な手法について理解する。 テーピング法では、テーピングの目的や基本 手技の手法について理解する。	○				
■情意的 領域	スポーツマッサージ法やテーピング法の実習 に対し、意欲的に取り組む。	○					20
■技能的 領域	スポーツマッサージ法やテーピング法におい て、基本的な手技ができるようになっている 。		○				70
成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、およびテーピング法の実技試験にて評価を行う。						
テキスト、教材 参考書	参考資料は必要に応じて配布する。						
履修条件・ 関連科目	解剖生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッ セージ含む)	受講希望者が受け入れ人数を超過する場合は、1回目のオリエンテーション時に履修希望者を対象とした抽選会を行う。この抽選会に参加できない者は、必ず抽選日までにメールなどで連絡すること (fujita@nifs-k.ac.jp)。抽選日以降の履修相談にはいっさい応じることはできない。この授業に関するすべての連絡は、基本的にWebClass上で行う(必ず定期的にチェックすること)。※場合によりテーピング実技に使用するテープは各自で準備する必要がある。				
オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談を (fujita@nifs-k.ac.jp)						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	藤田 英二	オリエンテーション					
2	"	スポーツマッサージの歴史について			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
3	"	スポーツマッサージの手技・手法について			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
4	"	スポーツマッサージ実技			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
5	"	テーピングオリエンテーション			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
6	"	足部のアーチに対するテーピング法			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
7	"	肉ばなれに対するテーピング法			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
8	"	肘関節内側側副靭帯損傷に対するテーピング法			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
9	"	足関節のテーピング法：① (基本のテーピング)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
10	"	足関節のテーピング法：② (バスケット・ウィーブ)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
11	"	足関節のテーピング法：③ (ドレイクメソッド)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		
12	"	膝前十字靭帯損傷に対するテーピング法			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。		

13	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験
14	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験
15	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ実践論 (131B3-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	工藤 保子・舟木 泰世・生島 淳・青島 健太				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	3年次		受け入れ人数	設定なし		
授業の概要	わが国の生涯スポーツ・プロモーション、障害者スポーツ、スポーツとメディア、スポーツとボランティアの各論について学習する。生涯スポーツ政策の現状と課題を、実践者の立場から理解を深めることを目標とする。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	各領域における生涯スポーツ政策の現状と課題について理解する		○	○			60
	■情意的領域	授業参加状況及び質疑応答への参加態度評価	○			○		40
□技能的領域								
成績評価の基準	特に積極的な受講態度とレポート提出状況を重視して、総合的に評価する。							
テキスト、教材 参考書	適宜指示する。							
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本授業科目は非常勤による集中講義として開講する。 担当教員プロフィール 青島健太：スポーツライター。元ヤクルトスワローズ内野手。 生島 淳：スポーツジャーナリスト。スポーツの取材・執筆活動のほか翻訳や番組キャスターを務める。 工藤保子：大東文化大学准教授。元笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 副主任研究員 舟木泰世：尚美学園大学総合政策学部ライフマネジメント学科専任講師。元スポーツ庁健康・体力づくり係長					
オフィス・アワー	授業の前後に対応する							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	舟木 泰世	これまでのスポーツ行政・政策の流れ			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
2	"	生涯スポーツ政策について			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
3	"	スポーツ庁設置・第2期スポーツ基本計画について			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
4	"	テーマ：スポーツによる地域活性化策を考える(予定)			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
5	工藤 保子	生涯スポーツとスポーツボランティアの位置づけ・概要			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
6	"	スポーツイベントとスポーツボランティア			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
7	"	障害者スポーツとスポーツボランティア			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
8	"	スポーツボランティアのマネジメントワーク			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
9	青島 健太	プロ選手とアマチュア選手			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
10	"	プロ野球とホームタウン			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
11	"	生涯スポーツ振興におけるトップアスリートの役割			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
12	"	アスリートのセカンドキャリア			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
13	生島 淳	生涯スポーツと現代メディア(国内編)			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
14	"	ディスカッション			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
15	"	生涯スポーツと現代メディア(国外編)			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			
16	"	ディスカッション			授業内で適宜指示のあった内容を復習する(30分)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道史 (131B0-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)			
担当教員名	中村 勇				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	50名程度			
授業の概要	古代から現代に至るまでの武技/武術/武道の歴史の変遷について、各時代との関わり合いを含めて概説する。 武道の流派・技術・思想・道具の成立や変遷を知ること、武道の「伝統」と「本質」を理解し、武道を指導や普及させるための専門的、応用的な内容を身につけることを目的とする。 本授業は講義方式で、ビデオ映像、配付資料、タブレット端末等を用いながら実施する。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	一般教養・倫理、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道の歴史の変遷について総合的に理解している 現代武道の成立過程について基本的知識を保有している	○	○	○				60
■情意的領域	武道の歴史や伝統を理解しようと意欲的に講義に取り組もうとする	○	○					40	
□技能的領域									
成績評価の基準	授業評価、授業内小テスト、レポートの合計得点が60点以上を合格とする 1/3以上の欠席がある場合は単位を認定しません								
テキスト、教材 参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド資料および配付資料は事前にweb-classに掲載するので必要に応じてダウンロードすること ・講義当日にも資料を配付する ・特にテキストは使用しません 								
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義・実技の事前履修や武道種目の経験が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	本授業はWebClassを利用するのでPC、タブレットの持参を推奨します。スマートフォンでの操作は保障しません。						
オフィス・アワー	水曜日12時～13時 他随時 503教員室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	中村 勇	オリエンテーション・古代～中世期の戦闘			講義の復習 (30分)				
2	〃	中世武士の技法と兵の道			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
3	〃	戦国期の戦闘			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
4	〃	武術流派の発展			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
5	〃	江戸前期の社会と武芸			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
6	〃	江戸中期の武芸：竹刀打込稽古			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
7	〃	江戸期の武術理論と武士道			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
8	〃	江戸後期の武術			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
9	〃	明治維新と武術			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
10	〃	講道館柔道の誕生			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
11	〃	大日本武徳会・学校武道・戦時武道			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
12	〃	戦後の武道			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
13	〃	武道の国際史1			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
14	〃	武道の国際史2			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				
15	〃	これからの武道史			Web-class 資料の予習と復習 (30分)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学 (131B0-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	吉田 剛一郎				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	150名程度		
授業の概要	分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。スポーツマンに身近な疲労、およびドーピングをテーマとして、運動にともなうからだの変化について、生化学的な面から関連づけて講じる。運動がからだにおよぼす影響を科学的に理解できる能力を身に付ける科目である。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	一般教養・倫理、科学的表現力、専門的な知識・教養 (課題解決力、科学的支援力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	1. 疲労、2. ドーピングの2部に分けて展開される中で、運動にともなうからだの変化を総合的に理解することができる。					○	70
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○		○			30
□技能的領域								
成績評価の基準	認知的領域（定期試験）：情意的領域（授業とレポートで1回あたり2点）＝70：30の比率で評価する。							
テキスト、教材 参考書	・講義テキスト（授業時に配付する） ・長尾愛彦著『スポーツと疲労』（鹿屋体育大学）、『スポーツとくすりーアンチ・ドーピング』（熊日出版）							
履修条件・ 関連科目	運動生理学・解剖生理学	備考(教員メッ セージ含む)	運動に関わる者に必要となる科学的な知識について具体例をあげながら説明する。					
オフィス・アワー	随時 307研究室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	吉田 剛一郎	スポーツマンの疲労・疲労研究の歴史・疲労の定義			テキストの疲労研究の歴史・定義を復習する。(1時間)			
2	"	疲労に関する諸原則・疲労の現れ方・環境条件と疲労			テキストの疲労に関する諸原則・現れ方・環境条件を復習する。(1時間)			
3	"	疲労の学説(原因)①(疲労物質説・力源消耗説)			テキストの疲労の学説(原因)を復習する。(1時間)			
4	"	疲労の学説(原因)②(物理化学的変調説)			テキストの疲労の学説(原因)を復習する。(1時間)			
5	"	疲労の学説(原因)③(内分泌説・神経中枢説・弾性説)			テキストの疲労の学説(原因)を復習する。(1時間)			
6	"	疲労度の分類・疲労の検査法			テキストの疲労度の分類・検査法を復習する。(1時間)			
7	"	トレーニングと疲労(超回復現象の生化学的意味)			テキストのトレーニングと疲労を復習する。(1時間)			
8	"	疲労を回復するには①(疲労物質説・力源消耗説から考えられる方法)			テキストの疲労の回復を復習する。(1時間)			
9	"	疲労を回復するには②(物理化学的変調説・内分泌説・中枢神経説から)			テキストの疲労の回復を復習する。(1時間)			
10	"	疲労を回復するには③(弾性説から)・効果的なトレーニングを行うには			テキストの疲労の回復を復習する。(1時間)			
11	"	ドーピングについて①(語源・定義の変遷・歴史)			テキストのドーピングの語源・定義・歴史を復習する。(1時間)			
12	"	ドーピングについて②(分類・禁止される理由・検査)			テキストのドーピングの分類・禁止理由・検査を復習する。(1時間)			
13	"	くすりについて(効果・副作用・スポーツ選手のくすりの使用の是非)			テキストのくすりを復習する。(1時間)			
14	"	アンチ・ドーピング①(大学生のドーピングに対する考え方の分析から)			テキストのアンチ・ドーピングを復習する。(1時間)			
15	"	アンチ・ドーピング②(ドーピングについて考えておく必要のある注意事項)			テキストのアンチ・ドーピングを復習する。(1時間)			
16	"	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスレチックトレーナー論 (131B2-1303)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)	
担当教員名	廣津 匡隆・藤田 英二			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度	
授業の概要	一般的なリハビリテーション医学の解説とともに、アスレチックトレーナーの役割、対象となる各種疾患の病態について論説する。本授業では、スポーツ外傷・障害の部位および疾患別リハビリテーションと、主な実践者であるアスレチックトレーナーのスポーツ現場での役割や活動に必要な基礎知識について講義を進める。これにより、実際にアスレチックトレーナーのスポーツ現場での役割に関する知識が身につく、将来この分野での就業などを希望する学生への一助となることを目指す。この授業は、アスレチックトレーナーについての学習を通じて、本学の教育目標における「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する知識を活用できるような能力」を身に付ける科目である。					
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法			
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・ 教養 (コミュニケーション力、一般教養・倫理)	授業期間		定期 試験	割合 %
			授業	テスト		
	■認知的領域	アスレチックトレーナーが行うリコンディショニングの概念、対象となる各種疾患の病態について理解できる。これらを知ることで、スポーツ外傷・障害に対する新たな解決方法を提案できるよう、課題を整理することができる。		○	○	
■情意的領域	スポーツ外傷・障害後のトレーニング計画の具体的な立案方法について理解するとともに、当該分野への興味・関心を提供し、主体的に勉学することができる。	○				40
□技能的領域						
成績評価の基準	授業レポート（その他の課題など）が提出されているという条件で、授業態度（意欲）、小テストならびに提出されたレポート内容などの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。					
テキスト、教材 参考書	参考書：『公認アスレチックトレーナー専門科目テキスト（①アスレチックトレーナーの役割、③スポーツ外傷・障害の基礎知識、⑤検査・測定と評価、⑦アスレチックリハビリテーション）』（公益財団法人日本スポーツ協会）					
履修条件・ 関連科目	1年次生の受講は認めない。救急処置論・実習を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	テキストや配付資料に沿って授業を行うので、準備をし、予習・復習をすること。特に真面目な受講態度を重視する。			
オフィス・アワー	廣津：水曜日 10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約）、藤田：メールにて相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの歴史と日本の現状	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
3	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの役割	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
4	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの倫理	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
5	〃	リコンディショニング総論1	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
6	〃	リコンディショニング総論2	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
7	〃	リコンディショニング総論3	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
8	〃	アスレチックトレーナーが行う測定と評価	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
9	〃	アスレチックトレーナーが知っておくべきアンチ・ドーピングについて	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
10	〃	アスレチックトレーナーに関わるトピックス	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。(1時間)			
11	廣津 匡隆	スポーツ外傷・障害の基礎知識	総論・基礎知識についての資料を読む。(1時間)			
12	〃	部位・疾患別リハビリテーション：体幹・脊椎	リハビリテーション（体幹・脊椎）についての資料を読む。(1時間)			
13	〃	部位・疾患別リハビリテーション：上肢	リハビリテーション（上肢）についての資料を読む。(1時間)			
14	〃	部位・疾患別リハビリテーション：股関節・大腿・膝	リハビリテーション（股関節・大腿・膝）についての資料を読む。(1時間)			
15	〃	部位・疾患別リハビリテーション：下腿・足	リハビリテーション（下腿・足）についての資料を読む。(1時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスレチックトレーナー実習 (131B0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)				
担当教員名	藤田 英二			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30人程度				
授業の概要	本授業は、「アスレチックトレーナー論」で得た知識を基に、実習を通じて当該分野に対するさらなる知識と技能を身につけることを目標とする。これにより、リコンディショニングに必要なアスレチックトレーニングの課題解決力、科学的支援力、実技力ならびに実技指導力が身につくことが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、科学的支援力、専門的な知識・教養 (実技指導力、課題解決力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ活動を安全に実施できる環境整備と安全管理能力について理解する。また、運動器の機能解剖を基に、スポーツ外傷・障害について理解し、リコンディショニングに必要なアスレチックトレーニングの計画作成・実施に必要な知識を得る。			○				60
	■情意的領域	当該分野に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む意思を持つ。	○						20
■技能的領域	リコンディショニングを目的としたアスレチックトレーニングの実施に必要な基本手技ができるようになる。	○						20	
成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み状況、レポート課題により総合的に評価する。								
テキスト、教材 参考書	参考資料は必要に応じて配布する。 参考書：「公認アスレチックトレーナー専門科目テキスト①～⑨」								
履修条件・ 関連科目	「アスレチックトレーナー論」を履修済みでなくてはならない。 解剖生理学、スポーツ医学、救急処置論・実習は履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	受講希望者が受け入れ人数を超過する場合は、1回目のオリエンテーション時に抽選会を行う。この抽選会に参加できない者は、必ず抽選日までにメールなどで連絡すること (fujita@nifs-k.ac.jp)。抽選日以降の履修相談にはいっさい応じない。この授業のすべての連絡は、基本的にWebClass上で行う (必ず定期的にチェックすること)。※場合によりテーピング実技に使用するテープは各自で準備する必要がある。						
オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談を (fujita@nifs-k.ac.jp)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	藤田 英二	オリエンテーション							
2	"	救急処置・応急処置について (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
3	"	PRICE処置と熱中症予防について (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
4	"	心肺蘇生・アイシング等実技			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
5	"	頸部～腰部の構造と末梢神経支配 (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
6	"	頸部～腰部のケガと脳振盪 (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
7	"	肩関節の構造とケガ (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
8	"	上肢の構造とケガ (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
9	"	股関節～大腿部の構造とケガ (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
10	"	膝関節の構造とケガ① (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				
11	"	膝関節～足関節の構造とケガ (講義)			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと (30分)。				

12	''	ROM、MMTとその他の評価法（講義&実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
13	''	体表の触診と徒手検査（講義&実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
14	''	肩関節回旋腱板と股関節のトレーニング（実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
15	''	体幹のトレーニング（実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ産業論 (131B0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)				
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	100名程度				
授業の概要	スポーツ産業は1980年代より広く認識されるようになり、近年その規模および重要性が益々高まっている産業領域である。本授業では主に講義を中心として、産業およびスポーツ産業の定義から、スポーツ産業に関する用語や理論について概説する。また個々の領域であるスポーツ用品産業、スポーツメディア産業、スポーツイベント産業、スポーツ施設空間産業、プロスポーツ産業などの内容や構造について概説する。スポーツに関する産業を成長発展させるための専門的・応用的な知識や考え方・意欲を身につける科目である。また、科学的表現力、専門的な知識・教養が身につくことが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ産業に関する知識を統合し、産業の視点からスポーツを捉えることができる。またそれ自体やその課題について分析し、説明できる。	○		○		○		50
	■情意的領域	スポーツ産業について興味・関心を持ち、学ぶ姿勢やその課題解決に向かって意欲的に取り組む意思を持つ。	○		○		○		50
□技能的領域									
成績評価の基準	2/3 以上出席している者のみ評価の対象とする。								
テキスト、教材 参考書	テキスト：なし。授業中に資料を配付する。 参考書：スポーツ産業論 第7版 原田宗彦編著 杏林書院 2021 2,750 円 アディダス vs. プーマ もうひとつの代理戦争 バーバラ・スミット著 ランダムハウスジャパン 2010年 820円 DVDブック サッカーマーケティング 広瀬一郎 著 ブックハウスHD 2006年 4,500円 SHOE DOG フィル・ナイト著 東洋経済新報社 2017年 1,980円								
履修条件・ 関連科目	スポーツマネジメント概論、スポーツ社会学、生涯スポーツ学概論、体育・スポーツ史 生涯スポーツ学総論	備考(教員メッセージ含む)	特になし。						
オフィス・アワー	関：seki@nifs-k.ac.jp、604 教員室 隅野：月曜16-17時 msumino@nifs-k.ac.jp、501 教員室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	関 朋昭	オリエンテーション／スポーツ産業とは（概略）	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）						
2	〃	スポーツ産業とは（産業とは，歴史，領域）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
3	〃	スポーツ産業とは（市場規模）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
4	〃	スポーツ産業とは（資本主義）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
5	〃	スポーツ産業とは（新自由主義）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
6	隅野 美砂輝	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
7	〃	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
8	〃	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
9	〃	スポーツイベントとメディア産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
10	〃	スポーツイベントとメディア産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
11	〃	スポーツイベントとメディア産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
12	〃	スポーツ施設空間産業（フィットネスクラブ）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
13	〃	スポーツ施設空間産業（フィットネスクラブ）／プロスポーツ産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
14	〃	プロスポーツ産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）						
15	〃	まとめ	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集（1時間）						
16	関 朋昭 隅野 美砂輝	学期末試験	前回までの授業の総復習（最低1時間）						

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ文化論 (131B0-1305)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)			
担当教員名	田 暁潔				補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次	受け入れ人数	—			
授業の概要	この授業は、スポーツを文化的な視点から理解するための理論と方法を、具体的な事例を通じて学習することを目的とする。特に、スポーツ人類学の視点から、世界各地の地域集団で実践されてきたスポーツや遊びを紹介し、その歴史的・社会的・文化的意味を理解するための知識を身に付ける。学んだ知識を応用し、スポーツに関連する社会問題を多角的な視点から考える力を養う。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (課題解決力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的 領域	スポーツ人類学のアプローチが理解できる。 スポーツ事象の多様さと複雑さを多角的な視点 から考えることができる。	○	○		○			50
	■情意的 領域	スポーツ文化について関心を持ち、課題にを 意欲的に取り組むことができる。	○		○	○			50
□技能的 領域									
成績評価の基準	授業時の小レポートまたは小テスト、グループワーク（発表を含む）、および授業の取り組む状況によって総合的に評価する。								
テキスト、教材 参考書	「スポーツ文化論」(寒川恒夫編著,杏林書院,2003) 「スポーツ人類学」(宇佐美隆憲編著,明和出版,2004,¥3955円) 「スポーツ人類学：グローバリゼーションと身体」(ニコ・ベズニエ,スーザン・プロウネル,トーマス・F・カーター著,川島浩平 [ほか] 訳,共和国,¥4950円)								
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	特になし					
オフィス・アワー									
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	田 暁潔	オリエンテーション、スポーツ文化論の概要			講義全体の構成を復習(30分)				
2	〃	スポーツ人類学の視点			スポーツ人類学の着目点を復習(30分)				
3	〃	スポーツ文化を理解するためのフィールドワーク			フィールドワークについて復習(30分)				
4	〃	ドキュメンタリー鑑賞・グループワーク (I)			小レポート、グループ発表(授業内)				
5	〃	スポーツ文化複合			スポーツ文化複合の着目点を復習(30分)				
6	〃	民族生活とスポーツ文化：森の民と海の民			生業様式とスポーツ文化との関連を復習(30分)				
7	〃	民族生活とスポーツ文化：農耕社会と牧畜社会			生業様式とスポーツ文化との関連を復習(30分)				
8	〃	ドキュメンタリー鑑賞・グループワーク (II)			小レポート、グループ発表(授業内)				
9	〃	エスノサイエンスと身体文化			身体文化について復習(30分)				
10	〃	子ども期の遊びと文化化			遊びと文化化について復習(30分)				
11	〃	植民地支配と近代スポーツの普及			植民地支配と近代スポーツとの関連について復習(30分)				
12	〃	ドキュメンタリー鑑賞・グループワーク (III)			小レポート、グループ発表(授業内)				
13	〃	グローバリゼーションとスポーツ文化の変容			グローバリゼーションとスポーツとの関連を復習(30分)				
14	〃	スポーツ人類学の視点から社会問題を考える(1)：子どもの身体活動			復習として、スポーツ人類学の視点から子どもの身体活動の諸課題を考える(30分)				
15	〃	スポーツ人類学の視点から社会問題を考える(2)：スポーツと環境保全			復習として、スポーツ人類学の視点から開発の諸課題を考える(30分)				
16	〃	まとめ・最終グループ発表			小レポート、グループ発表(授業内)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツトレーニング実践論 (131B1-3306)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)	
担当教員名	三浦 健・永原 隆			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名程度	
授業の概要	スポーツトレーニングの効果的な推進は、適切な目標設定とそれを達成するための課題設定、課題解決方法や手段の選択・創造、時間資源を考慮した計画立案、効果的な実践、成果の測定・評価及び診断するという一連のトレーニングサイクル（D+PDCAサイクル）を循環させる能力が要求される。本講義では、トレーニングサイクルを形成する理論とCSCS資格で要求される各種トレーニングの方法論などを概説すると同時に、受講生が自分自身のトレーニングを振り返り、かつ今後のトレーニングを立案しながら、トレーニングの実践能力の基礎を育成する。さらに、スポーツトレーニングの実践過程を記録し、分析・評価する実践的研究法（事例研究）についても言及し、その研究法の基礎が身につくことも期待している。					
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法			
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・ 教養	授業期間		定期 試験	割合 %
			授業	テスト		
	■認知的領域	・自分自身のトレーニングを振り返り、自らが 関わろうとする将来のトレーニング活動への 手がかかり・指針を説明する。 ・スポーツトレーニングの基礎的な理論やス キルを理解する。		○		
■情意的領域	・トレーニングに関わる事象や理論について 興味・関心を持ち、それを積極的にかつ受講 生同士で協力して探求しようとする。	○				30
□技能的領域						
成績評価の基準	WebClassを用いて、授業ワークを行う。そのため、i-PadもしくはPCを持参すること。また、授業内容等の理解は、課題レポートに対する達成度を基に評価する。テストは、CSCSの資格認定試験の問題の理解度で評価する。					
テキスト、教材 参考書	i-PadもしくはPCを持参すること。必要に応じて資料を配布するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。参考図書として、「競技力向上のトレーニング戦略（ボンパ：大修館、2006、@ 4,000円）」、「スポーツトレーニング理論（村本征人：ブックハウスHD、1994、@ 4,635）」、「NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版（ブックハウスHD、2018、@ 12,000）」を推薦する。					
履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス、運動生理学を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッ セージ含む)	将来、スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む。			
オフィス・アワー	三浦：随時 総合体育館教員室 永原：随時 大学院棟3階 教員室1					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	三浦 健 永原 隆	オリエンテーション、CSCSの概要説明	Web-Class で授業内容の復習(15分)			
2	〃	トレーニングのための解剖生理学	授業内容の復習 (15分)			
3	永原 隆	スポーツトレーニング計画の概要、計画の準備、ゴールの設定	Web-Class で授業内容の復習(15分)			
4	三浦 健 永原 隆	トレーニングのためのバイオメカニクス	授業内容の復習 (15分)			
5	永原 隆	スポーツパフォーマンスの構造論と目標設定論1	Web-Class で授業内容の復習(15分)			
6	三浦 健 永原 隆	トレーニングのための栄養学	授業内容の復習 (15分)			
7	永原 隆	スポーツパフォーマンスの構造論と目標設定論2	Web-Class で授業内容の復習(15分)			
8	三浦 健 永原 隆	トレーニングのためのスポーツ心理学	授業内容の復習 (15分)			
9	永原 隆	スポーツトレーニングの手段・方法論1	Web-Class で授業内容の復習(15分)			
10	三浦 健 永原 隆	トレーニングのためのプログラムデザイン	授業内容の復習 (15分)			
11	永原 隆	スポーツトレーニングの手段・方法論2	Web-Class で授業内容の復習(15分)			
12	三浦 健 永原 隆	トレーニングのためのエクササイズテクニック	授業内容の復習 (60分)			
13	永原 隆	スポーツトレーニングの計画論1	Web-Class で授業内容の復習 (15分)			
14	〃	スポーツトレーニングの計画論2、スポーツトレーニング評価・管理論	WebClassで授業内容の復習			
15	三浦 健 永原 隆	補足とまとめテスト (30点)、授業評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ政策論 (131B3-1307)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	日下 知明				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3	受け入れ人数	70名程度		
授業の概要	体育・スポーツの政策問題の解決に関わる知識や考え方を概説する。体育・スポーツ政策に関する基本的な制度や組織について理解するとともに、政策的なものの方見方・考え方をを用いて体育・スポーツに関する政策問題を考察することを旨とする。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (専門的な知識・教養、課題解決力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	体育・スポーツ政策の基本的な制度や組織を説明することができる。 体育・スポーツの政策問題を政策的なものの方見方・考え方から考えることができる。			○			80
	■情意的領域	授業中の課題に対して意欲的に取り組もうとする。	○					20
□技能的領域								
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の出席回数が2/3以上の者のみを成績評価の対象とする。 ・各授業の課題及び最終レポートにより総合的に評価する。 							
テキスト、教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用せず、資料はWebClassへ掲載する。 ・参考書：菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦[編](2011)『スポーツ政策論』成文堂、真山達志・成瀬和弥[編著](2021)『公共政策の中のスポーツ』晃洋書房 							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にWebClassを使用するため、授業にはWebClassへ接続できる情報端末を必ず持ってくる。 ・授業内容等は受講生の人数やその他事情により変更になる場合がある。 				
オフィス・アワー	随時(607研究室)。ただし、事前にメール(t-kusaka@nifs-k.ac.jp)にて予約をしておくことが望ましい。							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	日下 知明	授業の内容や評価等の説明、政策問題とは			授業内容の復習(60分)			
2	"	体育・スポーツ行政組織			授業内容の復習(60分)			
3	"	スポーツ政策に関わるアクター			授業内容の復習(60分)			
4	"	政策過程			授業内容の復習(60分)			
5	"	スポーツ財政			授業内容の復習(60分)			
6	"	政策評価			授業内容の復習(60分)			
7	"	地方におけるスポーツ政策に関わる組織			授業内容の復習(60分)			
8	"	地方におけるスポーツ政策に関する計画及び財政			授業内容の復習(60分)			
9	"	生涯スポーツ政策			授業内容の復習(60分)			
10	"	学校体育政策(運動部活動、大学スポーツを含む)			授業内容の復習(60分)			
11	"	競技スポーツ政策			授業内容の復習(60分)			
12	"	スポーツ施設と政策			授業内容の復習(60分)			
13	"	地域スポーツクラブに関する施策			授業内容の復習(60分)			
14	"	スポーツ政策における関係者の連携・協働			授業内容の復習(60分)			
15	"	体育・スポーツ政策に関する課題の整理・検討			授業内容の復習(60分)、最終レポート作成			

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道文化論 (131B5-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)			
担当教員名	中村 勇・前阪 茂樹			補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度			
授業の概要	<p>伝統性やスポーツ性、礼法の特徴など日本の伝統文化と密接なつながりを持つ武道文化について議論し、武道の本質とは何かを探る。授業はディスカッション、課題発表などを積極的に導入し、主体的な取り組みができるようにしている。この授業を通じて、これからの武道界のリーダーに必要な武道文化に関する知識を身につけ、表現する力を養うことができる。WebClassやインターネットなどを利用するのでiPad等のタブレットを持参してください。なお、参加人数等の状況に応じてシラバスで示した授業順序を入れ替えることがあります。</p>							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法					
	DPで 目指す 資質・ 能力	コミュニケーション力、専門的な知識・教養	授業期間		定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的 領域	武道文化としての礼法、伝統、独自性などについて理解し説明できる 武道文化に関する課題に対し適切な解決策を見いだせる	○	○	○	○		60
	■情意的 領域	武道文化に関する議論に関心を持つ 各内容について客観的視点で考察しようとする	○	○	○	○		20
■技能的 領域	設問に対して自分の意見を指示された方法で 適切に表現できるよう	○	○	○	○		20	
成績評価の基準	授業への取り組み、授業内小テスト、レポート、発表の合計得点が60点以上を合格とする 1/3以上の欠席がある場合は単位を認定しない							
テキスト、教材 参考書	教材はWebClassや紙媒体で提供する							
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義・実技の事前履修や武道種目の経験が望ましい	備考(教員メッ セージ含む)	WebClassで提供する教材や課題はPCやタブレット利用を 前提にしています					
オフィス・アワー	水曜日 昼休み、3限目 他随時 研究棟 503教員室及び506教員室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	中村 勇	導入：武道文化とは		配布資料および授業の復習（30分以上）				
2	”	武道の修行1		Web-class 資料の予習と復習、発表の準備（30分以上）				
3	”	武道の修行2		Web-class 資料の予習と復習、発表の準備（30分以上）				
4	前阪 茂樹	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る1 (剣術・兵法の思想/理論 殺人刀・活人剣)		Web-class 資料の確認（20分）				
5	”	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る2 (剣術・兵法の思想/理論 不動智)		Web-class 資料の確認（20分）				
6	”	競技文化としての剣道の考え方や理論を知る1 (剣道の思想/稽古法)		Web-class 資料の確認（20分）				
7	”	競技文化としての剣道の考え方や理論を知る2 (剣道のルール/道具等)		Web-class 資料の確認（20分）				
8	中村 勇	競技文化としての柔道の考え方や理論を知る (柔道の思想/稽古法)		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				
9	”	競技文化としての柔道の考え方や理論を知る (ルール/設備/柔道衣)		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				
10	”	武道の特性		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				
11	”	大衆文化としての武道		資料収集・プレゼンテーションの準備（30分以上）				
12	”	武道の礼法		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				
13	”	武道の国際化1		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				
14	”	武道の国際化2		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				
15	”	武道の伝統と発展		Web-class 資料の予習と復習（30分以上）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体発育発達・老化論 (131B0-1309)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	高井 洋平・宮崎 輝光・沼尾 成晴				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	3		受け入れ人数	—		
授業の概要	成長や老化と共にヒトの身体は大きく変化する。そのため、運動指導をするにあたり、成熟や老化の程度に適した指導を行うことが求められる。また、発育発達・老化は性差や、様々な要因による個人差が存在することから、運動指導は個々に応じた配慮を求められる。本講義では、身体の発達・老化や、成長に伴う基本的な運動（走跳投動作）の変化など、具体的なデータ（図表）を示しながら、これまでの研究から明らかにされている知見を学ぶ、本講義を通じ、体育・スポーツ指導を行ううえで、年代に応じた配慮が身につくと期待できる。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	成長に伴う身体の変化に関する基本的な知識を身につけ、他者に説明することができる。また、体育・スポーツ指導において、年代に応じた配慮ができるようになる。			○	○		100
	□情意的領域							
□技能的領域								
成績評価の基準	成績評価はレポート（発育発達論：高井、宮崎担当分）および定期試験（老化論：沼尾担当分）にて行う。レポートおよび定期試験は、授業内容で取り扱った内容が理解できているか、および自身の意見が述べられているかを問う。単位認定には、レポート（発育発達論：高井、宮崎担当分）で60点以上かつ、定期試験（老化論：沼尾担当分）で60点以上の評価を得ることが必要となる。なお、所定の出席（2/3以上）に満たない場合にも単位が認定されない。 高井：授業内に課す小レポートと、講義終了後に課すレポートで成績を評価する。 宮崎：授業内に課す小レポートと、講義終了後に課すレポートで成績を評価する。 沼尾：試験にて成績を評価する							
テキスト、教材 参考書	参考書 からだの発達 身体発達学へのアプローチ（高石昌弘、樋口満、小島武次、大修館書店） からだの発達と加齢の科学（樋口満、佐竹隆、大修館書店） 辞典 発育・成熟・運動（Robert M. Malina（著）、Claude Bouchard（著）、高石昌弘（訳）、小林寛道（訳）、大修館書店） 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学（池添冬芽（編）、メジカルビュー社）							
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	宮崎：随時 研究棟4階 408教員研究室 高井：随時可能（スポーツトレーニング教育研究センター 教官室2 y-takai@nifs-k.ac.jp） 沼尾：随時可能 研究棟4階 406教員研究室（不在の場合もあるため、事前にメールなどでアポイントをとることが望ましい。 numashige@nifs-k.ac.jp）							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	高井 洋平	オリエンテーション、発育発達を学ぶ意義			小レポート（授業内）、人の発育発達について予習・復習を行う。（1時間）			
2	〃	体格、身体組成の発育			小レポート（授業内）、身体組成について予習・復習を行う。（1時間）			
3	〃	筋力・筋パワーの発達			小レポート（授業内）、筋力・パワーについて予習・復習を行う。（1時間）			
4	〃	エネルギー代謝における発達			小レポート（授業内）、心肺呼吸循環について予習・復習を行う。（1時間）			
5	〃	発育期のフィジカルトレーニング			小レポート（授業内）、トレーニングの原理・原則について予習・復習を行う。（1時間）			
6	〃	Exseedの理論			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
7	〃	Exseedの実践①			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
8	〃	Exseedの実践②			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
9	宮崎 輝光	基本動作の発達（走・跳・投動作）①			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
10	〃	基本動作の発達（走・跳・投動作）②			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
11	沼尾 成晴	高齢者の特徴			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
12	〃	高齢化に伴う身体機能の変化			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
13	〃	高齢者の機能評価（身体機能）			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
14	〃	高齢者に対する運動トレーニング1（筋力、平衡機能、持久力）			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
15	〃	高齢者に対する運動トレーニング（転倒予防、認知症予防）			授業内容の予習・復習を行う。（1時間）			
16	〃	定期試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ戦術実践論 (131B1-1310)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)			
担当教員名	高橋 仁大・濱田 幸二・萬久 博敏・三浦 健・松村 勲・塩川 勝行・榮樂 洋光				補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	3年次		受け入れ人数	40名程度			
授業の概要	スポーツ戦術実践論は、主に講義により、さまざまな種目の試合中の攻防、駆け引きに関する詳細、日常練習での戦術トレーニングを計画的に進めるための基礎理論、戦術分析（試合分析）の基礎理論などについて概説し、選手として、個人戦術やチーム戦術の基本をマスターするとともに、将来コーチ（指導者）として大成するために必要不可欠な諸問題の解決事例を検討する。これにより体育学の知識を用いて応用・分析し、説明することができる能力としての、スポーツ現場での判断力と行動力を高めることや、実践場面でのスカウティング力が身につくことが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的 領域	個人戦術やチーム戦術の基本を理解する。 戦術トレーニングのための基礎理論を理解する。 戦術分析（試合分析）の基礎理論を理解する。	○		○				60
■情意的 領域	選手として戦術を活用することに関心を持つ。 指導者として戦術を活用することに関心を持つ。 戦術分析（試合分析）を活用することに関心を持つ。	○		○				40	
□技能的 領域									
成績評価の基準	各担当教員の課すレポートの得点と授業参画を合計し、60点以上のものを合格とする。 1/3以上の欠席により単位は認定されない。								
テキスト、教材 参考書	「スポーツの戦術入門」（ヤーン・ケルン著（朝岡、水上、中川監訳）、大修館、1998） 「THE ESSENTIALS OF PERFORMANCE ANALYSIS」（M. Hughes and I. M. Franks, Routledge, 2008） 他、配付資料等								
履修条件・ 関連科目	スポーツパフォーマンス研究論	備考(教員メッ セージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配付やレポート提出等を行う						
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋(スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 濱田(研究棟8階808教員研究室または球技体育館準備室) 萬久(実験プール教員室) 松村(研究棟3階310教員研究室) 三浦(研究棟8階807教員研究室) 塩川(研究棟8階810教員研究室) 榮樂(研究棟7階709教員研究室または海洋スポーツセンター)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	高橋 仁大	スポーツ戦術の基本的考え方			講義内容の予習と復習（1時間）				
2	塩川 勝行	サッカーの戦術と実践① 小レポート			講義内容の復習（1時間）				
3	〃	サッカーの戦術と実践②			講義内容の復習（1時間）及びレポート作成				
4	濱田 幸二	バレーボールの戦術と実践① 小レポート			講義内容の予習と復習（1時間）				
5	〃	バレーボールの戦術と実践② 小レポート			講義内容の予習と復習（1時間）				
6	三浦 健	バスケットボールの戦術と実践			小レポート（20分）				
7	〃	孫子の兵法 一名将の戦略戦術			小レポート（20分）				
8	萬久 博敏	競泳の戦術と実践			小レポート・講義内容の復習（1時間）				
9	榮樂 洋光	セーリング競技の戦術と戦略			小レポート・講義内容の復習（1時間）				
10	松村 勲	陸上競技（トラック・ロード）の戦術と戦略			小レポート等の作成（20分）				
11	高橋 仁大	テニスの戦術と実践①			講義内容の予習と復習（1時間）				
12	〃	テニスの戦術と実践②			講義内容の予習と復習（1時間）				
13	〃	戦術評価のためのゲームパフォーマンス分析の基本的考え方			講義内容の予習と復習（1時間）				
14	〃	戦術評価のためのゲームパフォーマンス分析の事例と応用			講義内容の予習と復習（1時間）				
15	〃	スポーツ戦術の実践に向けて			レポート（2時間）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ調査法 (131B3-1311)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	北村 尚浩				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	3年次		受け入れ人数	50名程度		
授業の概要	体育・スポーツの現場における様々な社会調査の基本と実施方法、さらには、調査データのコンピュータによる統計的分析とレポート作成の方法論を学ぶ。卒業研究やスポーツプロモーションに必要な、コンピュータを利用した社会調査データの活用方法への理解が深まる。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、専門的な知識・教養 (科学支援力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	講義全般に関する基礎的知識を有する	○	○			○	55
	■情意的領域	授業に参加し講義内容に関する疑問に積極的に応える	○			○		25
■技能的領域	課題レポート作成技術			○			20	
成績評価の基準	学期末試験の成績55%に、授業態度、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況、小テスト、課題レポート等45%を加えて総合的に評価する。							
テキスト、教材 参考書	大谷 信介「新・社会調査へのアプローチ—論理と方法」ミネルヴァ書房 森山和夫「社会調査方入門」有斐閣ブックス 鈴木敦子「質問紙デザインの技法」							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	特になし。				
オフィス・アワー	随時 (610研究室) kitamura@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	北村 尚浩	体育・スポーツ現場における社会調査の意義			新聞記事の検索 (30分以上)			
2	〃	量的調査と質的調査			Reading assignment (30分以上)			
3	〃	調査と研究の進め方			Reading assignment (30分以上)			
4	〃	社会調査の企画			Reading assignment (30分以上)			
5	〃	調査票の設計 (1)			リサーチデザインの作成 (30分以上)			
6	〃	調査票の設計 (2)			リサーチデザインの作成 (30分以上)			
7	〃	サンプリング			Reading assignment (30分以上)			
8	〃	分析データの準備			Reading assignment (30分以上)			
9	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方 (1)			Reading assignment (30分以上)			
10	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方 (2)			Reading assignment (30分以上)			
11	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方 (3)			Reading assignment (30分以上)			
12	〃	データ分析の実際 (1)			データ分析 (30分以上)			
13	〃	データ分析の実際 (2)			データ分析 (30分以上)			
14	〃	レポート作成 (1)			レポート作成 (30分以上)			
15	〃	レポート作成 (2)			レポート作成 (30分以上)			
16	〃	最終試験			最終レポート提出			

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツビジネス論 (131B3-1312)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	隅野 美砂輝・棟田 雅也				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	3年次		受け入れ人数	40名程度		
授業の概要	スポーツに関するビジネスを立ち上げる際、一般のビジネスと同様にビジネスプラン(事業計画書)の作成は必要不可欠である。本授業は、講義、個人課題、グループプロジェクトにより、ビジネスプランに必要な項目や作成の手順について概説し、実際にビジネスプランの作成を行わせることによって、スポーツ・武道および体育・健康づくりに関するビジネスやプロジェクトを企画立案するための専門的、応用的な知識や考え方、意欲を身につける科目である。また、コミュニケーション力、課題解決力、専門的な知識・教養が身につくことが期待される。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	コミュニケーション力、課題解決力、専門的 な知識・教養	授業期間			定期 試験	割合 %	
		(コミュニケーション力、課題解決力、専門 的な知識・教養)	授業	テスト	レポート			発表
	■認知的 領域	ビジネスプランに必要な項目について理解し 、その知識を用いて実際に作成することがで きる	○		○	○		50
	■情意的 領域	起業やビジネスの運営に興味・関心を持ち、 意欲的に取り組む意思を持つ	○		○	○		50
□技能的 領域								
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への貢献度（発問対応、質疑応答、議論への参加など）：15% ・毎授業の小レポート：15% ・個人課題：20% ・グループプロジェクト（プレゼンテーション、サマリーや事業計画書など）：50% ※5回以上の欠席、個人課題未提出、グループプロジェクト課題未提出のいずれかに該当する場合は成績評価を行わないこととする。 ※毎授業の小レポートおよび個人課題の提出が著しく低い場合はグループプロジェクトに参加できない場合があります。							
テキスト、教材 参考書	資料を適宜配付する。							
履修条件・ 関連科目	スポーツマネジメント概論、スポーツ産業論、スポーツマ ーケティング論の受講が望ましい。 受け入れ人数を超えた場合は、上記授業の履修状況・授業 態度・成績等により制限を行う可能性がある。		備考(教員メッ セージ含む)	特になし。				
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）：火 水 金 の 昼 休 み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）：水11:00 - 13:00 なお、事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）。							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	隅野 美砂輝 棟田 雅也	オリエンテーション:授業の進め方、内容について			スポーツに関連したビジネスや自分の興味のある ビジネスについて情報収集(1時間)			
2	〃	スポーツビジネスとは			スポーツに関連したビジネスや自分の興味のある ビジネスについて情報収集(1時間)			
3	〃	スポーツビジネスにおけるマーケティング（4P）			スポーツに関連したビジネスや自分の興味のある ビジネスについて情報収集(1時間)			
4	〃	スポーツビジネスにおけるスポンサーシップ			スポーツに関連したビジネスや自分の興味のある ビジネスについて情報収集(1時間)			
5	〃	スポーツビジネスにおけるファシリティ			スポーツに関連したビジネスや自分の興味のある ビジネスについて情報収集(1時間)			
6	〃	ユニークなビジネスを探る（個人課題）			個人課題(ユニークなビジネスアイデア紹介) の作成（1時間）			
7	〃	ユニークなビジネスの共有（個人プレゼンテーション）			個人課題(ユニークなビジネスアイデア紹介) の作成（1時間）			
8	〃	グループワークの方法とプロジェクトの内容			ビジネスアイデアをできるだけ多く考案してく る(1時間)			
9	〃	グループワーク①			ビジネスアイデアをできるだけ多く考案してく る(1時間)			
10	〃	グループワーク②			事業計画書の項目についてそれぞれ考えてくる(1 時間)			
11	〃	グループ中間プレゼンテーション			グループプロジェクト課題のサマリー(要約)の作 成(1時間)			
12	〃	グループワーク③			グループプロジェクト課題の作成と準備(1時間)			
13	〃	グループワーク④			グループプロジェクト課題の作成と準備(1時間)			
14	〃	グループ最終プレゼンテーション			グループプロジェクト課題の作成と発表の準備(1 時間)			
15	〃	まとめ			グループプロジェクトの評価と授業の振り返り(1 時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツ統計学 (131B0-1313)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	西嶋 尚彦・松岡 弘樹				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3 年次		受け入れ人数	—	
授業の概要	情報社会化が進み、データ分析に基づく問題解決能力が必要となっている。本授業では、SPSS、R、Python等の統計分析ソフトウェアを用いて、分散分析、相関・回帰分析、多変量統計解析、構造方程式モデリング、ニューラルネットワーク等の機械学習手法などの分析方法、分析結果の読み取り方を学ぶ。これにより、先端的な統計分析手法と機械学習のデータ分析手法等を卒業論文等のデータへ適用し、問題を解決する実践力を修得する。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	統計分析手法と機械学習手法を理解し、説明できる。			○			40
	■情意的領域	体育・スポーツ分野におけるデータの統計分析の実践力の向上に意欲的に取り組む。			○			20
■技能的領域	授業内容の手順に従って、統計分析手法と機械学習手法を実践し、データ分析過程をレポートする。			○			40	
成績評価の基準	全16回の授業の「基本的、先端的統計分析方法」についてのレポートを作成し、レポートを提出する。							
テキスト、教材 参考書	資料は「Web-Class」からダウンロードする。 参考書：1)「Rによる心理・調査データ解析 第2版」(緒賀郷志 著, 2019, @3080円), 2)「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第3版」(小塩真司 著, 2018, @3080円)							
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	・統計ソフトウェアを用いるため、各自ネットワークに接続できるPCを準備すること。					
オフィス・アワー								
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	西嶋 尚彦	1. オリエンテーション、統計ソフトウェアのインストール(SPSSまたはR)			復習 (30分)			
2	〃	2. 統計ソフトウェアのインストール (Python)			復習 (30分)			
3	松岡 弘樹	3. SPSSまたはRを用いた一元配置分散分析 (繰り返しなし)			復習 (30分)			
4	〃	4. SPSSまたはRを用いた一元配置分散分析 (繰り返しあり)			レポート提出 (1時間)			
5	〃	5. SPSSまたはRを用いた二元配置分散分析 (繰り返しなし) (主効果)			復習 (30分)			
6	〃	6. SPSSまたはRを用いた二元配置分散分析 (混合モデル1 交互作用)			復習 (30分)			
7	〃	7. SPSSまたはRを用いた二元配置分散分析 (混合モデル2 単純主効果)			レポート提出 (1時間)			
8	〃	8. SPSSまたはRを用いた相関、偏相関分析			復習 (30分)			
9	〃	9. SPSSまたはRを用いた重回帰分析			復習 (30分)			
10	〃	10. SPSSまたはRを用いたロジスティック回帰分析			レポート提出 (1時間)			
11	〃	11. SPSSまたはRを用いた構造方程式モデリング (回帰モデル)			復習 (30分)			
12	〃	12. SPSSまたはRを用いた構造方程式モデリング (多重指標モデル)			レポート提出 (1時間)			
13	〃	13. SPSSまたはRを用いた項目反応理論分析			レポート提出 (1時間)			
14	〃	14. Pythonを用いた記述統計			復習 (30分)			
15	〃	15. Pythonを用いた決定木分析			復習 (30分)			
16	〃	16. Pythonを用いたニューラルネットワーク			レポート提出 (1時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマーケティング論 (131B3-1314)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)			
担当教員名	隅野 美砂輝			補助担当者名				
単位数	2 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名			
授業の概要	スポーツに関するビジネスを行う際、一般のビジネスと同様にマーケティングの基本的な原理、知識、手法の理解は必要不可欠である。本授業では、主に講義を中心として、スポーツの分野に関してマーケティングの基本的な原理、知識、手法を概説する。スポーツに関するビジネスを効率的かつ効果的に行うための専門的・応用的な知識や考え方・意欲を身につける科目である。また、事業運営力、一般教養・倫理、専門的な知識や教養が身につくことが期待される。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、一般教養・倫理、専門的な知識 ・教養	授業期間					
			授業	テスト	レポート	発表	定期 試験	その他
	■認知的領域	スポーツ・マーケティングに関する知識を統合し、それ自体やその課題について分析し説明できる。マーケティングの視点から、スポーツを捉えることができる。	○		○	○	○	
■情意的領域	スポーツ・マーケティングについて興味・関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢や、その課題解決に向かって意欲的に取り組む意思を持つ。	○		○	○	○		50
	□技能的領域							
成績評価の基準	期末試験成績、課題の提出状況により総合的に評価する。							
テキスト、教材 参考書	テキストはないが、以下の参考書を推薦する。 山崎利夫編著「健康フィットネス・マネジメント」サイエンティスト社 小川孔輔著「マーケティング入門」日本経済新聞出版社 グロービス・マネジメント・インスティテュート編著「新版MBAマネジメント・ブック」							
履修条件・ 関連科目	・1年次の履修は認めない ・「スポーツ社会学」「スポーツ産業論」「スポーツマネジメント概論」を履修しておくことが望ましい ・受入れ人数を超える場合は、以上の授業の履修状況・授業態度および成績により制限を行う可能性があるため、第1回目の授業には必ず出席すること。出席できない場合は事前に相談すること。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	501研究室 火曜日 16-17時 msumino@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	隅野 美砂輝	授業の進め方説明、スポーツ・マーケティングとは	シラバスの確認 (1時間)					
2	〃	スポーツにおけるマーケティングの意義・役割	スポーツにおけるマーケティング概念の復習を行う (1時間)					
3	〃	スポーツ分野におけるスポンサーシップ	スポンサーシッププログラムやコンセプトを考案する (1時間)					
4	〃	市場分析と顧客分析 (環境分析、市場の機会と脅威、ターゲット市場)	課題：スポーツ関連企業・組織の環境分析を行う (1時間)					
5	〃	市場をつかむ (マーケットリサーチ)	リーディングアサシメント (1時間)					
6	〃	マーケティング・ミックス (製品、価格、流通、プロモーション)	リーディングアサシメント (1時間)					
7	〃	製品、プログラム戦略 (製品の概念、ポジショニング、製品の開発)	課題：ある製品・プログラムのポジショニング図の作成 (1時間)					
8	〃	製品、プログラム戦略 (ライフサイクル、ブランド戦略)	リーディングアサシメント (1時間)					
9	〃	価格戦略 (価格設定)	リーディングアサシメント (1時間)					
10	〃	価格戦略 (価格設定、価格決定要因、ライフサイクルと価格)	オリジナルプログラムを作成し、その価格設定を行う (1時間)					
11	〃	流通戦略 (流通チャンネルの種類、チャンネル構築のステップ)	リーディングアサシメント (1時間)					
12	〃	プロモーション戦略 (購買決定プロセス、戦略立案ステップ、戦略に影響する要因)	リーディングアサシメント (1時間)					
13	〃	プロモーション戦略 (広告、広報、販売促進)	オリジナルのプロモーション計画を立案する (1時間)					
14	〃	スポーツ関連企業のマーケティング事例	リーディングアサシメント (1時間)					
15	〃	まとめ 復習	リーディングアサシメント (1時間)					
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論 (131B2-1315)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数 100名程度		
授業の概要	私たちのからだは、動かさないと生理的機能は加齢による影響以上に退行していきます。しかし、過度に使いすぎると器官に不調をきたし、スポーツ障害を引き起こしてしまうこともあります。アメリカスポーツ医学会（ACSM）が提唱している「Exercise is Medicine」という言葉が示すように、正しい科学的知見に基づいて行われる運動は、健康づくりや疾病の予防に対して有効な手段となり得ます。本授業では、どのような運動を、どれくらいの強さと量で行えばいいのかなど、健康のための運動処方について学びます。これにより運動を指導する者としての「指導者基礎力」ならびに「科学的支援力」が身につくことが期待されます。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養 (指導者基礎力、科学的支援力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	健康に関連する体力要素の内容、その評価法について理解している。また、健康の維持・増進、および疾病の予防に必要な運動の効果、リスク、方法に関して理解し、運動処方に活用することができる。	○		○			60
	■情意的領域	健康づくりに対する運動のあり方について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む意思を持つ。	○					40
□技能的領域								
成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み状況、レポート課題により総合的に評価する。							
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配付する。							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	この授業のすべての連絡は基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。				
オフィス・アワー	必要に応じメールにて問い合わせを：fujita@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	藤田 英二	オリエンテーション：運動処方とは						
2	〃	健康の維持・増進に必要な体力とは何か			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
3	〃	生活習慣病について			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
4	〃	身体組成とその評価法について			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
5	〃	発育・発達と加齢に伴う体の変化			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
6	〃	運動の種類と強度・量の表し方			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
7	〃	わが国の運動指針と総論としての運動処方について			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
8	〃	有酸素運動とその効果			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
9	〃	レジスタンス運動とその効果			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
10	〃	柔軟運動とその効果			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
11	〃	バランス運動とその効果			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
12	〃	骨密度を高める運動とその効果			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			
13	〃	様々な対象に応じた運動処方			WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。			

14	"	運動処方時の安全管理	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
15	"	いままでの授業のまとめ	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	応用スポーツ心理学 (131B3-1316)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	森 司朗				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数	—	
授業の概要	この科目は、心理的な立場からより効果的な運動指導のするための能力を身につける科目である。具体的には、2年次で履修したスポーツ心理学の講義の内容を発展させ、より質の高い指導者として把握しておくべき最近のスポーツ心理学に関する理論及び知識を習得することを目的とする。授業内容は運動学習、動機づけ、心理学な観点からのジュニア期の運動指導のあり方などを中心に行う。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	スポーツ心理学の応用知識を理解している 自分の運動経験をスポーツ心理学の知識を応用して解決できる		○	○		○	90
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む	○					10
□技能的領域								
成績評価の基準	出席2/3以上で、授業内容の総理解が6割を超えていることを合格の条件とする							
テキスト、教材 参考書	杉原・船越・中込編著「スポーツ心理学の世界」(福村出版)							
履修条件・ 関連科目	1・2年次にスポーツ心理学、スポーツメンタルトレーニング論を履修していることを授業条件とする		備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習をしておくこと				
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～17時 702研究室、体育心理学実験室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	森 司朗	オリエンテーション：スポーツ心理学とは						
2	〃	学習理論から導かれる練習・指導1			授業内容の予習と復習(30分以上)			
3	〃	学習理論から導かれる練習・指導2			授業内容の予習と復習(30分以上)			
4	〃	学習理論から導かれる練習・指導3			学習理論に関するまとめのレポート(30分以上)			
5	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下1			授業内容の予習と復習(30分以上)			
6	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下2			授業内容の予習と復習(30分以上)			
7	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下3			試合場面に関するレポート(30分以上)			
8	〃	状況判断能力を養う1			授業内容の予習と復習(30分以上)			
9	〃	状況判断能力を養う2			レポート			
10	〃	状況判断能力を養う3			状況判断能力に関するまとめのレポート(30分以上)			
11	〃	子どもの運動能力の現状と課題			授業内容の復習(30分以上)			
12	〃	子どものスポーツ指導のあり方(体の側面から)1			授業内容の予習と復習(30分以上)			
13	〃	子どものスポーツ指導のあり方(体の側面から)2			授業内容の予習と復習(30分以上)			
14	〃	子どものスポーツ指導のあり方(心の側面から)1			授業内容の予習と復習(30分以上)			
15	〃	子どものスポーツ指導のあり方(心の側面から)2			子どものスポーツ指導に関するまとめのレポート(30分以上)			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	イベント管理学概論 (131B3-1317)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	間藤 芳樹				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3 年次		受け入れ人数	20名程度	
授業の概要	本授業はスポーツイベントを中心に、管理の視点より、イベントの企画、計画、制作の実践的理論手法を提供するものである。本講座は、日本イベント産業振興協会 (JACE) が行っている「イベント検定」の認定講座であり、授業内で「イベント検定」の資格を修得することが可能である。(有料)							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、課題解決力、専門的な知識・教 養 (コミュニケーション能力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的 領域	企画書作成時、実現可能な企画を提案できる 企画実現時に具体的な管理手段を整理できる	○		○			40
	■情意的 領域	①ワーキング授業により、意欲的主体的に取り 組もうとする ②グループ授業により、コミュニケーション 能力の重要性を理解しようとする	○					30
■技能的 領域	指示された、条件、期限内に提案書、レポー トを作成できる			○			30	
成績評価の基準	授業の積極的な参加・授業内の小レポート4種類、グループワーキングでの企画発表 全体レポートの各点を合計し、60点以上を合格とする							
テキスト、教材 参 考 書								
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	遅刻は原則として認めない ○実務経験のある教員による授業科目：プロモーション、 イベント企画・制作会社経営者。 ※コロナの影響が残っている場合、グループワーキングを 個人作業に変更します。				
オフィス・アワー	随時受付ける。							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	間藤 芳樹	授業ガイダンス (概要、心構え、成績評価等)			教科書の目次を読み把握する (20分)			
2	"	イベント概論①イベントの基礎を学ぶ 概論、歴史			教科書の第1章を読む (60分)			
3	"	イベント概論②イベントの基礎を学ぶ 構造、分類			教科書の第1章のポイントを確認する (30分)			
4	"	イベントの企画を学ぶ① 企画と計画			教科書の第3章を読む (60分)			
5	"	イベントの企画を学ぶ② 企画と計画			教科書の第3章のポイントを確認する (30分)			
6	"	企画演習①基本構想基本計画について作業する			各種情報にアクセスし、コンテンツを探す (90分)			
7	"	イベントのリスクマネージメントについて学ぶ			各種情報にアクセスし、コンテンツを参考にする (30分)			
8	"	映像資料②実際の文化、スポーツイベントについて映像で学ぶ			イベントの映像作品を探し見る (60分以上)			
9	"	イベントの企画書を制作する① (グループワーキング OR 個人作業)			各グループで情報交換を行う (60分)			
10	"	イベントの企画書を制作する② (グループワーキング OR 個人作業)			各グループで、役割分担し制作作業をする (60分)			
11	"	プレゼンテーションを実施する (グループワーキング OR 個人作業)			各グループで、リハーサルを行う (30分)			
12	"	イベントの安全管理について学ぶ			第5章を読む (30分)			
13	"	ユニバーサルイベントについて学ぶ			第5章を読みポイントの確認をする (30分)			
14	"	企画演習、課題における企画書の作成			企画書の下書きを制作する (90分)			
15	"	レポート提出 企画検証			企画書の政策をする (20分)			
16	"	全体講評 イベント検定対応			教科書のポイントを振り返り読む (40分)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスプロモーション論・実習 (131B2-7301)		授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	中垣内 真樹・廣津 匡隆・未 定				補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3年次	受け入れ人数	—		
授業の概要	健康維持や増進および生涯スポーツの普及を目指す上で必要なヘルスプロモーションに関わる基礎的な事項を学び、運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、演習、実習を通して身につけることを目指す。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	健康および疾病予防等に関する知識を修得し、健康づくりの具体的な方法を身につける	○		○			40
	■情意的領域	健康づくり運動プログラムの組み立て方や効果と安全性を確保できる指導方法について理解する	○					40
■技能的領域	ヘルスプロモーションに関する技能を実践し、遂行できる能力を身につける	○					20	
成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業中の意欲、授業中に課したレポートなどの各得点を合計し、60点以上の者を合格とする。							
テキスト、教材 参考書	適宜授業で紹介する。 参考書：「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） ：「運動処方指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円）							
履修条件・ 関連科目	運動生理学，トレーニング科学概論，生涯スポーツ論・演習[健康・体力論・演習]等を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階 407研究室 廣 津：研究棟3階 304研究室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	中垣内 真樹	オリエンテーション						
2	廣津 匡隆	運動における外傷と内科的障害の予防等について学ぶ			復習・小レポート（1時間）			
3	未 定	健康診断結果の読み方			WebClassでの復習（30分）			
4	中垣内 真樹	安静時心電図の読み方			WebClassでの復習（30分）			
5	中垣内 真樹 廣津 匡隆	運動負荷試験の実際（概論）			WebClassでの復習（30分）			
6	中垣内 真樹 廣津 匡隆	運動負荷試験の実際（トレッドミル法）			WebClassでの復習（30分）			
7	中垣内 真樹 廣津 匡隆	運動負荷試験の実際（自転車エルゴメータ法）			WebClassでの復習（30分）			
8	〃	中高年者の体力関するフィールドテストについて			WebClassでの復習（30分）			
9	〃	中高年者の体力に関するフィールドテストについて			WebClassでの復習（30分）			
10	〃	介護予防に関連する体力測定とその評価			WebClassでの復習（30分）			
11	〃	介護予防に関する運動の実際			WebClassでの復習（30分）			
12	〃	介護予防に関する運動の実際			WebClassでの復習（30分）			
13	〃	生活習慣病に対する運動プログラムの作成（包括的なプログラム）			WebClassでの復習（30分）			
14	〃	肥満、高血糖に対する運動プログラムの作成			WebClassでの復習（30分）			
15	〃	高血圧、脂質異常症に対する運動プログラムの作成			WebClassでの復習（30分）			
16	〃	ロコモティブシンドロームに対する運動プログラムの作成			WebClassでの復習（30分）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ国際開発論 (131B0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)						
担当教員名	山田 理恵・北村 尚浩・森 克己・関 朋昭・モハモド モニルル イスラム			補助担当者名							
単位数	2 単位	履修年次	2	受け入れ人数	—						
授業の概要	<p>スポーツを通じた国際開発と平和 (International Development and Peace through Sport) について概観し、グローバルな視座に立って国際開発におけるスポーツの果たす役割、機能に対する理解を深める。それによって、スポーツを通じた国際開発の意義と課題について考察する能力を身に付けることができる。</p> <p>それらによって、教養として必要な知識を身につけ、論理的に考え表現できる能力を身につけることが期待される。</p>										
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、専門的な知識・教養	授業期間								
			授業	テスト	レポート	発表	定期 試験	その他	割合 %		
	■認知的領域	スポーツを通じた国際開発の基礎知識を身に付ける。 スポーツを通じた国際開発の問題を考える視点を身に付ける。			○	○					70
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、授業での発表・レポート作成に積極的に取り組む。	○		○						30
□技能的領域											
成績評価の基準	授業での発表内容、毎回の授業時に課されるレポートへの取組を総合的に評価する。										
テキスト、教材 参考書	参考書：齊藤一彦・岡田千あき・鈴木直文編著『スポーツと国際協カースポーツに秘められた豊かな可能性』（大修館書店、2015年） その他適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。										
履修条件・ 関連科目	6回～8回（北村担当）では、iPadを使用する。	備考(教員メッ セージ含む)	特になし。								
オフィス・アワー	山田（随時：705研究室） イスラム：教員研究室509号（内線：4962）にて随時（但し、事前に申し出ること）										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
1	山田 理恵	スポーツを通じた開発（国際開発・地域開発）とは	参考書等の予習および復習（30分以上）								
2	森 克己	スポーツにおける人権問題と開発①	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習（30分以上）								
3	〃	スポーツにおける人権問題と開発②	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習・復習（30分以上）								
4	〃	スポーツにおける人権問題と開発③	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習（30分以上）								
5	モハモド モニルル イスラム	スポーツ国際開発と身体測定評価①	左記の予習と配布資料の復習（60分）								
6	〃	スポーツ国際開発と身体測定評価②	左記の予習と配布資料の復習（60分）								
7	〃	スポーツ国際開発と身体測定評価③	左記の予習と配布資料の復習（60分）								
8	北村 尚浩	スポーツ産業と開発	Reading assignment（30分以上）								
9	〃	スポーツイベントと開発	Reading assignment（30分以上）								
10	〃	スポーツ産業の功罪	課題レポート（60分以上）								
11	関 朋昭	スポーツ国際開発とマネジメント①（経済的効果）	リーディングアサイメント（1時間）								
12	〃	スポーツ国際開発とマネジメント②（経済的効果）	リーディングアサイメント（1時間）								
13	〃	スポーツ国際開発とマネジメント③（スポーツマーケティング）	リーディングアサイメント（1時間）								
14	山田 理恵	スポーツと国際平和	参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）								
15	〃	オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの展開	参考書等の予習および復習（60分以上）								

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス研究論 (131B4-1318)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)		
担当教員名	高橋 仁大・金高 宏文・竹中 健太郎・永原 隆・榮樂 洋光・藤井 雅文				補助担当者名			
単位数	2 単位	履修年次	3年後期		受け入れ人数	—		
授業の概要	本授業では、スポーツや武道等の実践現場における活動や取り組み（スポーツパフォーマンス）を記述（可視化）→説明（解釈）→予測（仮説創出）→操作（仮説検証）する研究方法について解説するとともに、その研究例（実践研究）を紹介する。受講生は、卒業研究等において実践研究の論文の作成ができるようになるための基礎的な研究方法について理解し、身につける。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・ 教養 (課題発見力、科学的表現力、専門的な知識・ 教養)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	実践研究の研究方法を理解する。多様な実践研究について把握する。	○		○			10
	■情意的領域	現場課題を積極的に研究課題へと展開し、積極的に研究をしようとする。	○		○			45
■技能的領域	現場課題から研究課題を設定し、適切な研究方法を選択し、活用できる。	○		○			45	
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度（授業内レポートや質疑応答等）および各授業者から提出された課題（小レポート課題）の達成度から総合的に評価する。							
テキスト、教材 参考書	参考書：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版（2018） 参考資料：『スポーツパフォーマンス研究』（ http://www.sports-performance.jp/ ）に掲載された研究論文 授業で必要な資料は、WebClassからダウンロードすること。							
履修条件・ 関連科目	本科目は、スポーツ・武道実践科学系およびスポーツ生命科学系に所属する教員のゼミナールを受講する学生の選択必修科目となっています。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	事前にアポイントをとること 高橋(スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 金高(月曜日 15:00~16:00 大学院棟3階 4教員研究室) 竹中(研究棟5階507教員研究室) 榮樂(研究棟7階709教員研究室) 藤井(研究棟8階804教員研究室) 永原(大学院棟3階 1教員室)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	高橋 仁大	オリエンテーション スポーツパフォーマンス研究論の考え方 スポーツパフォーマンス研究の実例(球技)			講義内容の予習と復習(1時間)			
2	金高 宏文	スポーツパフォーマンス研究の実例(コツとカンの分析)			講義内容の予習と復習、小レポート課題の作成(1時間)			
3	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(動作やフォームの主観的評価・タイプ分け)			講義内容の予習と復習、小レポート課題の作成(1時間)			
4	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(単一事例の事例研究の書き方)			講義内容の予習と復習、小レポート課題の作成(1時間)			
5	榮樂 洋光	スポーツパフォーマンス研究の実例(セーリング競技(ヨット、ウインドサーフィン))			講義内容の予習と復習(1時間)			
6	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(ローイング競技(カヌー、ボート))			講義内容の予習と復習(1時間)			
7	永原 隆	スポーツパフォーマンス研究の実例(研究に必要な諸要素、論文に何を書くか)			講義内容の予習と復習(1時間)			
8	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(論文をどのように書くか、文献、統計、禁止事項)			講義内容の予習と復習(1時間)			
9	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(陸上競技 その他)			講義内容の予習と復習(1時間)			
10	竹中 健太郎	スポーツパフォーマンス研究の実例(剣道)			講義内容の予習と復習(1時間)			
11	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(武道)			講義内容の予習と復習(1時間)			
12	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(武道 その他)			講義内容の予習と復習(1時間)			
13	藤井 雅文	スポーツパフォーマンス研究の実例(野球)			講義内容の予習と復習(1時間)			
14	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例(野球 その他)			講義内容の予習と復習(1時間)			
15	高橋 仁大	スポーツパフォーマンス研究の実例(テニス) 自身の研究計画の提出			研究計画の作成 講義内容の予習と復習(2時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験 I (132A0-2100)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)		
担当教員名	興谷 謙吾・未定・森 司朗・堀内 雅弘・高井 洋平・モハモド モニルル イスラム・石澤 里枝	履修年次	1	補助担当者名			
単位数	2 単位			受け入れ人数	全員		
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、内外環境のさまざまな刺激に対する人体の生理機能、心理機能の応答に関して学習することは重要なことである。また、同時にこれらの研究分野で用いられる基礎的な測定方法を習得することは、心身機能を評価するための第一歩でもある。本実験演習では、スポーツサイエンスの基本的な学問である「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」の各分野における基礎的な実験を行い、その測定技術を習得するとともに、測定値を評価する基礎理論の学習を目指すものである。						
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養 (科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養)	授業期間		定期 試験	割合 %	
			授業	テスト			レポート
	■認知的領域	・各分野における基礎的な測定方法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポートを的確に作成することができる。			○		
■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○					50
□技能的領域							
成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。						
テキスト、教材参考書	堀内・興谷：資料はその都度配付する。 石澤：資料は必要に応じてその都度配布する。						
履修条件・関連科目	解剖生理学を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	体育学実験 I の運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）かつスポーツシューズを履いてくること。また、バイオメカニクス領域においても、SPセンターでの実習時には室内履きシューズを持参すること。				
オフィス・アワー	高井洋平：随時可能ですが、あらかじめ予約をしてもらえると確実です（スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp）。 イスラム モハモド モニルル：教員研究室509号（内線：4962）にて随時						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	興谷 謙吾	血圧の測定－簡便なメディカルチェッカー	メディカルチェックにおける血圧測定の意義を理解し、本実習で測定されたデータを基にレポートを作成する。（1時間）				
2	〃	筋電図の測定－異なる力発揮中の筋電図－	異なる力発揮によって得られる筋電図のデータを基にレポートを作成する。（1時間）				
3	興谷 謙吾 堀内 雅弘	体力測定－無酸素性パワー（瞬発力）と有酸素性パワー（持久力）－	無酸素性パワーと有酸素性パワーを測定し、それぞれの値から体力評価、種目特性などについてレポートを作成する。（1時間）				
4	〃	身体組成－体脂肪率の推定－	炭研式キャリパーを用いて皮脂厚の測定、並びに体脂肪率を算出し、そのデータを基にレポートを作成する。（1時間）				
5	高井 洋平	走および跳躍パフォーマンスにおけるフィールドテストの方法	走および跳躍能力におけるフィールドテストの方法を理解し、得られたデータの相互関係をレポートに作成する。（1時間）				
6	〃	人の位置の測定方法	人の位置の測定原理を理解し、データ分析を行う。得られたデータを基にレポートを作成する。（1時間）				
7	未 定	ハイスピードカメラを用いたスポーツ動作のフィードバック	ハイスピードカメラの特徴、種類、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）				
8	〃	モーションキャプチャーとフォースプレートを用いた3次元動作分析	モーションキャプチャーとフォースプレートの特徴、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）				
9	森 司朗	性格検査	性格検査の結果を元にレポートを作成する。（1時間）				
10	〃	目標設定と運動パフォーマンス	目標設定と運動パフォーマンスの関係についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）				

11	〃	練習効果の転移	練習効果の転移についての実験結果を元にレポートを作成する。(1時間)
12	〃	反応時間	反応時間についての実験結果を元にレポートを作成する。(1時間)
13	モハモド モニルル イスラム	バランス [閉眼片足立], 敏捷性 [8フィートアップアンドゴー] の測定法	調査結果に対する評価をレポートにまとめる (1時間)
14	〃	運動時の安全性指標の計測—脈拍, 主観的運動強度 (RPE), 動脈血酸素飽和度 (SPO2) —	調査結果に対する評価をレポートにまとめる (1時間)
15	石澤 里枝	推定エネルギー必要量の評価 (除脂肪量・基礎代謝量の測定)	推定エネルギー必要量の評価方法を理解して、レポートにまとめる (1時間)。
16	〃	エネルギー摂取量の評価 (食事摂取頻度法)	エネルギー摂取量の評価方法を理解して、レポートにまとめる (1時間)。

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－運動生理学 (132B0-2300)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)		
担当教員名	田巻 弘之・堀内 雅弘・與谷 謙吾				補助担当者名	()		
単位数	4 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	20名程度		
授業の概要	<p>スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、密接に関連している自然科学領域それぞれにおいて、基礎的な知識・教養に基づき、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。</p> <p>本実験演習Ⅱ「運動生理学」では、体育学実験Ⅰの運動生理学領域を発展させ、呼吸循環機能、神経－筋機能に関するより専門的、かつ高度な実験を実習する。これらを通じ、メディカルチェック、体力測定、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した専門的測定技術、ならびに測定値を評価するエキスパートアイが身につくと期待される。</p>							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養 (科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解している。 実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価している 学術的な表現、表記を用いてレポートやスライドを作成し、発表することができる。 			○	○		50
■情意的領域	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組んでいる。 実習を通して、自然科学分野の研究に興味・関心を示している。 	○					50	
□技能的領域								
成績評価の基準	<p>授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。</p> <p>授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。</p>							
テキスト、教材 参考書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配付する。							
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、生物化学論などを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅱの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）で、かつスポーツシューズを履いてくること。					
オフィス・アワー	<p>堀内雅弘：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 303研究室(mhoriuchi@nifs-k.ac.jp)</p> <p>與谷謙吾：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室(yotani@nifs-k.ac.jp)</p> <p>田巻弘之：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室(tamaki@nifs-k.ac.jp)</p>							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	田巻 弘之 堀内 雅弘 與谷 謙吾	オリエンテーション：今後の授業展開に関する資料配布等			資料を参考に今後の予定確認と来週実施するメディカルチェックについて予習(情報整理)を行う（1時間）			
2	〃	姿勢変換時の血圧応答			仰臥位、座位、立位と姿勢を変換させることで、血圧や心拍数がどのように変化するかを観察し、そのメカニズムを考察し、レポートにまとめる（1時間）			
3	〃	運動時の血中乳酸変化			比較的短時間高強度運動を行い、運動前後で血中乳酸を指先から正確に測定できる技術を身につける。運動前後で血中乳酸がどのように変化するか、また回復過程も観察し、エネルギー供給機構の観点から考察し、レポートを作成する（1時間）			
4	〃	運動時の呼吸循環系応答－その1－：酸素摂取量の測定実習			酸素摂取量の測定意義についてまとめるとともに、通常濃度の酸素環境下（常酸素）の運動で、呼気ガス諸変量をダグラスバッグ法により測定し、酸素摂取量、二酸化炭素排出量、換気量を計算し、運動強度と呼気ガス諸変量の関係を検討する（1時間）			
5	〃	運動時の呼吸循環系応答－その2－：低酸素環境下における運動時の酸素摂取量測定			酸素摂取量の測定意義についてまとめるとともに、低濃度の酸素環境下（低酸素）の運動で、呼気ガス諸変量をダグラスバッグ法により測定し、酸素摂取量、二酸化炭素排出量、換気量を計算し、常酸素環境下での応答と比較検討する（1時間）			
6	堀内 雅弘	これまでのデータ整理とレポート作成			実習内で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）			

7	田巻 弘之 堀内 雅弘 與谷 謙吾	筋電図の記録方法と局所疲労時の変化	筋電図の正しい記録方法と疲労に伴う筋電図の様相を記録・分析し、レポートを作成する(2時間)
8	〃	誘発筋電図(H波とM波)	電気刺激で末梢神経を刺激してH波とM波を記録し、その神経系の伝導・伝達に関するメカニズムを調べ、レポートを作成する(2時間)
9	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間①	経頭蓋磁気刺激によって運動誘発電位潜時を計測し、その電位発生に至るまでのメカニズムについて調べ、レポートを作成する(2時間)
10	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間②	視覚または聴覚刺激に対する左右肢の筋電図反応時間を計測し、時間の長さに関する知見を調べてレポートを作成する(2時間)
11	〃	筋活動の可視化(筋電図/筋酸化)とスポーツ、トレーニングへの活用、データ解析	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する(2時間)
12	〃	ストレッチングの筋力発揮/筋放電活動への影響、データ解析	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する(2時間)
13	〃	脳内で力発揮を抑制するしくみ(両側性機能低下現象)を調べる	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する(2時間)
14	〃	筋組織(筋線維)のイメージングと組織染色法(速筋・遅筋の判定)	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する(2時間)
15	田巻 弘之 與谷 謙吾	これまでのデータ整理とレポート作成	実習内で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－バイオメカニクス (132B0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)			
担当教員名	高井 洋平・宮崎 輝光・未 定			補助担当者名				
単位数	4 単位	履修年次	－	受け入れ人数	－			
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。本実験演習Ⅱでは、体育学実験Iを発展させ、動作分析、筋力・パワー、筋腱複合体に関するより専門的かつ高度な実験を行い、動作の習熟、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した測定技術を習得するとともに、測定値を評価する専門理論の学習を目指すものである。							
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間		定期 試験	割合 %		
			授業	テスト			レポート	発表
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。			○	○		
■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域							
成績評価の基準	授業へ出席し、実験の測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席と認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。							
テキスト、教材参考書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配布する。							
履修条件・関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、バイオメカニクス（並行開設）を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	高井洋平 随時可能だが、事前にアポイントを取ることが望ましい（スポーツトレーニング教育研究センター・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） 宮崎輝光 随時（研究棟4階 408教員研究室）．事前にアポイントを取ることが望ましい（t-miyazaki@nifs-k.ac.jp）							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	高井 洋平 宮崎 輝光	オリエンテーション：バイオメカニクス研究法について、今後の授業展開について		今後行われる授業の予習を行う（1時間）				
2	〃	地面反力の測定と分析①		筆記用具持参、運動のできる格好、データ分析、レポート作成（1時間）				
3	〃	地面反力の測定と分析②		筆記用具持参、運動のできる格好、データ分析、レポート作成（1時間）				
4	〃	地面反力の測定と分析③		筆記用具持参、運動のできる格好、データ分析、レポート作成（1時間）				
5	〃	3次元動作の測定と分析①		筆記用具持参、運動のできる格好、データ分析、レポート作成（1時間）				
6	〃	3次元動作の測定と分析②		筆記用具持参、運動のできる格好、データ分析、レポート作成（1時間）				
7	〃	位置座標計測システムの使い方①		筆記用具持参、運動できる格好、座標について予習・復習をする（1時間）				
8	〃	位置座標計測システムの使い方②		筆記用具持参、運動できる格好、座標について予習・復習をする（1時間）				
9	〃	座標を用いた人の移動に関する実験方法①		筆記用具持参、運動できる格好、座標の分析について予習・復習をする（1時間）				
10	〃	座標を用いた人の移動に関するデータ分析②		情報処理室、筆記用具持参、授業の復習（1時間）				
11	〃	座標を用いた人の移動に関するデータ分析③		筆記用具持参、運動できる格好、レポート作成（1時間）				
12	〃	研究計画の立案・実験・データ分析①		筆記用具持参、運動できる格好、データの分析（1時間）				
13	〃	研究計画の立案・実験・データ分析②		筆記用具持参、運動できる格好、データの分析、プレゼンテーションの準備（1時間）				
14	〃	研究計画の立案・実験・データ分析③		筆記用具持参、運動できる格好、データの分析、プレゼンテーションの準備（1時間）				
15	〃	実験結果のプレゼンテーション・レポート作成		筆記用具持参、レポート提出（1時間）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－スポーツ心理学 (132B0-2302)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)		
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮				補助担当者名			
単位数	4 単位	履修年次	－		受け入れ人数	－		
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱ「スポーツ心理学」では、体育学実験Ⅰを発展させ、スポーツ心理学の基本的な研究方法の基礎知識及び手法を学習するとともに、データ分析及び解釈について発表・議論し、科学的な表現力・支援力を身につけることを目指す。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・体育・スポーツ心理学における研究法の全体像について理解する。	○					30
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○			○		30
■技能的領域	・仮説に基づいたデータ分析ができる。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。			○	○		40	
成績評価の基準	出席回数は2/3以上の受講生を対象とし、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況、議論への参加状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。							
テキスト、教材 参考書	テキスト（資料）は、その都度配付する。							
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッ セージ含む)	特になし。					
オフィス・アワー	随時、だが事前にメールにて連絡をすること。 702教室（森moris@nifs-k.ac.jp）707研究室（中本nakamoto@nifs-k.ac.jp）、							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	森 司朗 中本 浩揮	オリエンテーション						
2	中本 浩揮	基礎：体育・スポーツ心理学研究法 1			体育・スポーツ心理学研究法の特徴についてまとめよ 予習・復習30分			
3	〃	基礎：体育・スポーツ心理学研究法 2			体育・スポーツ心理学研究法の特徴についてまとめよ 予習・復習30分			
4	〃	基礎：心理プロセスの推定方法 1 反応時間			反応時間によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ 予習・復習30分			
5	〃	演習：心理プロセスの推定方法 2 選択反応時間			反応時間によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ 予習・復習30分			
6	〃	基礎：心理プロセスの推定方法 3 視線			視線によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ 予習・復習30分			
7	〃	演習：心理プロセスの推定方法 4 視線			視線によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ 予習・復習30分			
8	〃	基礎：心理プロセスの推定方法 5 脳波			脳波によって心理プロセスを推定する方法についてまとめよ 予習・復習30分			
9	〃	演習：心理プロセスの推定方法 6 脳波と感情			脳波の長所・短所についてまとめよ 予習・復習30分			
10	〃	基礎：質問紙研究法 1			質問紙の特徴についてまとめよ 予習・復習30分			
11	森 司朗	幼児の運動能力検査 1 運動能力検査の概要			予習・復習30分			

12	"	幼児の運動能力検査2 運動能力検査の測定方法（1）	予習・復習30分
13	"	幼児の運動能力検査3 運動能力検査の測定方法（2）	予習・復習30分
14	"	幼児の運動能力検査4 運動能力検査の測定	予習・復習30分
15	"	幼児の運動能力検査5 運動能力測定結果のまとめ	予習・復習30分

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－衛生学・公衆衛生学、スポーツ栄養学 (132B0-2303)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)					
担当教員名	モハモド モニルル イスラム・石澤 里枝			補助担当者名						
単位数	4 単位	履修年次	2	受け入れ人数	10					
授業の概要	スポーツ・武道、並びに体育・健康づくりの専門化を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本体育学実験演習Ⅱ「公衆衛生・栄養学」は、体育学実験Ⅰを発展させ、種々の環境状況の測定や食事摂取や体調の変化が影響する測定を習得するとともに、測定値を客観的に比較・評価するための専門的な学習を目指すものである。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識 ・教養	授業期間							
			授業	テスト	レポート	発表	定期 試験	その他	割合 %	
	■認知的 領域	・それぞれの実験において、測定技術及びその客観的評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、知見に基づいたレポートの作成、対策などの発表を行うことができる。			○	○				
■情意的 領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実験・実習を通して、自然科学分野に興味を持つ。	○								50
□技能的 領域										
成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを作成・提出することで正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象とし、レポート内容（5段階評価）、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して、総合的に成績を評価する（60点以上を合格）									
テキスト、教材 参考書	実験に関するテキスト（資料）などは、その都度配付する									
履修条件・ 関連科目	環境論、衛生学・公衆衛生学、スポーツ栄養学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。							
オフィス・アワー	イスラム： 教員研究室509号（内線：4962）にて随時（但し、事前に申し出ること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
1	モハモド モニルル イスラム	オリエンテーション	次回以降の予定の確認（30分）							
2	石澤 里枝	栄養による血糖値の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）							
3	〃	運動による血糖値・乳酸の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）							
4	〃	測定結果に関するグループディスカッション	ディスカッションの結果をまとめる（60分）							
5	〃	運動前の栄養摂取による血糖値の変化と運動パフォーマンス	測定結果をレポートにまとめる（60分）							
6	〃	測定結果に関するグループディスカッション	ディスカッションの結果をまとめる（60分）							
7	〃	運動と味覚の変化	測定結果をレポートにまとめる（60分）							
8	〃	これまでの測定結果について各グループによるプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備（60分）							
9	モハモド モニルル イスラム	虚弱な高齢者における日常生活に必要な介護・介助について	左記の予習と配布資料の復習（60分）							
10	〃	虚弱な高齢者における準備体操と整理運動（クールダウン）の方法について	左記の予習と配布資料の復習（60分）							
11	〃	虚弱な高齢者における持久性運動の方法について	左記の予習と配布資料の復習（60分）							
12	〃	虚弱な高齢者における筋力向上の方法（PETボトル体操など）について	左記の予習と配布資料の復習（60分）							
13	〃	虚弱な高齢者におけるバランス運動の方法について	左記の予習と配布資料の復習（60分）							
14	〃	一般市民ができる一次救命処置について	左記の予習と配布資料の復習（60分）							
15	〃	発表会（これまでの運動内容に関する実技テスト）								

授業科目名 (ナンバリングコード)	陸上・体操・水泳 (133A0-4300)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	瓜田 吉久・萬久 博敏・松村 勲・永原 隆・小森 大輔・成田 健造・山下 龍一郎・中谷 太希			補助担当者名					
単位数	2 単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	140名				
授業の概要	本授業では、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育）に基づき、「体づくり運動」「陸上競技」「器械運動」「水泳」の4つの領域について、専門的な実技を実施する。『体づくり運動』では、運動を正しく合理的に行う理論と方法を理解させる。『陸上競技』では、陸上競技の走種目・跳躍種目・投擲種目の技能習得方法や改善方法等について教授し、それらの方法について体験・経験することで理解を深め、パフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、学んだことを駆使しながら、学習者を「できるようにさせる」ための体験・経験を通して実技指導力の向上を図る。そのために、受講者自身に授業の中で学んだ学習内容や授業で見つけた「動きのコツ」並びに「学習上の問題」等をレポートにまとめさせ、提出させる。『器械運動』では、教科体育として技術の習得とともに指導方法を学習し、学校体育の指導者としての資質向上を図る。『水泳』では、水中という特殊な環境で実施されることから、水の特性について理解を深め、長く泳ぐためのコツや4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の基本技能を習得する。これらにより、「体づくり運動」「陸上競技」「器械運動」「水泳」の授業や指導を行う際の基礎・基本が身につくことが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (課題解決力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
		■認知的 領域	・指導方法について理解し、咀嚼して説明している。 ・運動動作の問題点を見つけ、解決方法を提示している。 ・各種目での段階的な練習方法を理解している。 ・競技規則と技術的名称を理解している。	○		○			23
		■情意的 領域	・主体的に授業に参加し、協力して取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとする。 ・積極的に授業に参加する。 ・理論、実技力ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○					20
■技能的 領域	・学習した種目を体得し、見本が示せる。 ・学習した種目の基礎的・基本的指導ができる。 ・各種目の課題を向上させる。	○	○			○		57	
成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業姿勢、技能、レポート、実技試験など成績評価方法に基づき評価し、60点以上の者を合格とする。各種目100点満点中の1/3を有する。								
テキスト、教材 参考書	【陸上競技】 ・フィールド種目においては、実技実習テキストを配付する。 ・参考書としては、次のものを推薦する。 「Do Sports Series陸上競技」（一橋書店）、「実践陸上競技—トラック編—/—フィールド編—」（大修館書店）、「練習法百科陸上競技」帖佐寛章他著（大修館書店）、「陸上競技指導教本」日本陸上競技連盟編（大修館書店） 【器械運動】 ・「図説・器械運動」太田昌秀・伊藤政男著（大修館書店） 【水泳】 ・「水泳指導教本」日本水泳連盟編（大修館書店）								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本授業は同一コマにおいて、陸上競技・器械運動・水泳の回をローテーションして、2クラス開講します。詳細は関連実技科目ガイダンスで説明します。 陸上競技ではレポートの提出あり。また、学生への教育効果を高めるために、授業内容を撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究のみに使用します。 器械運動は怪我をしやすい種目につき、まじめに授業に取り組める学生の受講を希望します。						
オフィス・アワー	瓜田：随時 研究棟8階802教員室 松村：随時 研究棟3階310教員室 小森：随時 研究棟8階805教員室 永原：随時 大学院棟3階 教員室1 中谷：随時 研究棟7階708教員室または体操練習室 萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室 ※事前にメールまでアポイントメントを取ること								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	瓜田 吉久	砲丸投の運動構造を理解する。 砲丸投を学習するⅠ 一突き出し動作を身につけよう	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。(1時間)						
前2	〃	砲丸投を学習するⅡ 一スタンディングスローを身につけよう	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。(1時間)						
前3	〃	砲丸投を学習するⅢ 一身体の移動を用いた投げを身につけよう	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。(1時間)						
前4	松村 勲 永原 隆	体づくり運動 走の基本動作 ハードル練習①	実施した内容をレポートにまとめる(0.5時間)						

前5	〃	体づくり運動 ハードル練習②	実施内容をレポートにまとめる (0.5時間)
前6	〃	体づくり運動 ハードル練習③	実施内容をレポートにまとめる (1.0時間)
前7	小森 大輔	走高跳 (ベリーロール) の運動構造を理解する。 走高跳 (ベリーロール) を学習する I ー 助走および踏切動作を身につけようー	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。(1時間)
前8	〃	走高跳 (ベリーロール) を学習する II ー 力強い踏切動作を身につけようー	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。(1時間)
前9	〃	走高跳 (ベリーロール) を学習する III ー 空中動作を身につけようー	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。(1時間)
前10	瓜田 吉久 松村 勲 永原 隆 小森 大輔	体験した各種目能力を測定する	体験した各種目の復讐を通して、指導のポイントを確認する。(2時間)
前11	山下 龍一郎 中谷 太希	オリエンテーション 体づくり運動 鉄棒①	鉄棒の「上る技」に関する事項をネットで検索し、予習しておく。(1時間)
前12	〃	体づくり運動 鉄棒②	鉄棒の「回る技」に関する事項をネットで検索し、予習しておく。(1時間)
前13	〃	体づくり運動 鉄棒③	鉄棒の「下りる技」に関する事項をネットで検索し、予習しておく。(1時間)
前14	〃	体づくり運動 マット①	「前方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習しておく。(1時間)
前15	〃	体づくり運動 マット②	「後方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習しておく。(1時間)
後1	〃	体づくり運動 マット③	「側方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習しておく。(1時間)
後2	〃	体づくり運動 跳び箱①	跳び箱運動の「切り返し系」の技や練習方法に関する事項をネットで検索し、予習しておく。(1時間)
後3	〃	体づくり運動 跳び箱②	跳び箱運動の「回転系」の技や練習方法に関する事項をネットで検索し、予習しておく。(1時間)
後4	〃	体づくり運動 総合練習 (鉄棒、マット、跳び箱)	今までの学習内容やポイントを復習しておく。(1時間)
後5	〃	体づくり運動 総合試験 (鉄棒、マット、跳び箱)	今までの学習内容やポイントを復習しておく。(1時間)
後6	萬久 博敏 成田 健造	ガイダンス (持ち物、心構え、成績評価等の説明) 水の特性と泳法理論 水難事故防止と安全対策	受講内容をレポートにまとめる (1時間)
後7	〃	ラジオ体操・ストレッチ 水球ボールを使った体づくり運動の実施 浮身体験	受講内容をレポートにまとめる (1時間)
後8	〃	ラジオ体操・ストレッチ 水中運動の実施 背泳ぎの基礎的技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する (1時間)
後9	〃	水中運動による体づくり運動の実施 平泳ぎ (キック動作) の基礎的技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する (1時間)
後10	〃	水中ウォーキングによる体づくり運動の実施 平泳ぎの基礎的技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する (1時間)
後11	〃	水中でのリズム運動による体づくり運動の実施 高飛込の体験 競泳のスタート技術習得 バタフライの基礎的技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する (1時間)
後12	〃	水中での体づくり運動の実施 競泳のターン技術習得 クロールの基礎的技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する (1時間)
後13	〃	ラジオ体操・ストレッチ 60分間泳	レポートの作成 (1時間)
後14	〃	水中での体づくり運動の実施 泳法技術の総復習	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する (1時間)
後15	〃	実技試験 (4泳法) ・泳法撮影 振り返りアンケート	レポートの作成 (1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	バスケットボール (133A0-4301)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	三浦 健・前村 かおり				補助担当者名				
単位数	1 単位		履修年次	1	受け入れ人数	40名程度			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、ルール、ドリル、練習法について講義し、これらに基づきバスケットボール専攻学生がグループの中心となって実技指導を行う。 ・バスケットボールの基本技術とゲームの方法を学習する。 ・バスケットボールのドリルを通して、体の扱い方と時間空間の認知能力を高める。 								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、コミュニケーション力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・バスケットボールの基本技術について、概ね説明することができる。	○						20
	■情意的領域	・ドリルやゲームに主体的に取り組む。 ・ゲームにおいて、ルール・マナーを遵守し、安全を確保し、味方同士が助け合う。	○						30
■技能的領域	・バスケットボールの基本技術をゆっくりなら示範ができる。	○				○		50	
成績評価の基準	出席回数が2/3以上でない者は、単位を認定しない。								
テキスト、教材 参考書	特になし。								
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)	・基本技術のドリルの中には、授業時間だけでは身に付きにくいものも含まれるので、授業前後に復習することを勧めます。					
オフィス・アワー	随時：総合体育館教員室（三浦）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	三浦 健 前村 かおり	オリエンテーション。ボールハンドリングドリル。			実施した実技内容を復習する（15分）				
2	〃	Dynamic Stretch：動的柔軟性を高める。			実施した実技内容を復習する（15分）				
3	〃	ドリブルドリル：3種類のその場ドリブル、5種類のチェンジ。			実施した実技内容を復習する（15分）				
4	〃	2つのボールへの対処：5種類のドリブル、ボール2個の直上連続パス。			実施した実技内容を復習する（15分）				
5	〃	開放性スキルと閉鎖性スキル：観察・判断・選択が球技では鍵を握る。			実施した実技内容を復習する（15分）				
6	〃	ストップ&ピボット：足さばき、目さばき、手さばき。①前向き前回り&前向き後回り。			実施した実技内容を復習する（15分）				
7	〃	ストップ&ピボット：足さばき、目さばき、手さばき。②後向き前回り&後向き後回り。			実施した実技内容を復習する（15分）				
8	〃	シュートドリル：レイアップシュート、ストップシュート、フリースロー。			実施した実技内容を復習する（15分）				
9	〃	ゲーム前の練習法①：スクエアパス。			実施した実技内容を復習する（15分）				
10	〃	ゲーム前の練習法②：ドリブルシュート。			実施した実技内容を復習する（15分）				
11	〃	ゲーム前の練習法③：ランニングシュート。			実施した実技内容を復習する（15分）				
12	〃	ボディコントロールを高めるドリル：ボールを体側で回して、足を通してレイアップシュート。			実施した実技内容を復習する（15分）				
13	〃	フリースローのグループドリル：ノックダウン。			実施した実技内容を復習する（15分）				
14	〃	ハーフコート 3on3			実施した実技内容を復習する（15分）				
15	〃	実技試験の為の練習。			実施した実技内容を復習する（15分～1時間）				
16	〃	実技試験							

授業科目名 (ナンバリングコード)	サッカー (133A0-4302)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	塩川 勝行				補助担当者名			
単位数	1 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数 40名程度		
授業の概要	本授業では、サッカーにおける競技特性やを理解し、基本的な実技力（止める・蹴る・運ぶ）を獲得する事を目的とし、サッカーの技術、戦術の構造や基本的な指導体系を理解し、トレーニングやゲームを計画できるように教授する。これにより、サッカーにおける基礎的な技術力や実技指導力を獲得するとともに、フェアプレーの精神や仲間とともに課題を解決してプレーを行なう能力が身に付くことが期待される。							
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	サッカーにおけるトレーニングや指導方法について理解する。 計画的にトレーニングやゲームが行えるようになる。			○			15
	■情意的領域	積極的に実技内容、作業課題に取り組む。	○					40
■技能的領域	サッカーにおける基本技術が正確に行えるようになる。 サッカーにおけるトレーニング指導法を理解する。	○	○			○	45	
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、レポート、技能テスト（リフティング・ドリブル・パス&コントロール）及び試合中での課題達成度の各合計点が60点以上のものを合格とする。							
テキスト、教材 参考書	参考書として、次のものを推奨する。 「サッカー」（加藤久著,ベースボールマガジン社,1993,@1,800円） 「サッカー勝利への技術」（チャールズ・ヒューズ著,大修館,1996,@3,200円）							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	金曜日 9時から12時 8階810研究室（事前にアポイントを取ること）							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	塩川 勝行	サッカーの概要・特性及びグループ編成・試しのゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
2	〃	個人技術の基礎：ボールフィーリング、ミニゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
3	〃	個人技術の基礎：パス&コントロール1、ミニゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
4	〃	個人技術の基礎：パス&コントロール2、ミニゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
5	〃	個人技術の基礎：ヘディング&シュート、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
6	〃	個人技術の基礎：ドリブル&フェイント、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
7	〃	個人技術の基礎：スクリーン&ターン、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
8	〃	ルールと審判法			実施した講義内容を復習する（60分）			
9	〃	個人技術及びゲーム			レポート作成（60分）			
10	〃	個人及びグループ戦術（攻撃）：1対1、2対2、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
11	〃	個人及びグループ戦術（守備）：1対1、2対2、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
12	〃	グループ戦術：パス&サポート、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
13	〃	グループ戦術：ボールポゼッション、ゲーム			実施した実技内容を復習する（60分）			
14	〃	チーム戦術：フォーメーション、ゲーム及び審判			実施した実技内容を復習する（60分）			
15	〃	チーム戦術：リスタート、ゲーム及び審判			レポート作成（60分）			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	バレーボール (133A0-4307)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷			補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	①3年次②4年次	受け入れ人数	40名程度			
授業の概要	1. セット(トス) & アタック系の技術習熟と攻撃戦術のレベルアップ 2. サーブ&ブロック系の技術習熟と守備戦術のレベルアップ 3. 審判実習、ゲーム分析、チームビルディングをグループごとに遂行 4. 学校体育の授業指導、生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用できる授業内容							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (実技力・実技指導力・専門的知識)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
		■認知的領域	ルールと基本的攻撃・守備戦術について理解する。	○		○		○ (審判実習記録)
■情意的領域	グループ活動の中でリーダーシップを養い、コミュニケーションが取れるようになる。	○		○	○	○ (班内の役割)	30	
■技能的領域	セッターとしてジャンプトスを習得する。	○	○			○	40	
成績評価の基準	・授業：認知的、情意的、技能的領域の到達状況(授業所感の記入、授業への取り組み、学習状況に関する観察による評価等)により総合的に評価する。 ・レポート：Webclassを活用したレポート提出等(技術の動画記録、審判技能及び班内の活動記録)。 ・定期試験：ジャンプトス技術の習得を評価する。(実技試験)							
テキスト、教材 参考書	・Webclass上の「バレーボール」テキストを使用 ・審判実習用ホイッスル ・タブレットは必ず持参すること ・必ず体育館シューズで受講すること							
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出するように。 2. 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時対応可(事前にメールでアポを取るように) 808 教員室(濱田)・601 教員室(坂中)・球技体育館準備室(16時以降)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	濱田 幸二 坂中 美郷	誰でもできる ジャンプセット(ワン・ツールのリズム)			レポート及び動画提出(1時間)			
2	〃	コンビネーション攻撃 ダブルセミクイックアタック			レポート及び動画提出(1時間)			
3	〃	必殺ブロック アタック対ブロック、ネット上の対決			レポート及び動画提出(1時間)			
4	〃	ダブルクイックと時間差攻撃 審判基礎「吹笛とハンドシグナル」			レポート及び動画提出(1時間)			
5	〃	戦術トレーニング基礎①「レシーブ&アタック」審判実習			レポート及び動画提出(1時間)			
6	〃	戦術トレーニング基礎②「サーブ&ブロック」審判実習			レポート及び動画提出(1時間)			
7	〃	戦術トレーニング応用① 3人制ミニバレー 記録実習 審判応用			レポート及び動画提出(1時間)			
8	〃	戦術トレーニング応用② 4人制ミニバレー 記録実習 審判応用			レポート及び動画提出(1時間)			
9	〃	6人制バレーボールのセッターフォーメーション(6-2の攻守)			レポート及び動画提出(1時間)			
10	〃	6人制バレーボールのセッターフォーメーション(5-1の攻守)			レポート及び動画提出(1時間)			
11	〃	リーグ戦 第1戦 総合実習			レポート及び動画提出(1時間)			
12	〃	リーグ戦 第2戦 総合実習			レポート及び動画提出(1時間)			
13	〃	リーグ戦 第3戦 総合実習			レポート及び動画提出(1時間)			
14	〃	トーナメント戦 第1戦 総合実習			レポート及び動画提出(1時間)			
15	〃	トーナメント戦 第2戦 総合実習 まとめ			総合的レポート提出(2時間)			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	テニス (133A0-4315)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	48名程度		
授業の概要	テニスの基礎的な実技力を獲得することと、フェアプレイの精神やテニスのマナーを理解する科目である。具体的には、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につけることを目標とする。また、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	テニスのルールを理解している テニスのマナーを理解している	○					25
	■情意的領域	主体的に授業に取り組もうとする テニスのルール・マナーを遵守する	○					25
■技能的領域	テニスの基礎技術を遂行できる ダブルスの実践技術を遂行できる	○	○			○	50	
成績評価の基準	授業参画状況、授業への積極的な取り組み、実技テストの成績を総合的に評価して、60点以上のものに単位を与える。 1/3以上の欠席により単位は認定されない。							
テキスト、教材 参考書	随時配付する							
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋 (スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 村上 (研究棟8階806教員研究室)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	高橋 仁大 村上 俊祐	オリエンテーション テニスの原則を理解する			講義内容の予習と復習 (1時間)			
2	〃	10段階ラリー練習			講義内容の予習と復習 (1時間)			
3	〃	10段階ラリーから大きなコートへ			講義内容の予習と復習 (1時間)			
4	〃	サービスの導入			講義内容の予習と復習 (1時間)			
5	〃	サービスからのラリー			講義内容の予習と復習 (1時間)			
6	〃	サービスからのラリー、ゲーム			講義内容の予習と復習 (1時間)			
7	〃	局面練習1 サービスとリターン			講義内容の予習と復習 (1時間)			
8	〃	局面練習2 グラウンドストロークラリー			講義内容の予習と復習 (1時間)			
9	〃	局面練習3 アプローチ&ボレー			講義内容の予習と復習 (1時間)			
10	〃	局面練習の復習			講義内容の予習と復習 (1時間)			
11	〃	ダブルスの基本 ルールとマナー			講義内容の予習と復習 (1時間)			
12	〃	ダブルスの応用 戦術理解			講義内容の予習と復習 (1時間)			
13	〃	班対抗団体戦①			講義内容の予習と復習 (1時間)			
14	〃	班対抗団体戦②			講義内容の予習と復習 (1時間)			
15	〃	班対抗団体戦③			講義内容の予習と復習 (1時間)			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	卓球 (133A0-4319)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷・村上 俊祐				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	①1年次②3年次		受け入れ人数	30名程度		
授業の概要	卓球の特性を理解し、基本的な技術を学びながら、瞬間的な判断力と反応が出来るように反射神経と敏捷性及び集中力を養う。基本技術の習得により、攻撃の組み立て方、試合の組み立て方などの戦術も学ぶ。ルールを理解し審判も出来るようになり、最後には団体戦（シングルスとダブルス）及び個人戦（シングルス）の大会（リーグ戦）が出来るようになる。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (実技力・実技指導力・コミュニケーション 力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的 領域	ルールが理解できる。基礎技術の名称など専門用語が説明できる。	○					10
■情意的 領域	積極的に授業へ参加し、試合を数多く行い、技術及び戦術の習得に意欲的に取り組む。	○		○	○		60	
■技能的 領域	シングルス、ダブルスの戦術を身に付ける。ラリーを一定回数、一定時間継続出来る。	○	○			○	30	
成績評価の基準	出席状況2/3以上で実技試験を受けることができ、実技試験で合格することが単位認定の条件になる。授業への取り組み状況及び、レポート等の提出状況は単位認定条件に加点する。							
テキスト、教材 参考書	随時、資料を配付する。							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出するように。 2. 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。 3. タブレットは必ず持参すること。				
オフィス・アワー	随時対応可 808教員室(濱田)・601教員室(坂中)・806教員室(村上)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	濱田 幸二 坂中 美郷 村上 俊祐	オリエンテーション、グループ分け、アイスブレイキング、用具の説明			映像及び反省レポート提出(1時間)			
2	〃	卓球の特性・基本フォーム			映像及び反省レポート提出(1時間)			
3	〃	基本ストローク(フォアハンドサービス・フォアハンドロング)、班対抗戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
4	〃	基本ストローク(バックハンドサービス・バックハンドショート)、班対抗戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
5	〃	カットサービス・ショートカットレシーブ、班対抗戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
6	〃	横回転サービス・変化球サービスのレシーブ、班対抗戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
7	〃	スマッシュ・フットワーク、班対抗戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
8	〃	3球目攻撃・攻撃の組み立て方、班対抗戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
9	〃	シングルスゲームの仕方(ルールと審判法)、シングルス戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
10	〃	ダブルスのサービスとレシーブ、シングルス戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
11	〃	ダブルスのフットワーク、シングルス戦、中間実技試験			映像及び反省レポート提出(1時間)			
12	〃	ダブルスゲームの仕方(ルールと審判法)、シングルス戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
13	〃	高速ラリーの習得、シングルス戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
14	〃	高速ラリーの習得、シングルス戦			映像及び反省レポート提出(1時間)			
15	〃	団体戦トーナメント戦 総合実技 まとめ			映像及び反省レポート提出(1時間)			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	バドミントン (133A0-4321)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	三浦 健・塩川 勝行				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	3年次		受け入れ人数	32名程度		
授業の概要	スポーツ文化の1つとして普及しているバドミントンの基本的な技術とルール及び特性を習得し、ゲームが日常生活の中で楽しめるようにする。それに伴いバドミントンの理解を深め、学校や一般社会で指導できるようになる。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	バドミントンの基本的な技術の知識とルールを習得する。	○					10
	■情意的領域	積極的に授業・作業課題・ゲームに取り組む。	○					50
■技能的領域	継続的に授業に参加し、練習・指導法を体験する。 バドミントンの基本技術の習得を行う。	○			○		40	
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、態度、技能テストの各合計点が60点以上のものを合格とする。							
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配付する。							
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)		特になし。				
オフィス・アワー	随時 総合体育館教員室(三浦)、810教員研究室(塩川)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	三浦 健 塩川 勝行	バドミントンの歴史、ルール			実施した内容を復習する(15分)			
2	〃	バドミントンの運動構造			実施した実技内容を復習する(15分)			
3	〃	バドミントンの基礎(1) アンダーハンドストローク(フォアハンド)			実施した実技内容を復習する(15分)			
4	〃	バドミントンの基礎(2) アンダーハンドストローク(バックハンド)			実施した実技内容を復習する(15分)			
5	〃	バドミントンの基礎(3) ハイクリアー			実施した実技内容を復習する(15分)			
6	〃	バドミントンの基礎(4) ドロップ			実施した実技内容を復習する(15分)			
7	〃	バドミントンの基礎(5) ヘアピン			実施した実技内容を復習する(15分)			
8	〃	バドミントンの基礎(6) ドライブ			実施した実技内容を復習する(15分)			
9	〃	バドミントンの基礎(7) スマッシュ&レシーブ			実施した実技内容を復習する(15分)			
10	〃	バドミントンの基礎(8) 約束練習			実施した実技内容を復習する(15分)			
11	〃	ダブルス競技の進め方(1) ルールの理解。審判方法			実施した実技内容を復習する(15分)			
12	〃	ダブルス競技の進め方(2) 班別対抗戦①			実施した実技内容を復習する(15分)			
13	〃	ダブルス競技の進め方(3) 班別対抗戦②			実施した実技内容を復習する(15分)			
14	〃	シングルス試合			実施した実技内容を復習する(15分)			
15	〃	まとめ			実施した実技内容を復習する(15分～30分)			
16	〃	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	ソフトボール (133A0-4322)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	藤井 雅文			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	2,3年次	受け入れ人数	50名程度				
授業の概要	以下の内容を通して、学校体育の授業指導や生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用できる能力を身に着ける。 ・ソフトボールを中心としたベースボール型スポーツの基本的なルールや歴史を習得する。 ・様々な形のティーボールゲームを通して、ソフトボールの基本的な技術（捕る、投げる、打つ、走る）を習得する。 ・グループごとにトレーニング計画を立てながら試合を行う中で、ゲームの進め方や審判法、基本的な戦術を習得する。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (コミュニケーション力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ソフトボールのルールやマナーを理解している	○						20
■情意的領域	主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイすることができる	○		○				40	
■技能的領域	ソフトボールの基本技術（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる	○	○					40	
成績評価の基準	授業への取組状況、記録レポート、技能テストの合計点が60点以上のものに単位を与える。 1/3以上の欠席により単位は認定されない。								
テキスト、教材 参考書	随時配布する								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・欠席届は必ず本人が提出すること ・授業の様子を撮影し、教育研究のために授業等で使用することがあります。						
オフィス・アワー	随時 研究棟8階804教員室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	藤井 雅文	オリエンテーション（授業の進め方、ベースボール型スポーツについて）	実施した内容の復習とレポート（60分）						
2	〃	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール	実施した内容の復習とレポート（60分）						
3	〃	攻撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール	実施した内容の復習とレポート（60分）						
4	〃	ティーボール野球の工夫と実践①	実施した内容の復習とレポート（60分）						
5	〃	ティーボール野球の工夫と実践②	レポート提出（120分）						
6	〃	ティーボール野球の工夫と実践③	実施した内容の復習とレポート（60分）						
7	〃	ソフトボールの実践①（ルール、審判法、安全管理、成績記入、ポジション）	実施した内容の復習とレポート（60分）						
8	〃	ソフトボールの実践②（アウト：三振、フライ、ゴロ、ホースプレー、タッチプレー）	実施した内容の復習とレポート（60分）						
9	〃	ソフトボールの実践③（ダブルプレー：ゴロ、フライ）	実施した内容の復習とレポート（60分）						
10	〃	ソフトボールの実践④（タッチアッププレー）	実施した内容の復習とレポート（60分）						
11	〃	ソフトボールの実践⑤（攻撃戦術：バント）	実施した内容の復習とレポート（60分）						
12	〃	ソフトボールの実践⑥（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）						
13	〃	ソフトボールの実践⑦（守備戦術：ポジションング）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）						
14	〃	ソフトボールの実践⑧（守備戦術：ピックオフプレー）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）						
15	〃	ソフトボールの実践⑨（学校教材と雨天時教材）、実技テスト	総合レポート提出（120分）						

授業科目名 (ナンバリングコード)	ダンス①② (133A0-4305)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	梶 ちか子				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	3,4年次		受け入れ人数	40名程度		
授業の概要	<p>表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」から構成され、小・中・高校において発達段階に対応した内容で構成されている。表現運動・ダンスの学習では、幅広いダンスに触れ、生涯学習の観点からも、ダンスを自発的に楽しむ力を育成することがねらいとなる。</p> <p>本授業では、ダンスの基本知識・技能の習得、リズムやイメージをもとにした自由な表現、作品づくりまで、段階的に身体表現能力の向上を図る。これにより、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の基礎的な技術を習得し、その指導法と発表技法が身に付くことが期待される。</p>							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (コミュニケーション力、課題解決力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	・ダンスの特性について理解することができる。 ・ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。			○			30
■情意的領域	・主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 ・仲間と協力して課題に取り組むことができる。	○			○		20	
■技能的領域	・リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。 ・課題に即した作品づくり・発表ができる。	○			○	○ (作品発表)	50	
成績評価の基準	作品発表(定期試験)を必ず行うという条件で、授業態度、授業所感の記入、レポート、ミニ発表、作品発表(定期試験)の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。							
テキスト、教材 参考書	適宜提示する。(毎時間、資料プリントを配付し、WebClassに参考資料・動画等をアップする)							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッ セージ含む)	学習指導要領の改訂により、中学校においてダンスの授業が男女必修となり、教員採用選考試験で男女共通の必修課題としている県や市が増えている。ダンスはその特性上、未経験のまま教育実習や採用試験を受験することは難しいため、教職を希望する学生は、主体的な態度で受講すること。				
オフィス・アワー	随時：7階703教員室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	梶 ちか子	オリエンテーション(授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など)			WebClassにある資料で復習する(15分)			
2	〃	ダンスの導入(ウォーミングアップ、交流ダンス)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
3	〃	現代的なリズムのダンス①(リズムの特徴をとらえた動き)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
4	〃	現代的なリズムのダンス②(ロックのリズムのダンス)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
5	〃	現代的なリズムのダンス③(ヒップホップのリズムのダンス)			授業映像から授業ノートを作成(30分) 技能評価映像を見ながら、レポートを作成(60分)			
6	〃	フォークダンス(外国のフォークダンス、日本の民踊)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
7	〃	創作ダンス①(身近な生活や日常動作、スポーツ動作から)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
8	〃	創作ダンス②(対極の動きの連続)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
9	〃	創作ダンス③(もの・道具を使って)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
10	〃	創作ダンス④(多様な感じ、はこびとストーリー)			授業映像から授業ノートを作成(30分) 技能評価映像を見ながら、レポートを作成(60分)			
11	〃	創作活動の基礎(群構成、空間の使い方、上演法など、グループ分け)			授業映像から授業ノートを作成(30分)			
12	〃	作品創作①(グループ・個人の作品づくり)			授業映像から授業ノートを作成(30分) 作品の音楽編集(15分)			
13	〃	作品創作②(グループ・個人の作品づくり)			授業映像から授業ノートを作成(15分) 作品の道具・衣装の準備(15分)			
14	〃	作品創作③(グループ・個人の作品づくり)			知識に関するレポート作成(60分)			
15	〃	作品創作④(グループ・個人の作品づくり)、作品発表リハーサル			WebClassにあるリハーサル映像を見てグループごとで省察する(30分)			
16	〃	学期末試験 : 作品発表			発表に向けた音楽・衣装・道具の準備(30分)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	ダンス③④ (133A0-4306)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	萩原 香織			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	3,4年次	受け入れ人数	40名程度				
授業の概要	<p>表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」から構成され、小・中・高校において発達段階に対応した内容で構成されている。表現運動・ダンスの学習では、幅広いダンスに触れ、生涯学習の観点からも、ダンスを自発的に楽しむ力を育成することがねらいとなる。</p> <p>本授業では、ダンスの基本知識・技能の習得、リズムやイメージをもとにした自由な表現、作品づくりまで、段階的に身体表現能力の向上を図る。これにより、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の基礎的な技術を習得し、その指導法と発表技法が身に付くことが期待される。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (コミュニケーション力、課題解決力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ダンスの特性について理解することができる。 ・ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。			○				30
■情意的領域	・主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 ・仲間と協力して課題に取り組むことができる。	○			○			20	
■技能的領域	・リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。 ・課題に即した作品づくり・発表ができる。	○			○		○ (作品発表)	50	
成績評価の基準	作品発表（定期試験）を必ず行うという条件で、授業態度、授業所感の記入、レポート、ミニ発表、作品発表（定期試験）の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	適宜提示する。								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	学習指導要領の改訂により、中学校においてダンスの授業が男女必修となり、教員採用選考試験で男女共通の必修課題としている県や市が増えている。ダンスはその特性上、未経験のまま教育実習や採用試験を受験することは難しいため、教職を希望する学生は、主体的な態度で受講すること。						
オフィス・アワー	授業前後に対応								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	萩原 香織	オリエンテーション(授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など)	WebClassにある資料で復習する(15分)						
2	〃	ダンスの導入(ウォーミングアップ、交流ダンス)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
3	〃	現代的なリズムのダンス①(リズムの特徴をとらえた動き)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
4	〃	現代的なリズムのダンス②(ロックのリズムのダンス)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
5	〃	現代的なリズムのダンス③(ヒップホップのリズムのダンス)	授業映像から授業ノートを作成(30分) 技能評価映像を見ながら、レポートを作成(60分)						
6	〃	フォークダンス(外国のフォークダンス、日本の民謡)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
7	〃	創作ダンス①(身近な生活や日常動作、スポーツ動作から)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
8	〃	創作ダンス②(対極の動きの連続)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
9	〃	創作ダンス③(もの・道具を使って)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
10	〃	創作ダンス④(多様な感じ、はこびとストーリー)	授業映像から授業ノートを作成(30分) 技能評価映像を見ながら、レポートを作成(60分)						
11	〃	創作活動の基礎(群構成、空間の使い方、上演法など、グループ分け)	授業映像から授業ノートを作成(30分)						
12	〃	作品創作①(グループ・個人の作品づくり)	授業映像から授業ノートを作成(30分) 作品の音楽編集(15分)						
13	〃	作品創作②(グループ・個人の作品づくり)	授業映像から授業ノートを作成(15分) 作品の道具・衣装の準備(15分)						
14	〃	作品創作③(グループ・個人の作品づくり)	知識に関するレポート作成(60分)						
15	〃	作品創作④(グループ・個人の作品づくり)、作品発表リハーサル	WebClassにあるリハーサル映像を見てグループごとで省察する(30分)						
16	〃	学期末試験 : 作品発表	発表に向けた音楽・衣装・道具の準備(30分)						

授業科目名 (ナンバリングコード)	柔道①③ (133A0-4309)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	小澤 雄二				補助担当者名			
単位数	1 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数	40名程度	
授業の概要	本授業は学校体育の授業指導、社会体育のコーチング等に幅広く応用できる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができる技能や、基礎的な指導法を身に付けることを目指している。なお、希望者には講道館柔道初段取得を可能とする（ただし社会情勢等により、昇段審査を開催できない場合もある）。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の理合いを理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○					30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○					30
■技能的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能が身に付く。	○			○	○ (投の形の演武)	40	
成績評価の基準	基本的技術の理解・実践、また学習意欲等から総合的に評価して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。							
テキスト、教材 参考書	随時、資料を配付する。							
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 柔道衣は自前とするが、オリエンテーション時に詳細を説明する。 3. 授業計画は授業の進行状況や社会情勢等による変更もあり得る。 4. 講道館柔道初段取得には昇段審査料等、約29,250円（令和2年度現在）が必要となる。				
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	小澤 雄二	オリエンテーション（柔道の理論） 柔道衣採寸			予習復習30分			
2	〃	柔道の基本①			予習復習30分			
3	〃	柔道の基本②			予習復習30分			
4	〃	柔道の基本③			予習復習30分			
5	〃	固め技①			予習復習30分			
6	〃	固め技②			予習復習30分			
7	〃	投げ技①			予習復習30分			
8	〃	投げ技②			予習復習30分			
9	〃	投げ技③			予習復習30分			
10	〃	投げ技④			予習復習30分			
11	〃	投げ技⑤			予習復習30分			
12	〃	投の形①			予習復習30分			
13	〃	投の形②			予習復習30分			
14	〃	投の形③			予習復習30分			
15	〃	投の形の演武（学期末試験）			予習復習30分			

授業科目名 (ナンバリングコード)	柔道②④ (133A0-4309)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	小崎 亮輔				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	1年次		受け入れ人数	25名程度		
授業の概要	本授業は学校体育の授業指導、社会体育のコーチング等に幅広く応用できる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができる技能や、基礎的な指導法を身に付けることを目指している。なお、希望者には講道館柔道初段取得を可能とする（ただし社会情勢等により、昇段審査を開催できない場合もある）。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の理合いを理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○					30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○					30
■技能的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能が身に付く。	○			○	○ (投の形の演武)	40	
成績評価の基準	基本的技術の理解・実践、また学習意欲等から総合的に評価して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。							
テキスト、教材 参考書	随時、資料を配付する。							
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 柔道衣は自前とするが、オリエンテーション時に詳細を説明する。 3. 授業計画は授業の進行状況や社会情勢等による変更もあり得る。 4. 講道館柔道初段取得には昇段審査料等、約29,250円（令和4年度現在）が必要となる。				
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 504研究室							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	小崎 亮輔	オリエンテーション（柔道の理論） 柔道衣採寸			予習復習30分			
2	〃	柔道の基本①			予習復習30分			
3	〃	柔道場の基本②			予習復習30分			
4	〃	柔道の基本③			予習復習30分			
5	〃	固め技①			予習復習30分			
6	〃	固め技②			予習復習30分			
7	〃	投げ技①			予習復習30分			
8	〃	投げ技②			予習復習30分			
9	〃	投げ技③			予習復習30分			
10	〃	投げ技④			予習復習30分			
11	〃	投げ技⑤			予習復習30分			
12	〃	投の形①			予習復習30分			
13	〃	投の形②			予習復習30分			
14	〃	投の形③			予習復習30分			
15	〃	投の形の演武（学期末試験）			予習復習30分			

授業科目名 (ナンバリングコード)	剣道 (133A0-4310)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎・下川 美佳			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度				
授業の概要	<p>本科目は、剣道に関する基礎的な実技力を身につける科目である。 剣道の特性を理解して礼法や基本動作、対人的技能などの基礎的な技術について学ぶことを目的とする。さらに自己の能力に応じた技の攻防を工夫し学習したり、剣道を通じて適正かつ柔軟な思考や行動力、礼節を重んじて相手や仲間と協調して自らの課題解決に取り組む姿勢を学ぶ効果を期待する。 特に学習内容については、中学校、高等学校保健体育「武道」領域で取り扱う内容に準拠して行なう。</p> <p>※授業は対面の実技授業です。但し、新型コロナウイルス感染症対策と状況によってはシラバスを変更する場合があります。(その際はWeb class上で連絡します。)</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の基礎的な内容について理解力がつく。	○		○				10
	■情意的領域	剣道の初歩的な実技力を身につけようとする態度が身につく。	○						30
■技能的領域	正しい着装、礼儀作法、足さばきや素振りなどの基本動作と初歩的な基本打突ができるようになる。	○	○			○		60	
成績評価の基準	上記の評価の方法、具体的には授業に対して積極的に取り組む姿勢、施設・用具等の適正な使用状況、授業ノートの提出、及び剣道実技の習熟度・理解度などを判断・評価し、60点以上を合格とする。								
テキスト、教材 参考書	<p>テキスト教材：Web classにて対応する 授業教材：竹刀（3尺9寸）完成品＜鏝、鏝止め、竹刀袋＞（およそ3500～4000円） 剣道着・袴（およそ10,000円）</p> <p>参考書：全日本剣道連盟「剣道指導要領」</p>								
履修条件・ 関連科目	武道課程の学生で「専修武道論・実習（剣道）」を履修する学生は本科目を受講できない。	備考(教員メッセージ含む)	主に保健体育教員を志す者が受講してください。尚、竹刀および剣道具関係はすべて自分のものを準備してください。(竹刀や剣道着・袴は借りたものの使用は認めません)また、初心者でどうしても準備できない者については剣道具については貸出可能です。但し、剣道着・袴、竹刀、手拭い(面下)、面マスクとシールド(コロナ対応期間のみ)については別途購入が必要です。※また、新型コロナウイルス感染症対策として面マスクと剣道専用シールドが必須です。						
オフィス・アワー	授業終了直後の30分間、武道館剣道教員室において連絡・相談事項を受け付ける。								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	前阪 茂樹 竹中 健太郎 下川 美佳	オリエンテーション ・剣道の歴史と特性 ・着装及び管理方法の説明		剣道着・袴を自分でたためるようにする。(約20分)					
2	〃	1. 礼法の実践と基本動作の習得 (1) 着装、立礼、正座、座礼 (2) 姿勢、構え、蹲踞、目付、足(体)捌き、掛け声、素振り (3) 切り返し		4回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。(約20分)					
3	〃	〃		〃					
4	〃	〃		〃					
5	〃	2. 応用動作としての基本打突(対人的技能I)の習得 (1) 剣道具の着具 (2) 基本技能(しかけ技) ① 一本打ちの技 ② 連続技 ③ 引き技 (3) 応用技能(応じ技) ① 抜き技 ② すり上げ技		10回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。(約20分)					
6	〃	〃		〃					
7	〃	〃		〃					
8	〃	〃		〃					
9	〃	〃		〃					
10	〃	〃		〃					

11	"	3. 稽古（対人的技能Ⅱ） （1）切り返し （2）約束・打ち込み稽古 （3）互格稽古 （4）簡易的な試合と審判	15回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）
12	"	" 授業内容（3）互格稽古では主に担当教員に懸かり、その内容を評価する	"
13	"	" "	"
14	"	" "	"
15	"	" "	授業ノートをまとめ、提出する。（ノートの作成・まとめに約1時間）
16	"	実技試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	エアロビックダンス (133A0-4311)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	桑原 美砂恵			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	①1年次 ②4年次		受け入れ人数	50名程度			
授業の概要	エアロビックダンスの基本的な理論を学び、簡単なプログラムの指導法を習得する。 グループワーク、発表を通して、コミュニケーション能力の向上を身に付ける。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (コミュニケーション力、リーダーシップ、 専門的な知識・教養)	授業期間				割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表		定期 試験	その他
	■認知的領域	エアロビックダンスの生まれた背景・歴史を理解し、指導する際に必要な基本的指導法について理解することができる。		○			○		20
	■情意的領域	エアロビックダンスに興味・関心を持ち、グループワーク、発表を通して、意欲的に取り組もうとする。	○			○	○		30
■技能的領域	基本的なエアロビックダンスのステップに加え、ストレッチ、レジスタンストレーニングが出来るようになり、初心者への簡単な指導法ができる。	○	○		○	○		50	
成績評価の基準	授業への参加、テスト、発表の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	参考書として次のものを推薦する。 ①「エアロビックダンスエクササイズ指導理論」Jafa 日本フィットネス協会 ①は購入する 1650円								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	特になし。						
オフィス・アワー	授業前後に対応。								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	桑原 美砂恵	授業ガイダンス、ベーシッククラス体験			配布資料を読んで復習する(15分)				
2	"	理論：有酸素運動の基礎知識 実践：基本姿勢、基本プログラムの実際			実施した内容を復習する(20分)				
3	"	理論：エアロビックダンスの歴史と運動特性 / プログラムの基本構成 実践：ウォーミングアップの実際			ウォーミングアップを復習する(15分)				
4	"	理論：エアロビックダンスエクササイズの基本の動き① 実践：ローインパクトステップ・ハイインパクトステップ			基本ステップを復習する(15分)				
5	"	理論：エアロビックダンスエクササイズの基本の動き② 実践：上半身・下半身の組み合わせ / 運動強度の上げ方、下げ方			実施した内容を復習する(20分)				
6	"	理論：エアロビックダンスエクササイズのプログラミング 実践：筋コンディショニング			筋コンディショニングを復習する 機能解剖学的に学ぶ				
7	"	理論：エアロビックダンスエクササイズの指導法 実践：筋コンディショニング、クーリングダウン			筋コンディショニング・クーリングダウンを復習する(20分) 機能解剖学的に学ぶ				
8	"	理論：運動強度の整備 実践：ショートプログラムの作り方			(プログラムの構成案)(60分)				
9	"	理論：エアロビックダンスと音楽 実践：ショートプログラム作成(ウォーミングアップ)			グループでプログラムを作る(30分)				
10	"	実践：ショートプログラム作成(メインエクササイズ)			グループでプログラムを作る(30分)				
11	"	実践：(筋コンディショニング、クーリングダウン)の実際			機能解剖学的に学ぶ				
12	"	実践：プログラム作成(ウォームアップ～メイン)			グループでプログラムを作る(20分)				
13	"	試験(実技・筆記)内容について			テストの準備をする(60分)				
14	"	プログラム作成(グループでプログラムをつくる)			テストの準備をする(60分)				
15	"	プログラム作成(グループでプログラムをつくる)			テストの準備をする(60分)				
16	"	学期末試験：グループ発表・筆記テスト							

授業科目名 (ナンバリングコード)	ジョギング&ウォーキング (133A0-4313)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	北村 尚浩・松村 勲				補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	50名以内			
授業の概要	ジョギングとウォーキング指導の基本を習得するとともに、ウォーキングでは様々なコース設定での実技を通じて運動強度の変化や指導の際の留意点について学習する。ジョギングにおいては、ジョギング企画の立案・運営をグループで協同して行う。それらを通して、実技指導力を身に付けるほか、実技力、事業運営力、専門的な知識・教養を習得することが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	運動強度の設定、調整の方法を理解する。 コース設定の方法を理解する。 正しいフォーム（動き）を理解する。	○		○				30
■情意的領域	積極的に授業に参加することができる。	○		○				30	
■技能的領域	正しいフォームの指導ができる。 指導上の留意点を理解する。 ジョギングの企画・運営ができる。	○		○	○			40	
成績評価の基準	授業態度状況と授業への取り組み状況を基本に、レポートの提出を求めジョギングとウォーキング各50点満点で、これを合算して算出する。								
テキスト、教材 参考書	随時資料を提供する。								
履修条件・ 関連科目	ウォーキングではiPadを使用する。	備考(教員メッセージ含む)		特になし。					
オフィス・アワー	北村：随時（610研究室） 松村：随時（310教員室） ※事前にメール等でアポイントメントを取ること								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	松村 勲	①ジョギング入門 健康に楽しく走るために必要なこと			復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(30分)				
2	"	②ジョギングのための準備運動と整理運動、良いフォーム作り			事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)				
3	"	③楽しくジョギングする方法：デモ			事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。				
4	"	④楽しいジョギングの企画・運営Ⅰ			各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する(2時間)				
5	"	⑤楽しいジョギングの企画・運営Ⅱ			各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する(2時間)				
6	"	⑥楽しいジョギングの企画・運営Ⅲ			各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する(2時間)				
7	"	⑦楽しいジョギングの企画・運営Ⅳ			各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する(2時間)				
8	"	⑧楽しいジョギングの企画・運営Ⅴ			各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する(2時間) 最終レポートを作成し、提出する(1時間)				
9	北村 尚浩	健康づくりとウォーキング			Reading assignment (30分以上)				
10	"	正しい姿勢とウォーキングフォーム(1)			立位姿勢の分析(1時間)				
11	"	正しい姿勢とウォーキングフォーム(2)			ウォーキング動作の分析と評価(1時間)				
12	"	ノルディックウォーキング(1)			運動記録のまとめ(1時間)				
13	"	ノルディックウォーキング(2)			ウォーキング動作の分析(1時間)				
14	"	ノルディックウォーキング(3)			ウォーキング動作の分析(1時間)				
15	"	歩行動作の比較分析			課題レポート(1時間以上)				
16	"	最終レポート提出(北村)							

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ・レクリエーション&ゲームズ (133A0-4314)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	坂口 俊哉・日下 知明			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度				
授業の概要	生涯スポーツの現場に必要な不可欠な、ニューススポーツを中心とした生涯スポーツ及びレクリエーションゲームズの実践を通してその概要と指導の基礎を学習するとともに、生涯スポーツとレクリエーションゲームズについての認識を深める。								
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、コミュニケーション力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなニューススポーツを知り、競技種目毎のルールを理解すると同時に、指導のための基礎知識を習得する。	○		○			○ (ノート)	50
	■情意的領域	授業に積極的に取り組むことができる。	○						30
■技能的領域	履修学生に対して的確な指示を出すことができる(準備体操を含む)。ニューススポーツの試合進行を適切に行うことができる。	○						20	
成績評価の基準	受講態度とレポート提出状況を重視して、総合的に評価する。特に、取り扱う競技種目のルールについての理解が求められる。授業内での審判、準備体操の準備と指示などの取り組みなどを加味する。ノートの提出がない場合、単位認定の対象外となる。								
テキスト、教材 参考書	授業内容に関する資料や動画はWebClassにアップロードします。 「ニューススポーツ：ルールと実技」(野川春夫ら) 「レクリエーションコーディネーターテキスト」(日本レクリエーション協会編) 「健康・スポーツの指導」(萩裕美子編)「新レクリエーションハンドブック」								
履修条件・ 関連科目	3年時の生涯スポーツ指導実習で「野外教育施設」を選択する可能性のある学生は、この科目を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19の感染拡大状況や当日の天候等によって内容を変更することがあります。 ・実施場所の変更等はWebClassのメールで配信しますので、必ずWebClassのコース登録を行ってください。 ・授業の一部で情報端末と筆記用具を使用しますので、毎回持参してください。 ・競技種目や天候等によって実施場所が変わりますので、屋外シューズと屋内シューズの両方を準備しておいてください。 						
オフィス・アワー	坂口：随時(大学院棟教員室2)。メールでアポイントを取っておくと確実です。tsakaguc@nifs-k.ac.jp 日下：事前にメールで連絡してください(研究棟607)。t-kusaka@nifs-k.ac.jp								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	坂口 俊哉 日下 知明	オリエンテーション：ニューススポーツの紹介と動画の視聴、ルールへの理解	フライングディスクを用いた遊びについてWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
2	〃	フライングディスクのルールと実技(1)：ディスクの飛行特性、様々な種目とルールの紹介	ディスクの持ち方、スローイングのコツ、ディスクスポーツの種類などについてWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
3	〃	フライングディスクのルールと実技(2)：パス練習(正確性)	各自のスローイング課題を解決するためのコツをWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
4	〃	フライングディスクのルールと実技(3)：動きながらのパス	アルティメットのゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
5	〃	フライングディスクのルールと実技(4)：アルティメット導入	攻撃の戦略についてWebClassの資料等を利用して予習しておくこと。(60分)						
6	〃	フライングディスクのルールと実技(5)：アルティメットゲーム	審判ができるように各自アルティメットのルールについて確認しておくこと。担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと。(60分)						
7	〃	チェックボールのルールと実技(1)：シュート、キャッチ	チェックボールのゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
8	〃	チェックボールのルールと実技(2)：ゲーム導入	チェックボールのルールや戦略についてWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
9	〃	チェックボールのルールと実技(3)：ゲーム	審判ができるように各自チェックボールのルールについて確認しておくこと。担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと。(60分)						
10	〃	キンボール・スポーツのルールと実技(1)：ルールの解説、動画の視聴、リードアップゲーム、ヒット&キャッチ	キンボール・スポーツのゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと。(60分)						
11	〃	キンボール・スポーツのルールと実技(2)：ゲーム	審判ができるように各自キンボール・スポーツのルールについて再度確認しておくこと。担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと。(60分)						

12	"	インディアカのルールと実技（1）ゲーム導入	インディアカの歴史、ゲームの概要、ルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと（60分）
13	"	インディアカのルールと実技（2）ゲーム	審判ができるように各自インディアカのルールについて再度確認しておくこと。担当班はゲーム進行のための準備をしておくこと。（60分）
14	"	ローンボウルズ、ペタンク、シャッフルボード：ターゲット系ゲームの体験	3種目のゲームの概要やルールについてWebClassの資料等で予習しておくこと。担当班は3種目の説明とゲーム進行ができるように準備をしておくこと。（60分）
15	"	まとめ	最終ノートの作成に取り組むこと

授業科目名 (ナンバリングコード)	アウトドアスポーツ実習(夏季) (133A0-4216)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	坂口 俊哉・未 定・北村 尚浩・日下 知明			補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	名程度			
授業の概要	<p>アウトドアスポーツ実習(夏季)ではキャンププログラムを中心に実施する。キャンプの実施を通して、野外教育の意義と運営・指導の実際について学習する。 実習日程：令和5年5月5日(土)～5月7日(月)を予定</p> <p>なお、COVID-19の感染状況を考慮して、実習の日程や内容を変更して実施する可能性がある。 詳細については状況が変わり次第連絡する。 授業に関連する連絡は主にメールで行うため、受講者はWebclassへの登録を各自で確実にすること。</p>							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、リーダーシップ、課題解決力 (実技力、コミュニケーション力、一般教養・倫理)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	実習内容に対する理解。より実践的な指導に必要な専門的知識を身につける	○		○			30
	■情意的領域	野外活動の楽しみを理解し、積極的に取り組む姿勢を身につける	○		○		○ (日誌)	50
■技能的領域	実践体験を通じて、テントの設営や火起こしなど、野外での生活に必要なスキルを身につける	○				○ (日誌)	20	
成績評価の基準	実習参加前後でのレポート評価、実習への参加状況などの評価から総合的に評価する。							
テキスト、教材参考書	必要に応じて紹介する。							
履修条件・関連科目	実習参加費(一人9,000円)が必要です。授業のオリエンテーション、班編成、役割分担、参加費の徴収などを、昼休みなどの空き時間に行います。日程等については、WebClassによるメール、掲示によって別途通知します。実習の運営に支障があるため、無断でガイダンスを欠席した場合、実習への参加を認めない場合があります。メール、掲示板の見落としがないように注意してください。	備考(教員メッセージ含む)	実習日誌と手引きに基づいて課題レポートが要求される。					
オフィス・アワー	随時：坂口(大学院棟3F教教室1)。事前にメールでアポイントをとると確実です。tsakaguc@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	坂口 俊哉 北村 尚浩 日下 知明	実習のためのグループ別事前学習では、実習中の班の構成を行う。また班ごとに、参加者各自の役割を決定する。			実習中に実施するプログラムについて、振り返りを行う。その内容については、実習日誌に記入する。記入した内容については、班別ミーティングで共有する。(60分)			
2	〃	実習では、テント設営、野外炊飯、野外レクリエーション、キャンプファイヤー、登山ハイキングの実践を行い、諸外国のレジャースポーツ運営(講義)やキャンプファイヤーの企画運営(講義)、登山・ハイキング計画の立て方(講義)について学ぶ。			実習終了後のレポート作成(120分)			
3	〃	〃						
4	〃	〃						
5	〃	〃						
6	〃	〃						
7	〃	〃						
8	〃	〃						
9	〃	〃						
10	〃	〃						
11	〃	〃						
12	〃	〃						
13	〃	〃						
14	〃	〃						
15	坂口 俊哉	〃			レポート作成			

授業科目名 (ナンバリングコード)	アウトドアスポーツ実習 (冬季) (133A0-4217)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	坂口 俊哉・高橋 仁大・日下 知明			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名程度				
授業の概要	<p>冬季のアウトドアスポーツとして、スキーを中心に実施する。雪上スポーツの実施を通して、冬季における野外活動の意義と指導の実際を学習する。実習地は、妙高高原スキー場を予定している。実習参加費（一人50,000円程度）が必要となる。</p> <p>実習日程：2024年2月18日から21日（3泊4日）</p> <p>COVID-19の感染拡大状況などを考慮して、実施内容を変更する可能性がある。変更した場合でも、履修継続できることを前提として履修を決定すること。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、事業運営力、リーダーシップ (実技力、コミュニケーション力、一般教養 ・倫理)	授業期間		定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表			
		■認知的領域	実習内容に対する理解、より実践的な指導に必要な専門的知識を身につける。	○		○		○ (日誌)	30
		■情意的領域	積極的に授業に参加する。実習の参加状況。	○				○ (日誌)	30
■技能的領域	実践体験を通じて、スキー技能を習得する。	○	○					40	
成績評価の基準	実習参加前後でのレポート評価、実習先での参加状況と評価から総合的に評価する。								
テキスト、教材 参考書	日本スキー教程、公益財団法人全日本スキー連盟 山と溪谷社								
履修条件・ 関連科目	<p>実習日程：2024年2月18日から21日（3泊4日）</p> <p>場 所：新潟県妙高高原</p> <p>実習参加費として一人50,000円程度必要となる。後期（10月下旬）にガイダンスを行う。詳細については12月開催予定のガイダンスにおいて説明する。その際、実習参加費の一部として一人10,000円を徴収する。ガイダンスの日程等は別途メールにて通知する。メールは大学ドメインのメールアドレス宛に送信する。携帯電話に転送設定し、定期的にメールをチェックする、などの準備をしておくこと。実習の運営に支障があるため、無断でガイダンスを欠席した場合、当該者を参加者リストから自動的に除外する。定員に空きがある場合のみ、後期の履修登録変更期間中に履修希望者を追加募集する場合がある。</p>	備考(教員メッセージ含む)	実習日誌と手引きに基づいて課題レポートが要求される。						
オフィス・アワー	随時：坂口（大学院棟3F教官室1）事前にメールでアポイントをとること。tsakaguc@nifs-k.ac.jp								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	坂口 俊哉 高橋 仁大 日下 知明	スキー学習における基礎的な用語、理論、指導方法を学ぶ。また、用具の取り扱い、雪上での準備運動の方法、滑走方法を学ぶ。		学習した内容の振り返りのために、実習日誌への記入を行うこと。（60分）					
2	〃	講義1：雪国の暮らし スキーの歴史や、その背景にある自然環境に対する理解を深めることを目的とした講義		講義の感想を日誌にまとめる（60分）					
3	〃	講義2：スキー技術 スキーの技術、専門用語について学ぶ。		講義の感想を日誌にまとめる（60分）					
4	〃	講義3：スキーとツーリズム ニセコ、妙高高原などインバウンドの獲得を目指した最新の動向について学ぶ		講義の感想を日誌にまとめる（60分）					
5	〃	〃							
6	〃	〃							
7	〃	〃							
8	〃	〃							
9	〃	〃							
10	〃	〃							
11	〃	〃							
12	〃	〃							
13	〃	〃							
14	〃	〃							
15	〃			レポート作成（120分）					

授業科目名 (ナンバリングコード)	海洋スポーツ① (133A0-4218)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	榮樂 洋光・中村 夏実・笹子 悠歩				補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	40名			
授業の概要	<p>現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっています。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められています。</p> <p>そこで本授業では、まずは自らが海洋スポーツを楽しむことを前提とし、学習した海洋スポーツ種目について、安全性を認識し、判断力を持って自ら楽しみ、自ら片づけることができる能力を養います。</p> <p>そのために、以下の授業内容を展開します。 ①セーリング種目であるヨットおよびローイング系種目であるカヌーを中心に、初歩的な技術の習得をめざす。 ②安全性を認識し、判断力を持って活動するための、基礎的な海事知識を学ぶ。 ③必要な道具の準備・水洗い・収納方法を学ぶ。</p> <p>なお、本授業は2時間続きで行われます。定員は40名とし、20名ずつの2班に分かれてヨットとカヌーを交代で実施します。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (運動実技力、実技指導力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識および技術習得に必要な知識について理解する。筆記テスト20点、レポート30点(5点×6回)			○		○		50
■情意的領域	指導者およびリーダーの指示をよく理解し、準備、出艇、片付けに協力して、積極的に取り組む。	○						20	
■技能的領域	海洋スポーツに主体的に取り組むための判断力を養う。初歩的な技術を習得し、自ら準備し、自ら楽しむ、自ら片づけることができる。	○						30	
成績評価の基準	90点以上はS、80点～89点はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合には履修放棄とみなす。								
テキスト、教材参考書	海洋スポーツテキスト(鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」)、その他必要に応じて提供。								
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されているものは事前に相談してください。受講に関する条件・準備等は、掲示します。授業は2時間目と3時間目に連続して行われます。1日欠席すると2回分の欠席となります。試合等で3日以上欠席すると6回分の欠席となり、出席日数は不足します。履修の際にはこの点について十分に考慮してください。		備考(教員メッセージ含む)	1) 道具の都合上、40名以下の受講者数に限定します。海洋スポーツ①と②の両方を受講することはできません。 2) 天候により授業内容が変更されることがあります。 3) 授業は海洋スポーツセンターおよびセンター前の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限りません。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時。ただし事前に連絡してください。研究棟709室(榮樂)、研究棟710室(中村)、または海洋スポーツセンター(0994-47-2758)(E-mail) kaispo@nifs-k.ac.jp								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	榮樂 洋光 中村 夏実 笹子 悠歩	オリエンテーション・海洋スポーツに取り組むための基礎知識と態度(講義) 施設の利用法、用具の使い方、ピーチクリーンアップ、水慣れ(実技)			実施週の金曜までにレポート提出① 海洋スポーツについての事前学習とふりかえり(1時間)				
2	〃	準備、小型ヨットの艀装および出艇、着艇、帆走(1)、片付け			海洋スポーツについての事前学習とふりかえり(1時間)				
3	〃	準備、小型ヨットの艀装および出艇、着艇、帆走(2)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出② ヨットの基本について予習・復習(1時間)				
4	〃	準備、小型ヨットの転覆とリカバリー、片付け			ヨットの基本について予習・復習(1時間)				
5	〃	準備、小型ヨットの帆走(方向転換: タッキング)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出③ ヨットの基本について予習・復習②(1時間)				
6	〃	準備、小型ヨットの帆走(方向転換: ジャイビング)、片付け			ヨットの基本について予習・復習②(1時間)				
7	〃	準備、小型ヨットの帆走(風上・風下への帆走)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出④ ヨットに関する習得知識をまとめる(1時間)				
8	〃	準備、小型ヨットを用いたレース、片付け			ヨットに関する習得知識をまとめる(1時間)				
9	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし(シットオントップ)、片付け			カヌーの基本について予習・復習(1時間)				
10	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし(シングルカヤック)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出⑤ カヌーの基本について予習・復習(1時間)				
11	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け			カヌーの基本について予習・復習②(1時間)				

11	"	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
12	"	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑥ カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
13	"	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する習得知識をまとめる（1時間）
14	"	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する習得知識をまとめる（1時間）
15	"	準備、シングルカヤックの漕方とレクリエーション、片付け	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）
16	"	筆記テスト	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	海洋スポーツ② (133A0-4218)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	榮楽 洋光・中村 夏実・笹子 悠歩				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	40名程度		
授業の概要	<p>現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっています。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められています。</p> <p>そこで本授業では、まずは自らが海洋スポーツを楽しむことを前提とし、学習した海洋スポーツ種目について、安全性を認識し、判断力を持って自ら楽しみ、自ら片づけることができる能力を養います。</p> <p>そのために、以下の授業内容を展開します。 ①セーリング種目であるウィンドサーフィンおよびローイング系種目であるカヌーを中心に、初歩的な技術の習得をめざす。 ②安全性を認識し、判断力を持って活動するための、基礎的な海事知識を学ぶ。 ③必要な道具の準備・水洗い・収納方法を学ぶ。</p> <p>なお、本授業は2時間続きで行われます。定員は40名とし、20名ずつの2班に分かれてウィンドサーフィンとカヌーを交代で実施します。</p>							
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (運動実技力、実技指導力)	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識および、技術習得に必要な知識について理解する。筆記テスト20点、レポート30点(5点×6回)			○		○	50
■情意的領域	指導者およびリーダーの指示をよく理解し、準備、出艇、片付けに協力して、積極的に取り組む	○					20	
■技能的領域	海洋スポーツに主体的に取り組むための判断力を養う。初歩的な技術を習得し、自ら準備し、自ら楽しめ、自ら片づけることができる。	○					30	
成績評価の基準	90点以上はS、80点～89点はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合には履修放棄とみなす。							
テキスト、教材参考書	海洋スポーツテキスト(鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」)、その他必要に応じて提供。							
履修条件・関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されているものは事前に相談してください。受講に関する条件・準備等は、掲示します。授業は2時間目と3時間目に連続して行われます。1日欠席すると2回分の欠席となります。試合等で3日以上欠席すると6回分の欠席となり、出席日数は不足します。履修の際にはこの点について十分に考慮してください。		備考(教員メッセージ含む)	1) 道具の都合上、40名以下の受講者数に限定します。海洋スポーツ①と②の両方を受講することはできません。 2) 天候により授業内容が変更されることがあります。 3) 授業は海洋スポーツセンターおよびセンター前の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限りません。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	随時。ただし事前に連絡してください。研究棟709室(榮楽)、研究棟710室(中村)、または海洋スポーツセンター(0994-47-2758)(E-mail) kaispo@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	榮楽 洋光 中村 夏実 笹子 悠歩	オリエンテーション・海洋スポーツに取り組むための基礎知識と態度(講義) 施設の利用法、用具の使い方、ピーチクリーンアップ、水慣れ(実技)			実施週の金曜までにレポート提出① 海洋スポーツについての事前学習とふりかえり(1時間)			
2	〃	準備、ウィンドサーフィンの艦装、出艇、着艇、プレセーリング動作の習得、片付け			海洋スポーツについての事前学習とふりかえり(1時間)			
3	〃	準備、ウィンドサーフィンの艦装、出艇、着艇、帆走、リカバリー、片付け(1)			実施週の金曜までにレポート提出② ウィンドサーフィンの基本について予習・復習(1時間)			
4	〃	準備、ウィンドサーフィンの艦装、出艇、着艇、帆走、リカバリー、片付け(2)			ウィンドサーフィンの基本について予習・復習(1時間)			
5	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走(方向転換:タッキング)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出③ ウィンドサーフィンの基本について予習・復習②(1時間)			
6	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走(方向転換:ジャイビング)、片付け			ウィンドサーフィンの基本について予習・復習②(1時間)			
7	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走(風上・風下への帆走)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出④ ウィンドサーフィンに関する基礎知識をまとめる(1時間)			
8	〃	準備、ウィンドサーフィンを用いたレース、片付け			ウィンドサーフィンに関する基礎知識をまとめる(1時間)			
9	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし(シットオントップ)、片付け			カヌーの基本について予習・復習(1時間)			
10	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし(シットオントップ)、片付け			実施週の金曜までにレポート提出⑤ カヌーの基本について予習・復習(1時間)			

11	"	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
12	"	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑥ カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
13	"	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する基礎知識をまとめる（1時間）
14	"	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する基礎知識をまとめる（1時間）
15	"	準備、シングルカヤックの漕方とレクリエーション、片付け	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）
16	"	筆記テスト	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ラグビー (133A0-4303)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)				
担当教員名	森下 大輔			補助担当者名					
単位数	1 単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	4 5 名程度				
授業の概要	ラグビーの歴史やプレーの原則、競技規則を学習し、ラグビーの理解を深めることができる。 ラグビーの基本的な個人及びチーム技術や特性を学習し、安全かつ楽しくラグビーをプレーすることができる。 ラグビーを安全に実施していくための指導方法を学習し、計画的な練習やゲーム運営ができるようになる。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (実技力、実技指導力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ラグビーの歴史を学習する ・ラグビーの競技規則を学習する ・ラグビー憲章を通してゲームの原則を学ぶ	○		○				25
■情意的領域	・積極的かつ自発的に授業、課題、ゲームに取り組むことができる	○						25	
■技能的領域	・パス、キック、ランニング、スクラム、ラインアウト、ディフェンスの基本技術を習得し身体表現ができる ・チーム戦術の考え方を習得する	○	○			○		50	
成績評価の基準	授業への参加が2/3以上で、授業への取り組み、態度、技能テストの各合計点が60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	・競技規則については2021年度日本ラグビーフットボール協会競技規則ルールブックを参考とする ・その他必要に応じて資料を配布する								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッ セージ含む)	特になし。						
オフィス・アワー	森下：非常勤講師 成田：随時 研究棟8階 812教員研究室								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	森下 大輔	オリエンテーション ラグビーの歴史や基本ルールの理解	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧 (15分)						
2	〃	ラグビー競技に慣れるための各種ゲームⅠ	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧 (10分)						
3	〃	ラグビー競技に慣れるための各種ゲームⅡ	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧 (10分)						
4	〃	ランニングスキルの習得とゲーム	実施した講義内容の復習 (10分)						
5	〃	ハンドリングスキルの習得Ⅰとゲーム	実施した講義内容の復習 (10分)						
6	〃	ハンドリングスキルの習得Ⅱとゲーム	実施した講義内容の復習 (10分)						
7	〃	キッキングスキルの習得とゲーム	実施した講義内容の復習 (10分)						
8	〃	競技規則 (ルール) の理解と競技場作りについて	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の1頁～28頁 を閲覧(30分)						
9	〃	ゲームの開始と再開Ⅰ：キックオフとドロップアウトとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の59頁～62頁 を閲覧(15分)						
10	〃	ゲームの開始と再開Ⅱ：スクラムとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の92頁～101 頁を閲覧(15分)						
11	〃	ゲームの開始と再開Ⅲ：ラインアウトとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の78頁～91頁 を閲覧(15分)						
12	〃	ゲームの開始と再開Ⅳ：ペナルティとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の102頁～10 6頁を閲覧(15分)						
13	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅰ	各チーム戦術振り返り (15分)						
14	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅱ	各チーム戦術振り返り (15分)						
15	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅲ	各チーム戦術振り返り (15分)						
16	〃	学期末試験 (実技テスト)							

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゴルフ① (133A0-4324)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	川野 健一・山口 大貴				補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	4年次		受け入れ人数	30			
授業の概要	ゴルフの基本的な技術（スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった技術）を習得すること。ルールやマナーについての認識を深めることを目指す。 またショートゴルフ場でラウンド指導も行う。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ゴルフの理論、歴史、マナー、ルールに関する知識の理解と習得。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業に参加する	○						80
■技能的領域	スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった基本的なショットを70%程度の正確差に実施できる。	○	○	○				10	
成績評価の基準	■授業への取り組み状況（90%） ■テスト（10%）を総合的に評価する。■出席の条件、1/3以上の欠席により単位は認定されない。								
テキスト、教材 参考書	授業中に配付するプリント。参考図書として、小林正義・片山健二著「ゴルフ指導教本」大修館書店、「PGA基本ゴルフ教本」（公）日本プロゴルフ協会@2,415円 ゴルフ規則プレーヤーズ版（公）日本ゴルフ協会 定価600円（税別）								
履修条件・ 関連科目	第1回～7回：学内ゴルフ練習場（雨天時はバドミントン練習室） 第8回～9回：近隣のショートゴルフ場でコース実習を実施 第8回、第9回のラウンド指導は1限～4限で実施。2回にわたり、1日をとって実施するので、木曜開講の他の授業は履修できない。 また、ショートゴルフ場の使用料が2回で1,200円前後必要となる。 注）第8回（6月8日予定）、9回（6月15日予定）は4コマとしてカウントするため、1回の欠席で4回分の欠席となる 注）教育実習を予定している場合は、コース実習実施日を確認のうえ履修すること		備考(教員メッセージ含む)	第8回目（6月8日予定）及び9回目（6月15日予定）の授業は学外のショートゴルフ場で実施するので大学のバス等の使用が必要となる。 コース実習の予備日：6月22日 ○実務経験のある教員による授業科目：プロゴルファー					
オフィス・アワー	随時（前もって各教員に連絡する）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	川野 健一 山口 大貴	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スイングの基本理論			復習（1時間）、練習場				
2	〃	ショート・アイアン 練習1 ルール、エチケット			復習（1時間）、練習場				
3	〃	ショート・アイアン 練習2、ルール、エチケット			復習（1時間）、練習場				
4	〃	ミドルアイアン 練習1、ルール、エチケット			ゴルフトーナメントの観戦（1時間）				
5	〃	ミドルアイアン 練習2（斜面打ち）（バンカー）			ゴルフトーナメントの観戦（1時間）				
6	〃	ロング・アイアン、フェアウェイウッド、ドライバー練習			復習（1時間）、練習場				
7	〃	パター練習、バンカー、ルール、エチケット			復習（1時間）、練習場				
8	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット、ビデオ			アプローチ、パター、バンカー（1時間）、練習場				
9	〃	実践練習：ショートコース、ルール、エチケット			アプローチ、パター、バンカー（1時間）、練習場				
10	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			アプローチ、パター、バンカー（1時間）練習場				
11	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			アプローチ、パター、バンカー（1時間）練習場				
12	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）				
13	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）				
14	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）				
15	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット/試験			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゴルフ② (133A0-4324)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	川野 健一・山口 大貴				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	4年次		受け入れ人数	30		
授業の概要	ゴルフの基本的な技術（スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった技術）を習得すること。ルールやマナーについての認識を深めることを目指す。 またショートゴルフ場でラウンド指導も行う。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	ゴルフの理論、歴史、マナー、ルールに関する知識の理解と習得。	○					10
	■情意的領域	積極的に授業に参加する	○					80
■技能的領域	スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった基本的なショットを70%程度の正確差に実施できる。	○	○	○			10	
成績評価の基準	■授業への取り組み状況（90%） ■テスト（10%）を総合的に評価する。■出席の条件、1/3以上の欠席により単位は認定されない。							
テキスト、教材 参考書	授業中に配付するプリント。参考図書として、小林正義・片山健二著「ゴルフ指導教本」大修館書店、「PGA基本ゴルフ教本」（公）日本プロゴルフ協会@2,415円 ゴルフ規則プレーヤーズ版（公）日本ゴルフ協会 定価600円（税別）							
履修条件・ 関連科目	第1回～7回：学内ゴルフ練習場（雨天時はバドミントン練習室） 第8回～9回：近隣のショートゴルフ場でコース実習を実施 第8回、第9回のラウンド指導は1限～4限で実施。2回にわたり、1日をとって実施するので、木曜開講の他の授業は履修できない。 また、ショートゴルフ場の使用料が2回で1,200円前後必要となる。 注）第8回（6月8日予定）、9回（6月15日予定）は4コマとしてカウントするため、1回の欠席で4回分の欠席となる 注）教育実習を予定している場合は、コース実習実施日を確認のうえ履修すること	備考(教員メッセージ含む)	8回目（12月8日予定）及び9回目（12月15日予定）の授業は学外のショートゴルフ場で実施するので大学のバス等の使用が必要となる。 コース実習の予備日：12月22日予定 ○実務経験のある教員による授業科目：プロゴルファー					
オフィス・アワー	随時（前もって各教員に連絡する）							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	川野 健一 山口 大貴	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スイングの基本理論			復習（1時間）、練習場			
2	〃	ショート・アイアン 練習1 ルール、エチケット			復習（1時間）、練習場			
3	〃	ショート・アイアン 練習2、ルール、エチケット			復習（1時間）、練習場			
4	〃	ミドルアイアン 練習1、ルール、エチケット			ゴルフトーナメントの観戦（1時間）			
5	〃	ミドルアイアン 練習2（斜面打ち）（バンカー）			ゴルフトーナメントの観戦（1時間）			
6	〃	ロング・アイアン、フェアウェイウッド、ドライバー練習			復習（1時間）、練習場			
7	〃	パター練習、バンカー、ルール、エチケット			復習（1時間）、練習場			
8	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット、ビデオ			アプローチ、パター、バンカー（1時間）、練習場			
9	〃	実践練習：ショートコース、ルール、エチケット			アプローチ、パター、バンカー（1時間）、練習場			
10	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			アプローチ、パター、バンカー（1時間）練習場			
11	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			アプローチ、パター、バンカー（1時間）練習場			
12	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）			
13	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）			
14	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）			
15	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット/試験			コース戦略論 イメージトレーニング（30分）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	なぎなた (133A0-4325)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	下川 美佳・上野 千代子				補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	4	受け入れ人数	20				
授業の概要	<p>本科目はなぎなたに関する基礎的な実技力を身につける科目である。 日本の伝統文化としての特性を理解させ、正しい基本動作や応用技能を学ぶことを目的とする。 具体的には、バランスのとれた体とよい姿勢、旺盛な気力と活力、礼儀を重んじ相手を尊ぶ心が養われることが期待される。</p>								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (実技力、実技指導力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・なぎなたにふれ歴史、特徴、練習方法を理解できる。 ・伝統的な考え方と行動の仕方を理解できる。	○		○				20
■情意的領域	・礼儀作法を学び相手を尊重し技を教え合い互いに協力できるようになる。 ・健康、安全に気を配ることができるようになる。	○		○				30	
■技能的領域	・基本動作を正しく学び、気剣体の一致した打突ができるようになる。	○		○		○		50	
成績評価の基準	授業態度、実技およびレポートなどを判断・評価し、60点以上を合格とする。								
テキスト、教材 参考書	楽しいなぎなたの授業(財)全日本なぎなた連盟 初心者のためのなぎなた(関連実技科目テキスト)								
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	手ぬぐい(日本タオル)を準備すること。 学期末試験とは別に希望者には、昇段試験を実施する。 ※新型コロナウイルス感染症対策と状況によってはシラバスを変更する場合があります(Web Classで連絡します)。						
オフィス・アワー	授業実施日の授業前後の時間帯(武道館) 下川:木曜日 15:00-16:00(研究棟5階 505教員研究室)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	下川 美佳 上野 千代子	オリエンテーション(特性・歴史・計画) 礼法と用具の扱い方			なぎなたの特性と歴史や礼法に関する復習 テキストP1、P4、P5・P8、P22、P23 30分以上				
2	下川 美佳	1.基本動作I (1)各種構えの説明 (2)なぎなたの振り方、足さばき			基本動作の予習 テキストP8・P12 20分以上				
3	下川 美佳 上野 千代子	2.基本動作II (1)打突部位、操作法 (2)打突法 (3)受け方			基本動作の復習とまとめ テキストP8・P12 30分以上				
4	下川 美佳	3.基本打突と応用技能 (1)打ち返し (2)しかけ技 (3)応じ方			基本打突と応用技能の予習 テキストP13・P19 20分以上				
5	下川 美佳 上野 千代子	(4)しかけ応じ技(1~3本目)			しかけ応じ技 1~3本目の復習 テキストP13・P16 20分以上				
6	下川 美佳	"			しかけ応じ技 1~3本目の復習と4~5本目の予習 テキストP13・P19 20分以上				
7	下川 美佳 上野 千代子	"(4~5本目)			しかけ応じ技 4~5本目の復習 テキストP17・P19 20分以上				
8	下川 美佳	"(1~5本目、演技競技試合)			しかけ応じ技(1~5本目)のまとめ 20分以上 レポート(1~8回分)の作成 40分以上				
9	下川 美佳 上野 千代子	4.防具をつけての打突法と稽古 (1)防具のつけ方 (2)防具をつけての打突法 (3)稽古			打突部位の予習 テキストP20、P24 20分				
10	下川 美佳	"			打突法と稽古の予習および復習 テキストP20、P21 20分以上				
11	"	"			防具をつけての打突法と稽古に関するまとめ テキストP20、P21 20分以上				
12	下川 美佳 上野 千代子	5.試合と審判 (1)なぎなたの審判について (2)試合競技 (3)演技競技			審判方法に関する予習 1時間以上				

13	下川 美佳	〃	審判方法の復習 20分以上
14	〃	〃	試合と審判に関するまとめ 20分以上 レポート(9~14回分)の作成 40分以上
15	下川 美佳 上野 千代子	6.全日本の形	レポート(1~15回分に関わる)の作成 1時間以上
16	〃	学期末試験(実技による評価)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	相撲 (133A0-4326)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	諸木 悦朗				補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	2年次		受け入れ人数	30名程度		
授業の概要	武道相撲は、日本の伝統文化である。その基礎となる礼法・鍛錬法と相撲の特性を修得し、心技体の錬磨により人間形成を図る。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	相撲に触れ、歴史・練習方法を習得する 指導方法において高レベルの方法を習得する	○	○	○			30
■情意的領域	勝者や敗者に向けて、手を差し伸べる精神を作る 相手を思いやる気持ちを養う	○					30	
■技能的領域	基本動作を正しく学び、心・技・体の業を身に付ける 審判規定・基本試合の形式を学ぶ	○		○		○	40	
成績評価の基準	実技に関する基本動作並びに出席状況、授業態度、レポート提出及び小テストの総合得点で成績は評価する。							
テキスト、教材 参考書	二ツ森修ほか著「基礎から学ぶ相撲」(図書刊行会) 藤川武夫ほか著「アマチュア相撲」(技興社)							
履修条件・ 関連科目	柔道の受け身等を習得しておくべきである スパッツ、短パンの着用、必ずタオルを持参のこと	備考(教員メッ セージ含む)	日本相撲連盟初段取得を目標とする。					
オフィス・アワー	授業実施日の時間 12:30~16:00(相撲道場)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	諸木 悦朗	オリエンテーション、相撲の起源、土俵論			「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。(30分)			
2	"	まわしの締め方、礼法(蹲踞、塵浄水)			課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。(30分)			
3	"	基本動作(四股、腰割、開脚、調体)			課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。(30分)			
4	"	基本動作(受け身、運び足)			課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。(30分)			
5	"	対人的技能(押し、突き、寄り)			「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。(30分)			
6	"	ぶつかり稽古、組み手、前さばき			「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。(30分)			
7	"	立ち会いの種類、構え			課外活動等を活用して、授業内容の復習と柔軟トレーニングを行う。(30分)			
8	"	差し手の極め方			「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。(30分)			
9	"	決まり手			「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。(30分)			
10	"	禁じ手、危険な組み手			「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。(30分)			
11	"	審判規定			「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。(30分)			
12	"	主審のあり方			「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。(30分)			
13	"	基本試合			課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。(30分)			
14	"	基本試合			課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。(30分)			
15	"	基本試合			課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。(30分)			
16	"	学期末試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	弓道 (133A0-4327)		授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	柚木 秀一				補助担当者名			
単位数	1 単位		履修年次	2,4年次	受け入れ人数	20名程度		
授業の概要	日本古来の武道である弓道を修練する場合、その基準となり法則となっている射法を理解して、一本の矢を射る過程を全日本弓道連盟が定めている基本動作を始めとする諸動作、そして射法八節を中心とする射法、射技の基本を実技により習熟させる。また、弓具の名称、取り扱い方を熟知させる。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力	授業期間				定期 試験	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表		
	■認知的領域	弓道習得の過程において心身を鍛錬しながら人間完成を図る。	○					20
	■情意的領域	伝統的な武道として礼節を重んじて、他との融和を図り、真善美を追求する。	○					30
■技能的領域	射法八節に基づき1手(2本)を行射する要領を習得する。	○	○	○			50	
成績評価の基準	出席回数が3分の2以上で、射法八節の習熟度、授業への取り組み状況等を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。							
テキスト、教材 参考書	参考書 : 全日本弓道連盟発行「弓道教本 第1巻 射法編」							
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)	1 弓道場内は素足禁止。 2 長髪は後ろで束ねること。 3 胸部がダブつく服装は控えること。				
オフィス・アワー	授業実施日の授業前後の時間帯(弓道場)							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	柚木 秀一	オリエンテーション(心構え、弓道場でのマナー) ・日本の弓の歴史と現代の弓道の目的、弓具の名称及び取扱い ・射法八節の説明 ・徒手による射法八節の実技			実施した実技内容を復習する(15分)			
2	〃	ゴム弓による射法八節の実技及び基本動作 ①			実施した実技内容を復習する(15分)			
3	〃	ゴム弓による射法八節の実技及び基本動作 ②			実施した実技内容を復習する(15分)			
4	〃	素引きによる射法八節の実技及び基本動作 ①			実施した実技内容を復習する(15分)			
5	〃	素引きによる射法八節の実技及び基本動作 ②			実施した実技内容を復習する(15分)			
6	〃	矢を番えて引く射法八節の実技及び基本動作			実施した実技内容を復習する(15分)			
7	〃	大的での射法八節の実技及び基本動作 ①			実施した実技内容を復習する(15分)			
8	〃	大的での射法八節の実技及び基本動作 ②			実施した実技内容を復習する(15分)			
9	〃	大的での射法八節の実技及び基本動作 ③			実施した実技内容を復習する(15分)			
10	〃	矢道の中ほどから、立射による射法八節の実技及び基本動作 ①			実施した実技内容を復習する(15分)			
11	〃	矢道の中ほどから、立射による射法八節の実技及び基本動作 ②			実施した実技内容を復習する(15分)			
12	〃	矢道の中ほどから、立射による射法八節の実技及び基本動作 ③			実施した実技内容を復習する(15分)			
13	〃	射場から、立射による射法八節の実技及び基本動作 ①			実施した実技内容を復習する(15分)			
14	〃	射場から、立射による射法八節の実技及び基本動作 ②			実施した実技内容を復習する(15分)			
15	〃	立射による射法八節の実技及び基本動作の実技試験						

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外活動 (133A0-4229)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)			
担当教員名	坂口 俊哉・未 定			補助担当者名				
単位数	1 単位	履修年次	2	受け入れ人数	10			
授業の概要	野外教育分野では、野外活動体験を通じた学習を重視している。この授業では、野外活動を指導する上で必要な基礎的技術を身につけることを目標として様々な活動に取り組む。また、活動場所となる施設の特性に対する理解を深めると同時に、野外での活動を安全に実施するためのポイントについても理解することが期待される。							
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (専門的な知識・教養)	授業期間				割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表		定期 試験
	■認知的領域	・野外での炊事についての知識を身につける。 ・地図やコンパスなどの使い方を理解する。 ・活動内容の内容と背景にある危険について理解する。			○			30
	■情意的領域	・意欲的に活動に取り組む。 ・野外教育施設の利用マナーを守ろうとする。 ・積極的なコミュニケーションに努める。 ・他者への協力的な姿勢。	○					20
■技能的領域	・薪を使った炊事を安全にできる。 ・安全確保のために必要なロープワークができる。 ・地図とコンパスを使ったナビゲーションができる。	○	○		○		50	
成績評価の基準	授業は全部で8週(16コマ分)開講されます。そのため3週欠席した場合、単位認定の対象となりません。授業時間の取り組み、レポート、技能テストの得点を合計して60点以上の場合に合格とします。							
テキスト、教材 参考書	実際に野外活動を行う上で支障のない服装、装備を準備すること。雨具、手袋(軍手、革手袋)を各自で準備すること。教材費を実費にて徴収する。							
履修条件・ 関連科目	3年次開講の学外指導実習で「野外教育施設」での実習を希望する学生については、この授業を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	「大隅青少年自然の家」へバスで移動して授業を行う。毎回10:10に水野講堂前からバスが出発する。乗り遅れると欠席の扱いとなる。COVID-19の感染拡大状況、天候の悪化、他の利用団体との調整により、シラバス通りの授業内容とならない場合もある。					
オフィス・アワー	授業に関する相談は、必要に応じて随時受け付けています。メールによる連絡が確実です。以下のアドレス宛にメールを下さい。 tsakaguc@nifs-k.ac.jp							
授業計画								
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	坂口 俊哉 未 定	ガイダンス(授業内容、受講のための準備、受講の心得) ナビゲーションスキル入門(地図・コンパスの使い方) イニシアティブゲーム						
2	"	スポーツクライミング(1)安全な活動のための基礎知識習得、必要な用具の種類、名称、トラバース、トップロープクライミング			課題1:地図とコンパスを用いて現在地を特定するための方法について調べ、説明できる資料を提出する。(60分)			
3	"	野外調理(1):羽釜とガスバーナーでご飯を炊く(火器の安全な使用方法の習得、炊飯の水加減)						
4	"	スポーツクライミング(2) トップロープクライミング			課題2:無洗米を炊く場合の注意点についてレポートする。(60分)			
5	"	野外調理(2):羽釜と薪でご飯を炊く(火起こしの技術習得)						
6	"	スポーツクライミング(3):安全なビレイのための基礎、トップロープクライミング			課題3:フリークライミング、エイドクライミング、リードクライミング、トップロープクライミング、ボルダリングの各用語についてその意味を調べてレポートする。(60分)			
7	"	野外調理(3):飯盒と薪でご飯を炊く(飯盒の使い方の習得)						
8	"	スポーツクライミング(4):トップロープによるクライミング、グレードへの挑戦			課題4:野外で行われるクライミング活動において、活動環境を維持する上で配慮が必要なことを調べレポートすること。(60分)			
9	"	野外調理(4):飯盒と炭でご飯を炊く(炭の火起こし技術の習得)						
10	"	スポーツクライミング(5):ビレイヤー体験、安全確保の理解と実践			課題5:オリエンテーリングの歴史、種類、必要な道具について調べレポートすること。(60分)			
11	"	野外調理(5):自由調理 アウトドアクッキングを楽しむ。各自メニューを考え食材を準備する。						
12	"	スポーツクライミング(6) ビレイ技術の確認			課題6:ビレイの方法について解説するマニュアルを作成すること。			
13	"	オリエンテーリング(1):スコアオリエンテーリングの体験			課題6:コントロールの写真をマップ上に配置した地図の作成(60分)			

14	〃	オリエンテーリング(2):前回の続き	課題7：マップを完成させて提出する(60分)
15	〃	ふりかえり:授業内容の確認と共有	
16	〃	筆記テスト・実技テスト	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力トレーニング (133A0-4330)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)		
担当教員名	瓜田 吉久・松村 勲・小森 大輔・山口 大貴			補助担当者名			
単位数	1 単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度		
授業の概要	本授業では、体力を向上するための各種トレーニング方法について教授するとともに、トレーニングの体験・経験を通して理解を深め、パフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、学んだことを駆使しながら、学習者を「できるようにさせる」ための体験・経験を通して実技指導力の向上を図る。さらに、学習内容や授業で見つけた「動きのコツ」や「学習上の問題」等をまとめてレポートを提出させる。これにより、指導する種目や学習者の状況に応じてトレーニング法を改善・創造し、指導できるという自信と量が身につくことが期待される。その他、持久力のトレーニングにおいては、中学・高校の長距離走（持久走）の授業に対応する内容を展開する。						
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標		成績評価の方法				
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力 (専門的な知識・教養、科学的表現力)	授業期間		定期 試験	割合 %	
			授業	テスト			レポート
	■認知的領域	・スポーツに要求される体力を向上させるための基礎的なトレーニングの理論を理解している。 ・指導する種目について、学習者の状況に応じてトレーニング法を改善し、指導できるとい見通しを獲得している	○		○		
■情意的領域	・積極的に授業に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとする。	○					20
■技能的領域	・スポーツに要求される体力を向上させるための基礎的なトレーニング法を体得し、模範が示せる。 ・体力トレーニング法の体験・経験を通して指導できる。	○	○				40
成績評価の基準	授業への積極的な参加及び取り組み、実技テストにおける技能習得度、実技実習後に提出するレポート等によって総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。						
テキスト、教材 参考書	授業開始時に実技実習のテキストや資料等を配付する。						
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、身体科学論、運動生理学	備考(教員メッ セージ含む)	受講者数によっては、グループ分けをして授業を実施する。その場合、途中で担当者が交代することがある。レポート提出有り。				
オフィス・アワー	瓜田：月曜日 14：00～15：00 研究棟8階 802教員研究室 松村：随時 研究棟3階 310教員研究室 ※事前にメールでアポを取ること 小森：随時 研究棟8階 805教員研究室 山口：月曜日 14：00～15：00 研究棟8階 803教員研究室						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	小森 大輔	スピード・パワーのトレーニングⅠ (反応スピード・動作スピードのトレーニング)	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
2	〃	スピード・パワーのトレーニングⅡ (スプリントパワーのトレーニング)	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
3	〃	スピード・パワーのトレーニングⅢ (フットワークのトレーニング)	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
4	〃	スピード・パワーのトレーニングⅣ (プライオメトリックトレーニング)	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
5	瓜田 吉久	レジスタンストレーニングⅠ (ウエイトトレーニングのやり方を知ろう①：全身パワー系種目の動作習得)	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
6	〃	レジスタンストレーニングⅡ (ウエイトトレーニングのやり方を知ろう②：上半身並びに下半身系種目の動作習得)	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
7	〃	レジスタンストレーニングⅢ (ウエイトトレーニングのやり方を知ろう③：ウエイトトレーニングプログラムを体験しよう。トレーニングマシンの使い方を知らう)	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
8	〃	レジスタンストレーニングⅣ (ウエイトトレーニングのやり方を知ろう④：ウエイトトレーニングの動作評価を体験しよう。ウエイトトレーニングの技能を評価する)	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
9	松村 勲	持久力のトレーニングⅠ (持久力の評価とその処方)	事前に配付する資料等をもちに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)				
10	〃	持久力のトレーニングⅡ (持久力トレーニングの強度体験)	事前に配付する資料等をもちに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)				

11	〃	持久力のトレーニングⅢ (タバタ・プロトコル体験)	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)
12	〃	柔軟性のトレーニング	実際の競技場面で活かせるように考えよう！(1時間)
13	山口 大貴	総合的体力トレーニングⅠ (サーキット・トレーニングの測定)	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)
14	〃	総合的体力トレーニングⅡ (サーキット・トレーニングの体験)	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)
15	〃	総合的体力トレーニングⅢ	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。(1時間)